Road to 総理大臣甲子園

HideoJapan's Blog

From Jan 4 to Feb 20, 2012

転生記念新春特別プレゼント1/2 - 2012.01.04 Wed

I have read somewhere else that Mr. Romney said;
"When the president's characterization of our economy was, 'It could be worse,' it reminded me of Marie Antoinette: 'Let them eat cake,'" Romney said, referring to the infamously dismissive remark toward the poor attributed to the queen.
I am stunned not only by his statement but also by the fact that he is a front runner of Republican primary, which means that there are many Americans who can't or don't read this particular editorial as it is. This is scary.
（共和党大統領候補のトップを走る）ロムニー氏が、オバマ大統領が以前述べた、「経済はもっと悪くなるかもしれない」をマリー・アントワネットに例えて、“貧乏人には、ケーキを食べされればいい”を思い出したという話をどこかで読んだ。
彼の言葉に驚くと同時に、（共和党が大統領の政策にことごとく反対して経済がおかしくなったという事実を書いた）この社説を理解できない、或いは受け入れることができないアメリカ人が多いことに恐れを抱く。

これは、転生3時間半前（31日）、ニューヨークタイムズへの私の投稿（**#136**）である。
共和党は市場原理主義である。日本も世界も、またアメリカの犠牲になることになる。
私は、それが恐ろしい。

日本訳にある（　　）がなければ、英文の意味が理解できない人は多いと思う。

今年11月6日、オバマ大統領の再選なるかどうかの選挙がある。現在、共和党候補を決めるプライマリー（primary）の真っ最中だ。今後、日本メディアの報道も多くなる。その報道を読んで真意がわかるだろうか？鵜呑みにして大丈夫なのだろうか？

2011年世界のあらゆる国で起きた抗議活動は、我々がパラダイム・シフトの真っ只中にいることの証である。
2012年のアメリカ大統領選挙は、世界のパラダイム・シフトが正しい方向に進むかどうか決定づける象徴的なイベントになる。決して他人事ではない。

そのためのプレゼント。

電子出版用に表紙は作った。しかし、pdfではリンクがはたらかない。ワードでと思って試したが、今度は画像の処理が難しい。
そこで妥協案。

ここをクリックすると2010年5月のカレンダーがある。このシリーズの初回は**5**月**3**日、毎週月曜日9月17日まで20回である。（表紙のクリックでも可）

アメリカで考えられもしなかった黒人大統領誕生の秘話と2009年1月21日就任後20ヶ月、信頼できるニュース・ソースを基に独自手法で分析した準インサイド・ストーリーである。
ブログ開始の2010年春、メキシコ湾でBP（British Petroleum）の石油掘削装置（リグ；rig）が爆発して史上最悪の原油流出事件が発生した。

ブログ第一回で石油流出を取り上げているのは、ホットな話題の真っ只中でブログがスタートしたからである。

政治は人間模様が織り成すドラマである。
ほとんど無名のオバマ上院議員を大統領にまで押し上げた若い戦略家たちの密度の濃い人間関係がブログのテーマである。不可能を可能にした彼らの生き生きした姿と古い政治体質に直面して苦悩する彼らの姿が少しでも伝われば幸いである。

尚、一部のリンクには現在存在しないものもあるのでご承知願いたい。
あなたにとって良い一年になることをお祈りする。

私が貰ったお年玉：東大にもお分け - 2012.01.05 Thu

チャイコフスキー、バイオリン協奏曲。ブタペスト交響楽団。10回観て15回泣いた。
映画　オーケストラ。
東大！日本にこのハーモニーをお願いしたい。

（画像をクリックすると音楽が聴けるサイトに飛ぶ）

ワシントンポストのオピニオン・ライター、ミルバンク氏（**Dana Milbank**）が、2011年を振り返って予測の間違いもいくつかあったが、他の批評家に較べて自分の予測精度は高いというコラムを書いた。自慢半分、反省半分のようなものだが、勿論自慢だ。
「**A few cracks in my crystal ball**」

反省をそのまま素直に受け取って、以下のコメントを投稿した。

I am sure　that you will have Happy New Year. This is not a wish but my prediction because of your honest and excellent year-end column.
（彼が使ったwishとpredictionをもじって）あなたは、良い年を迎えるのは確かでしょう。これはwishでなくprediction　です。正直ですばらしい年末のコラムを書いたからです。
“If there’s a pattern to my hits and misses ― other than dumb luck ― it’s the distinction between making predictions based on specific events and recognizing broad trends.”
“運を除いて、私の予測の当たり外れにパターンがあるとするなら、それは、それぞれの出来事と大きな流れに基づいて予測したかどうかという点にある。”（というあなたの分析に対する私の意見はこうだ。）
It is important to make hypothetical strategy of a person (not yours) under broad trends at first. Your opinion or ideology has nothing to do with the hypothesis. Then, you must weigh in specific events comparing with it. This is what is called “mental model approach” for inference in psychology and

cognitive science.
最初に大きな流れを見て、予測する人の戦略仮説（あなたのじゃありません）を立てることが重要です。あなたの意見や思想は仮説と何の関係もありません。その上で、仮説と比較しながらそれぞれの出来事を推し量るのです。これは、心理学と認知科学でいうところの予測のための“メンタル・モデルアプローチ”です。
Thank you again for the inspiring confession.
考えさせられた告白に感謝します。

ほとんどの人には意味不明のコメントの筈だ。目的はそれを確認するためだった。

論文「イノベーションのメンタル・モデル」を読んだあなたならピンとくる。
私をrecommendした人がひとりだけいた。少なくとも数万人は目にしたはずだが、たったひとり。確認したい人は、全コメントをクリックして新しい順にしてロールダウンしていくとこの写真が出てくる。ニックネームは**beholdingeyes**.　ツイッターと同じ。

ひとりいたのをお年玉と思ったのではない。
知らない人が99.99%ということを確認できたのが私にとってのお年玉だ。

Milbank氏の経歴は光輝くダイアモンド。

Dana Timothy Milbank (born April 27, 1968) is a columnist for The Washington Post
He is a graduate of Yale University, where he was a member of Trumbull College, the Progressive Party of **the Yale Political Union** and the secret society **Skull and Bones**.
Yale University is an American private Ivy League research university located in New Haven, Connecticut, United States. Founded in 1701 in the Colony of Connecticut, the university is the third-oldest institution of higher education in the United States. Yale Law School is consistently ranked among the top law schools in the United States, while the university is ranked among the top universities in the world.　Yale is considered one of the Big Three in the United States, along with Harvard and Princeton.
エール大学は、設立1701年、アメリカで3番目に歴史のある大学。エール大学の法学部は、常にアメリカのトップ・クラスに位置する。大学自体は世界のトップ・クラスである。アメリカでは、ハーバード大学、プリンストン大学と御三家を構成する。（骨子のみ）

ゴシック体については自分で調べたら良い。秘密結社みたいな話である。

エール大学は、つまり、東大みたいなものだ。

そこの優秀な卒業生であるMilbank氏ですら、予測に関してつまらないことしか言っていない。
忙しくて、メンタル・モデルと予測、戦略の関係など勉強する暇もない。この分野は緒についたばかりなので勉強しようとすれば膨大な時間を要する。
俺が無名だから信用ならないという奴が大部分だろうが、あの論文からキーワードを勝手に使ってグーグルしてみなさい。日本人の論文なんて全くないのがわかるから。
引用文献資料に日本人の研究がないのはそういう訳だ。

東大が偉い理由を三つ挙げる。

1）東大は、間違いを犯さない。だから、予測は不得意というより間違いを恐れてやらない。
2）東大は、反省しない。逆に開き直る。だから、創造的にはなり得ない。創造と偉さは無関係。
3）東大は、東大以外を無視する。だから、偉いままでいられる。

これは嫌味ではない。嫌味を言うのは止めた。真実は嫌味ではない。

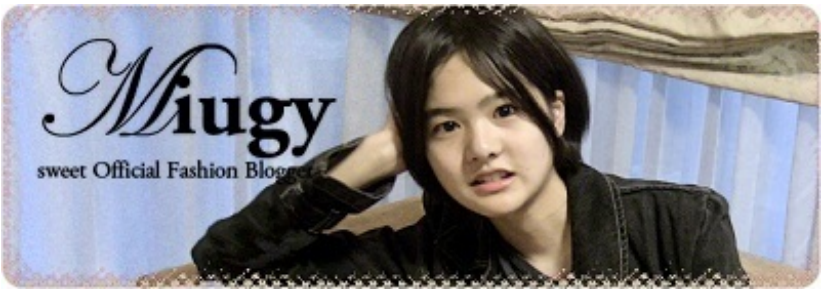
2）と3）に近いことは以前から指摘されている。しかし、それをいくら喚いてもどうにもならない。東大は気にもしない。
問題は**1**）だ。
Milbank氏のお陰で、東大讃歌のやり方に自信が持てた。お年玉ありがとう。
みなさんにもおすそ分け。ついでに東大にも。
次回、やり方書くので記憶してほしい。

ところで、オーケストラ見ました？
サウンドトラックCDを聴くと、演奏は勿論すばらしいのだが、映画の方がもっと感動する。視覚の効果が大きいことに気付いた。

転生記念新春特別プレゼント**2/2 - 2012.01.06 Fri**

97％受け狙いは認めます。
2011年度“セレブのバカつぶやき（**tweet**）大賞”を見事獲得した**Paris Hilton**さんです。
“No, no. I didn’t go to England. I went to London.”
・・・の一体何がバカなのでしょうかね。その通りじゃないですか。What's wrong with it? She said a right thing, didn't she?
（画像と情報提供は、以下のURL）
http://dailycaller.com/2011/12/28/top-10-the-dumbest-celeb-tweets-of-2011/#ixzz1iTq7rlvL

この二つの画像の提供元は、現役高校生デザイナーMiugyさんのサイトです。



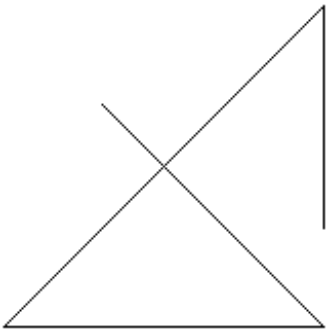
画像クリックで彼女のウェブ・サイトにジャンプできます。すごいセンスと才能！！！

振付師（choreographer）HideoJapanによれば、振り付けのセンスは、動きや姿勢を分析・直線化する時のひらめきによって決まるという。

それでは、もうひとつ画像を見て、これらに共通する美的な直線化を考えてください。あなたのひらめき度が問われます。

その答えが二つ目のプレゼントです。お受け取りください。

これです。



「えっ、何で？」

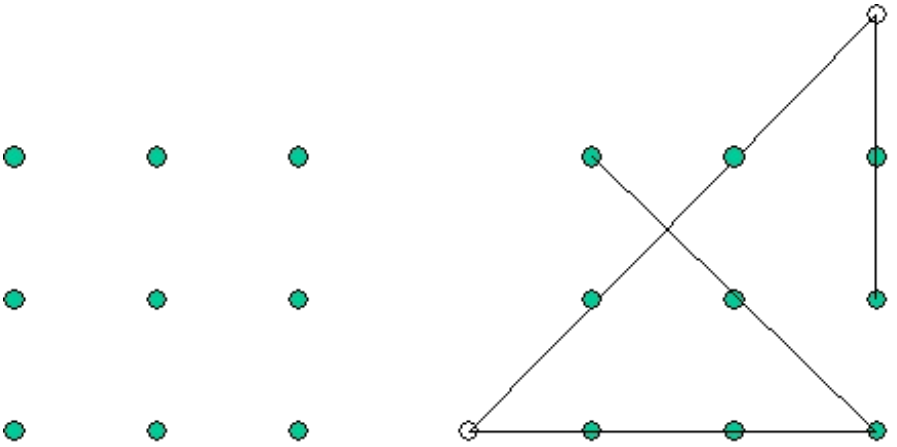
あなたもセンスないね。良く見てごらん。それでもわからない？

じゃぁ、これ見てごらんよ！（画像クリックで演奏あり）

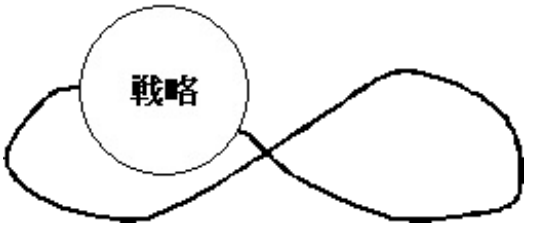
「きったねえ～。ベースのネックこじつけに使って～。」

こじつけじゃないの。これがセンス。

「その直線どこかで見たことがある・・・何だ。9点一筆書きじゃないですか。でもParisちゃんには当てはまらないでしょう？」



くねくねが同じ。これが、残り3%の意味。



くねくね**Paris**ちゃんを目に焼き付けて、この戦略立案思考を記憶する。わかった？　どっちにしたって「イノベーションのメンタル・モデル」読んでない奴にはわからないけどね。

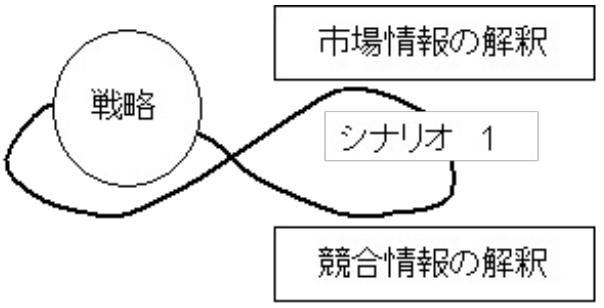
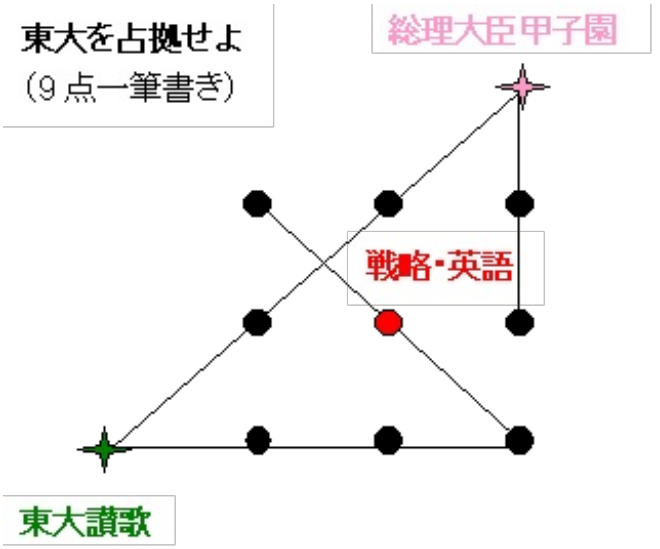


Fig. 29 市場・競合情報と関連付けられたシナリオと戦略

そして、特別プレゼントがこれだ。



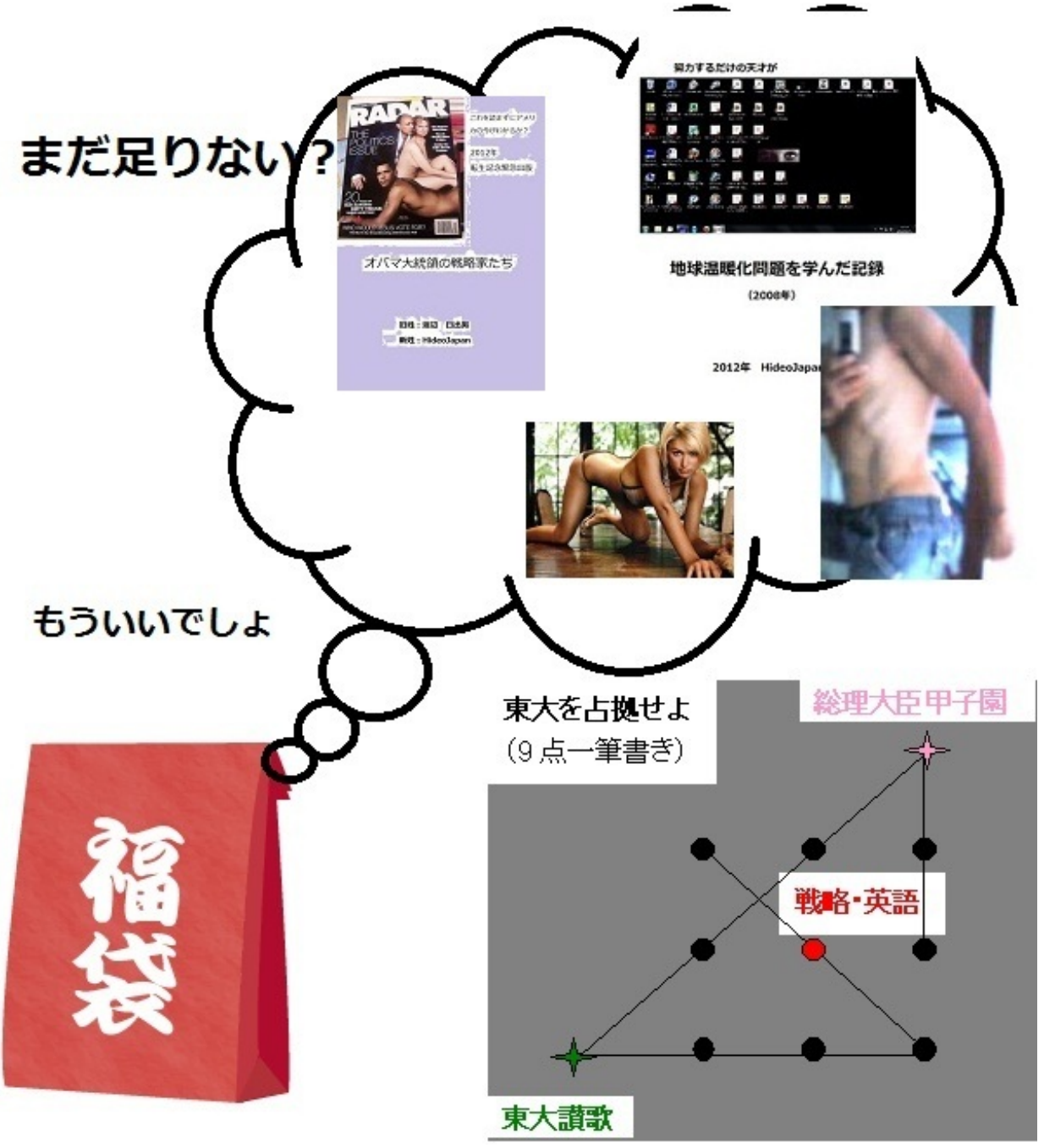
日本を良くする。政治を良くする。官僚機構に切り込む。
これしかない。**This is only PLAN.**

アクションプランは改めて示すが、この図を頭に叩き込む。いいね。

福袋：新春特別プレゼント追加 - 2012.01.07 Sat

「オバマ大統領の戦略家たち」
お知らせした如くリンクは使えないが出版に加えた。ついでに今日、地球温暖化関係ニュースレターも出版した。

Parisちゃんだけでは不平等だから、女性向けも対抗に入れて・・・福袋は今日でお終い。

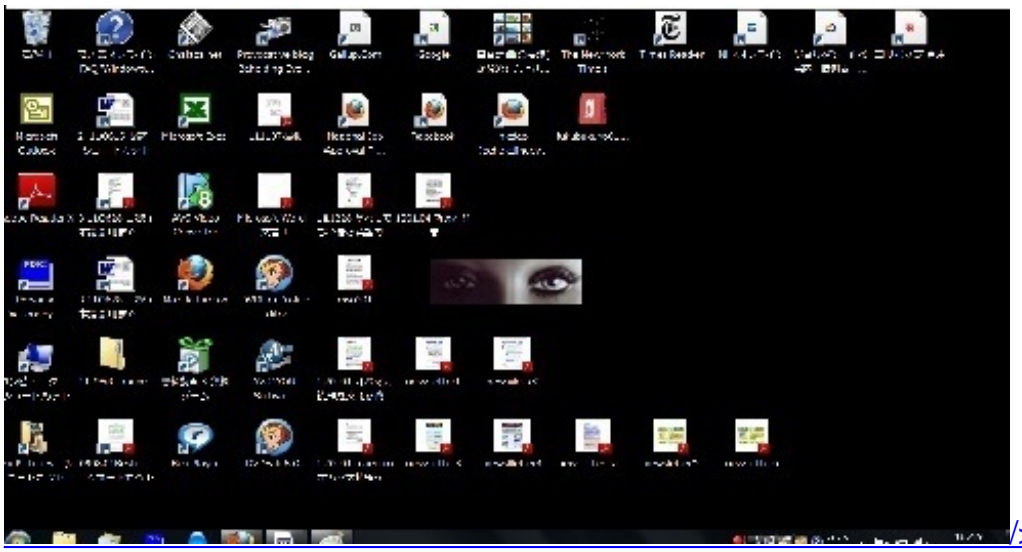


遺産整理やっと終わった。プロフィールも書き直した。

出版表紙のPaintも上手くなった。
これは、自分のデスクトップをPaintにコピーして作った。

真ん中の“じっと目”クリック。5曲目。ダンスしながら総理大臣甲子園入場行進。

完全転生。


</>

「食べログ」が訴えるって？何を？ - 2012.01.08 Sun

11月のアクセスは3200万件を超えた「食べログ」が“やらせ”をやった39社だかを訴えるという騒ぎ。
価格comが「食べログ」をはじめたのが2005年らしいが、登録店数はおよそ60万軒という。この記事を読んだ時、“自分たちだってやった筈なのにどうして訴えるなどと発表したのだろう？”という疑問が湧いた後、“あ～、こういうことなのか”と思ったことがある。

あなたがこの事件を知った時の反応（内心）は、どういうものでしたか？

次の二つの記事に惑わされることなく、最初の反応だけ。それが今日のテーマです。

日経の電子版に、ジャーナリストでメディア研究者と自称する藤代裕之という方が、　“「食べログ」だけではない　ネットでやらせがはびこる理由”というのを書いている。

コピー＆ペーストができない紙面というか画像なので、ここには、印象に残った部分だけを記す。
「ネットという自由に表現し、ビジネスの場になる「共有地」の信頼が失われるという悲劇が生まれている。」

また、小学館のNEWSポストセブンに、“『食べログ』やらせ問題の迷惑　ホメるのが難しい世の中になる”という記事がある。
「そういった「やらせ」の噂は前々からあったし、そもそもネットの情報は眉に唾をつけながら見るのが大前提ではあります。しかし、「食べログ」は「善良な市民からの本音」を集めている

というのがウリであり、そのランキングは大きな影響力を持っていました。
今後、どういう対策を取っていくのか、はたしてやらせを根絶することはできるのか、悪評高いAmazonのレビューなどにも問題が波及するのか、いろいろ興味深いところです。」

あなたの最初の反応には、この二つの記事の“やらせ業者は悪者”という以外に何かビジネスに関するものはありましたか？

私の「食べログ」や「グルナビ」に関する知識は殆どありませんが、私の反応に興味ある方は続きをどうぞ。

1）11月のアクセス3200万は本当だろうか？サーバー持っているはずだから何とでも言えるだろうな～。
2）「食べログ」、「グルナビ」の実際のユーザー数はどれくらいだろうか？

3）いずれにしてもSカーブの上限に近いところに達しているだろうな。

4）登録軒数60万のうち、おいしい店はどのくらいだろうか？

そして、思ったことは、「食べログ」は、経営に行き詰まって戦略を変えるつもりだなということでした。
訴えるなどと騒ぎ立てて有利になる戦略はどういうものだろうか？

何が「共有地」だ？
何が「善良な市民からの本音」だ？

味の好き嫌いは個人、個人。
好き嫌いに関係なく美味しいものはある。
あんなものに得意げになって書き込む奴の何人が美味しいものを知っているというのだ？
“美味しい”がわかる奴は、そんなところに書かない。
釣られてくる客が増えれば味が落ちること知っているし、秘密にしておきたいものだ。仲の良い友達や知人を連れていく程度。

さらに、60万軒のうち、本当に美味しい店が何軒あるというのか・・・殆どない。
もともと、「食べログ」みたいなビジネスは際物なのだ。

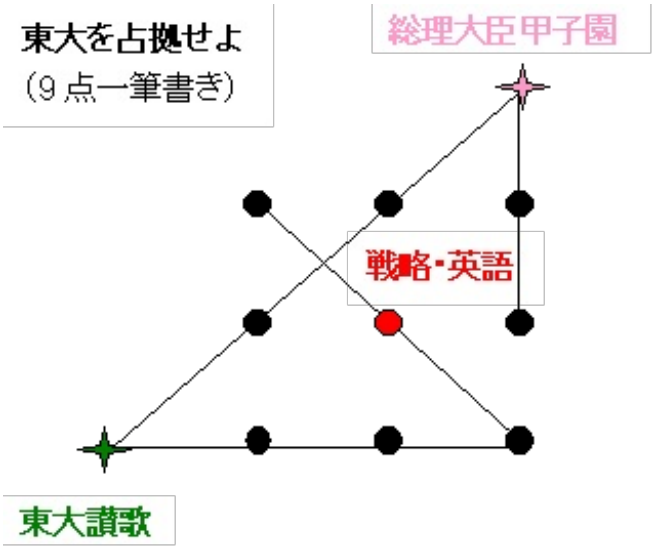
日本人、8000万人のうち、「食べログ」、「グルナビ」を使っているのはどのくらいだ？
大して多くないと思う。1000万人いるかどうかという程度ではないか？そんなにいるだろうか？

頭にくるのは、行こうと思って住所と電話番号知ろうと思って検索すると、「食べログ」や「グルナビ」サイトが出てくる。しようがないからクリックする。それも、アクセス数のうちだろう？
俺は、元々そこに行こうと思っているから、アクセス数などと何の関係もない。

こんなものができる前から、Yokohama walkerとか何とかでお店の紹介があった。何軒か行ったことがあるが、ひどいものだ。
お店にそれとなく尋ねてみたら、若い女の子がきたから載っけたのだと。
基本的には、それと同じビジネスの形だろう？
そこに、美味しさなどわからない何とかグルメが調子に乗って書く。
はじめっから信頼性などないのだ。
「グルナビ」と「食べログ」合わせたって300億円以下の広告ビジネスだ。数年経てば、掲載されている店が大した味でないことはわかる。結局、今回の騒ぎの本質はそういうことだ。

訴えるなどと騒がずに、Sカーブのまだ上昇期（2年前ぐらい）に誰かに売っぱらちゃえば良かったものを。どんな戦略でくるのか知らないが、“ミシュラン”流などできない。ビジネスにならないからだ。

何かの情報から、ビジネスのイロハを考える。戦略を考える。
日経や小学館の記事読んでそうだ、そうだと感心しているようなら、このブログにはこない方がいい。



9点のど真ん中の戦略を考えるとはこういうことだ。

冒頭のサラダは、サラダ菜、ピーマン、パプリカ2種、レッドキャベツ、キウリ、ひよこ豆などの数種の豆、アボカド。
ドレッシングは、オリーブオイル、酢（多め）、醤油、塩少々、ニンニク。
黒胡椒を多めにミルしてよくかき混ぜる。

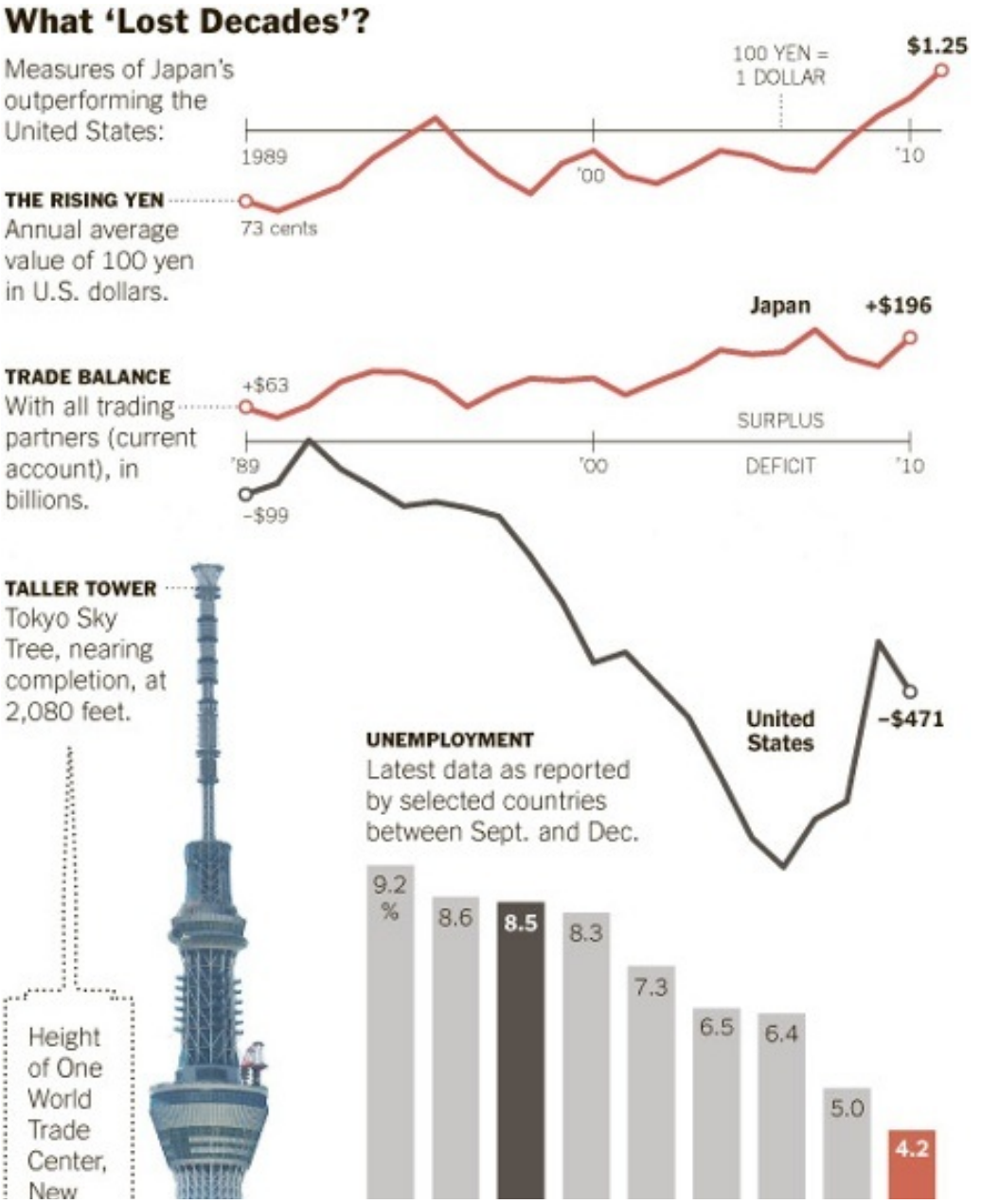
転生前、10月の終わりごろから溜まりに溜まった身体の毒を出そうと思って、夕食は殆どこのサラダ。実物は写真よりはるかに彩がきれいだ。そして、飽きない本物の美味しさだ。書いた通り試してごらん。合成調味料なんか使っちゃ駄目。こんな美味しいサラダ出してくれるお店などそうないことがわかる。

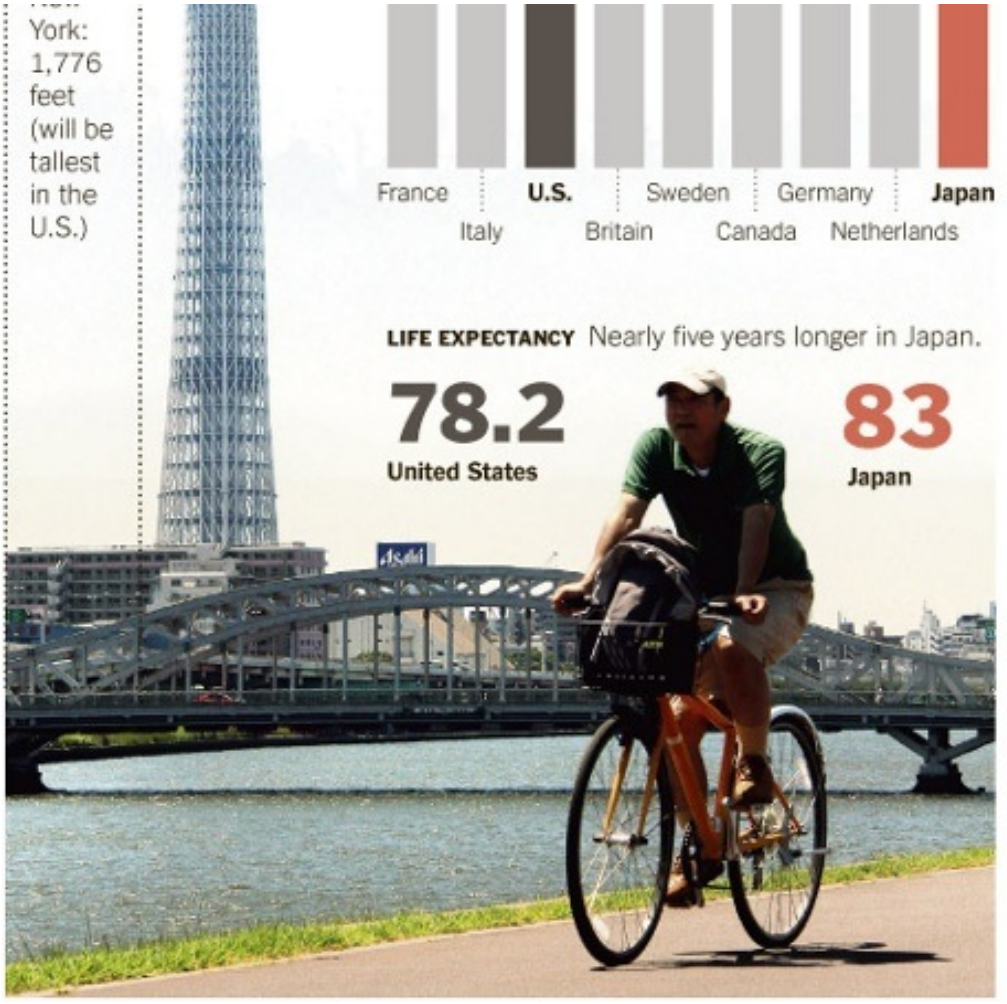
アメリカの地震と津波への同情は終わり：American sympathy on Earthquake and Tsunami is over - 2012.01.09 Mon

1990年代の日本の金融危機（バブル崩壊）を予測したというイーモン・フィングルトンが“日本の（失われた20年の）政策失敗神話”という題したオピニオンをニューヨークタイムズに寄稿した。

Opinion
「[The Myth of Japan’s Failure](#)」（By EAMONN FINGLETON: January 6, 2012）

このグラフィックから、「日本の政策は失敗していない。二の舞をしてはならないというアメリカの大方の意見（クルーグマン博士はその代表的な人：筆者注）は間違っているというものだ。





為替（円ドル）、輸出入バランス、高層ビル建築、失業率、平均寿命を指標にした日米比較だ。

このブログは英語を読める人を対象にすることにしたので、前世の時のような丁寧な翻訳はしない。
（Washington PostとHuffington Post は無料で読める。NYTぐらいは購読したほうがいい。）
TOEICの高得点自慢人間、コメント寄こしてみろ。

この寄稿から、三つのことが予想される。

? 英語を読めるだけのバカ学者と評論家は、「アメリカはやっぱり日本を認めているではないか」と知ったかぶりする。
? 東大は、日本の政策の正しさが証明されたと自慢する。
? 石原慎太郎は、「日本の技術なしで世界は回らない。アメリカにノーを突きつけなければならない。俺は前から言っているだろう。」と得意になる。

あなたは、どう読むか？
（英語を読む気のない人は続きを読んでも無駄です。日本語はあっても意味がわからないと思う

から）

Japan has succeeded in delivering an increasingly affluent lifestyle to its people despite the financial crash. In the fullness of time, it is likely that this era will be viewed as an outstanding success story.（1ページ）
東大万歳だ。（This makes our bureaucrat happy.）

“There’s a dramatic gap between what one reads in the United States and what one sees on the ground in Japan,” he said. “The Japanese are dressed better than Americans. They have the latest cars, including Porsches, Audis, Mercedes-Benzes and all the finest models. I have never seen so many spoiled pets. And the physical infrastructure of the country keeps improving and evolving.”（1ページ）
ポルシェやアウディなんか東京とその近郊だけだよ、バカめ。但し、日本の女性、特に若い女性のファッションセンスは、20年前から世界一なのだよ。だから、**40**代までの女性のセンスは世界一。今頃気付いてどうするんだ。（You can see Porshes and Audis only in Tokyo and big cities, idiot. Fashion sense of young Japanese girls was in fact No.1 in the world since 20 some years ago and thus **women up to their 40’s are attractively well dressed**. Didn’t you, Japan experts notice it until today?）

If anything, it is Americans who have been lagging. In cellphones, for instance, Japan leapfrogged the United States in the space of a few years in the late 1990s and it has stayed ahead ever since, with consumers moving exceptionally rapidly to ever more advanced devices.（2ページ）
バカな見方。若いやつらがゲームに夢中なだけだ。（Poor observation. Young generations are just obsessed with playing computer games.）

It never seems to occur to Western commentators that the Japanese both individually and collectively have chosen their demographic fate ― and have good reasons for doing so.
The story begins in the terrible winter of 1945-6, when, newly bereft of their empire, the Japanese nearly starved to death. With overseas expansion no longer an option, Japanese leaders determined as a top priority to cut the birthrate. Thereafter a culture of small families set in that has continued to the present day.（2ページ）
見当違いもはなはだしい。中国じゃないんだから。謀略小説の読みすぎじゃないの？家は小さいし、セックス以外の楽しみが増えたからだよ。（Wrong guess. Japan is not China. You must have read conspiracy novels too much? Simply because houses are too small for circus-like sex and we had a lot more things for pleasure.）

Although previously there had been much envy of Japan abroad (and serious talk of protectionist

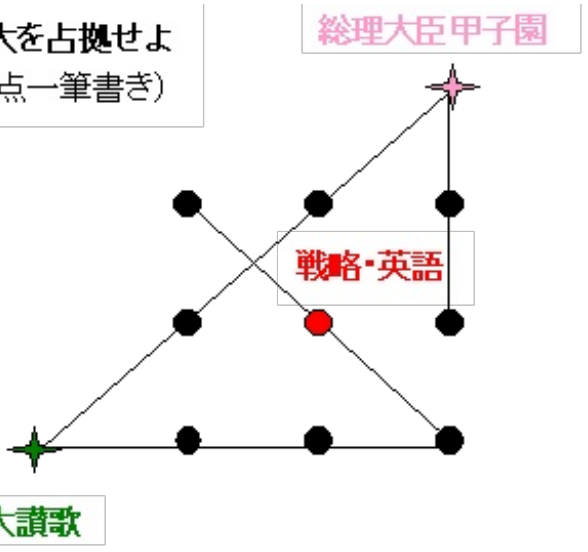
measures), in the new circumstances American and European trade negotiators switched to feeling sorry for the “fallen giant.” Nothing if not fast learners, Japanese trade negotiators have been appealing for sympathy ever since.
The strategy seems to have been particularly effective in Washington. Believing that you shouldn’t kick a man when he is down, chivalrous American officials have largely given up pressing for the opening of Japan’s markets. Yet the great United States trade complaints of the late 1980s ― concerning rice, financial services, cars and car components ― were never remedied. （3ページ）
きたぞ！この論文の目的が。同情なんかする必要はもうない。市場原理主義で日本市場を開放しろだって。（Here you go! No more sympathy or empathy. Let them open the market. Laissez-faire again now!）

Japan should be held up as a model, not an admonition. If a nation can summon the will to pull together, it can turn even the most unpromising circumstances to advantage. Here Japan’s constant upgrading of its infrastructure is surely an inspiration. It is a strategy that often requires cooperation across a wide political front, but such cooperation has not been beyond the American political system in the past. The Hoover Dam, that iconic project of the Depression, required negotiations among seven states but somehow it was built ― and it provided jobs for 16,000 people in the process. Nothing is stopping similar progress now ― nothing, except political bickering. （3ページ）
上手いなぁ。結局、オバマのイングラ整備支持かい？日本を使って。これが戦略ってやつだよな。（Excellent to support Obama’s infrastructure rebuilding program using Japan as a model. This is what the strategy is all about.）

いい気になってちゃ駄目だ。
記事はニューヨークタイムズ。今年11月大統領選。アメリカの製造業回帰。輸出も倍にしなければならない。日本の購買力は世界第二位、310兆円。寄稿の狙いは必ずある。戦略を読み取るとはこういうこと。

Contributed article at New York Times. Presidential Election in November. Recurrence of US manufacturing. To double US export. Purchasing power of Japan is the second largest, more than three trillion dollars. There is an objective for any contribution. This is a good example to read the strategy of a competitor.

東大を占拠せよ
（9点一筆書き）



大人力って何だ？ - 2012.01.09 Mon

昨日の「食べログ」で引用した小学館のNEWSポストセブンの記事だが、そこに“大人力コラムニスト・石原壮一郎氏の「ニュースから学ぶ大人力」。今回はやらせ業者の存在が明るみになった「食べログ」問題から、「2012年のほめ方」を考えます。”とある。

大人力も石原氏も知らないから、調べてみた。

こういうのがあった。

【石原壮一郎氏インタビュー】ビジネスマンはどのように怒るべきか――コミュニケーション不足の日本人を考える

腹立って、感想を投稿しようと思ったが、ソフトバンクに登録しなければならないので止めた。書こうとしたことは、以下だ。

前世から数えれば、社会人になって48年になる。石原氏の言っていることは、48年前とまったく同じ。
この48年間の学校、社会教育の莫大な投資にも関わらず、投資効果ゼロということだ。
解決策は二つある。
一つは、怒る相手の思考と行動のパターン（心理学と認知科学の領域）を読み取って、それに合った怒り方というよりも指導すること。
二つ目は、ビジネスの世界には、感情と無関係にゴールに向かう道筋（戦略と行動計画のルール：論理）がある。経験があってもこの論理を理解しない上司は掃いて捨てるほどいる。本人は気付いていないのが大半。

この二つを教える経営学もなければ、企業の教育プログラムもない。この二つは本来的に無機的である。感情は有機的な問題。
この区別を知らない論議が48年続いているということだ。
数年前に人間力という言葉が流行った。ベンチャーの経営者などが使って、そんな表題の本もたくさん出た。今度は大人力かい？
この種の幼稚な論議が、若い人の進歩を妨げていることに気付くのが人間力、大人力じゃないのか？
そもそも、無機と有機の区別がつくかつかないかは年齢と無関係だ。若くたって区別のわかる奴はいる。

俺の場合、育ちが育ち（12月31日のプロフィールは変更したので始めての人にはわからないだろ

うが）なので、有機的な人とのつながりを避けて生きてきた。

「渡辺さんは、人を機能として見る傾向がありますね」と言った奴がいた。
俺にも好き嫌いはある。
しかし、嫌いな奴でも役に立つと思えば、人事でも報酬でも正当に取り扱った。
会社は、運命共同体でもなければ、有機的人間のつながりだけの場でもない。そんなものだけでは会社や組織はなくなる。人間が作ったものはいつかなくなる。
なくならせたくなかったら会社、組織の価値を作り続けなければならない。新製品や新サービスを生み出し続けなければならないってことだ。
それには、コミュニケーション、コミュニケーションと言う前に、論理、知識、手法、技術が必要なのだ。怒る、怒らないは、その上の話だ。
個々人が無機的にマスターしなければならないそういう作業は、辛くて寂しい。それに耐えられなかった奴が大人力だのコミュニケーションなどと言う。

周りにいるだろう。
「言うことはわかるんですが、言い方がね」という奴。
わかってなどいないのだ。

インタビューの3ページ目の以下を読んで泣きたくなった。

――また、要所でまるで釘を刺すかのように「自分が身勝手な主張をしている可能性を忘れるな」「怒ることの甘い誘惑に注意しろ」と、自分自身を省みることを促されています。これはこの本のある意味で裏テーマのようなものだと思ったのですが、いかがでしょうか？

石原氏：ああ、そこに気づいていただいて感無量です。実はそっちがメインのテーマ と言っても過言ではありません。「怒り」には、必ず理由や原因があります。それが相手にあるとは限らないというのが、「怒り」のややこしさでありタチの悪さですね。

このやり取り、気持ち悪くならないか？
何の変哲もないことを得意げに話す奴、それに迎合して喜んで聞く奴がいるから、50年後も同じことの繰り返しだ。だから、東大に舐められる。

あ～あ、このブログで「どうでも良いこと」っていうカテゴリー作るハメになった。

外交の武器とは？：無機の強さ - 2012.01.10 Tue

前回の「大人力」で有機、無機の話をしたがピンとこなかった人も多いと思う。
“どうでも良いこと”カテゴリーに入れたが、実はどうでも良くない。

アメリカ政府が独自で行ったクラッシュテストでGMのボルト（Volt）のリチウム電池が、3週間後に燃えた。日本の報道にもあったから知っていると思う。その後2回やったテストでも燃えた。この写真は最初のテストの状況。（クリックでオリジナル・サイトに飛べる）

燃える原理は、以前、PCバイオの電池が燃えたのと同じ。リチウムが空気に触れるとそうなる。ボルトの場合は、水で電池を冷やしているがクラッシュで、クーラントが漏れやリチウム電池の覆いが破れたら燃える可能性がある。日産リーフ（Leaf）の電池だが、電池を保護する金属が頑丈で、同じようなクラッシュテストでも問題が生じないことは確認されている。

改善方法はあるから大した問題にならないと思っていたが、年が明けて直ぐボルトの電池の保護を強化するという発表をした。

この件でのGMの対応は実に素早いものだった。トヨタ・リコール事件では、トヨタの対応の遅さが問題になったのだが、まるでその差を見せ付けるようなスピードだった。
GMは、電池の安全性に対する自信と事故発生時の対応体制を自信満々に発表すると同時に、もし心配な所有者がいるなら車を買い戻すと言ったのだ。燃えた時には、電気自動車はやっぱり時期尚早かみたいな報道もあったが、素早い対応で大事にならずに済んだ。

三つの記事のみ紹介しておく。

「**A Setback for Electric Cars**」（November 28, 2011）
「**G.M. Offers to Buy Back Hybrid Volts From Owners**」（December 1, 2011）
「**G.M. to Reinforce Battery in Its Hybrid Car, the Volt**」（January 5, 2012）

びっくりしたのは、これだ。

製造ラインで、ブレーキパッドを入れ忘れた**Sonic**が販売されていたというものだ。
事故はなかったらしいが、そういう問題ではないだろう。
こんな間の抜けた話、信じられますか？

ワシントンポストの記事。
「**GM recalling nearly 4,300 Chevrolet Sonics that may have missing brake pads**」

誰でも笑っちゃいますね。
General Motors is recalling 4,000 of its new small Sonics because of a potential brake defect. It's not that a few of the car's brake pads might malfunction. It's that **they forgot to put them on!**

ところが、このリコールに関してニューヨークタイムズには記事はない。シ～ンとしたものだ。
あきれ果てたからか、折角軌道に乗りかけたGMを叩きたくないからか知らないが。
私はね、オバマ大統領がかわいそ～になった。
あんなにがんばってGM再生を選挙の武器にしようとしているのに、電池は燃えるは、ブレーキパッドは入れ忘れるは・・・。やってらんないと思ってるだろう。

これを読んだ瞬間、思い出したことがある。
アメリカから送られてきた200Kgドラム缶にスコップが入っていたのを。
スコップを注文したのではない。日本で小分けする農薬の中にだ。ゴミも入っていた。床のゴミをスコップで掬って、一緒にドラムに入れたらしい。

今から30年前のこと。

30年前も今も精神構造は同じじゃないのか？
アメリカ人は製造に向いていないんじゃないか？
日本人なら、こんなバカはしないだろう。

・・・掃除力の違いだ！

日本ってどこへ行っても大体きれいだ。家の前の道路は誰かが毎朝、掃いてきれいにしているし、会社も従業員が掃いたり拭いたりするし。（汚い会社はつぶれるし）
品質管理や標準工程の問題じゃない。
日本の場合は、その前提に掃除力があるが、アメリカにはそれがない。
いくらQCやっても、シックス・シグマやっても、前提の掃除力がなければダメなのだ。

（笑いながら言うけどね）これが、無機的な分析ってやつだ。

「大雑把なアメリカ人には製造なんか向いていない。日本人は小手先が器用だから。」なんてのは分析でも何でもない。有機ですらない。

今日の読売新聞社説「野田外交の責務　日本の存在高める戦略を持て」

中身を云々する気はない。ごもっとも、ごもっとも。

そこに、“日本が国際的な発言力を確保するには、外交の「武器」である政府開発援助（ＯＤＡ）予算の削減に歯止めをかけねばならない。”とある。
これも、ごもっとも、ごもっとも。

「武器」についてだけ書く。

前々回のエントリー「アメリカの地震と津波への同情は終わり」に見るように、例のTPPも絡んでアメリカの対日攻勢は激しくなる。

それに対抗する「武器」はあるのかい？

政治家にそんな「武器」なんかないぞ。
なら、どうする？

トヨタがやられた時、NUMMIを閉鎖したらやられるぞって発信した。
誰か同調したか？
誰かtweetしたか？
誰も何にもしないうちにあれよあれよという間にやられた。

アメリカの製品可買え、買えって攻められた時、製品にスコップ入れるような、ブレーキパッド入れ忘れるような国の製品買えるかって消費者が言わなきゃ、一体誰が言うんだ？

政治家なんかに絶対言えやしないぞ。首が飛ぶから。そして、一方的にやられる。
TPP反対、反対って騒いだ奴、今日のこのブログをtweetしてみろ。
名のある奴の記事とかブログに意味のないtweetする奴が多いのに驚くが、本当に日本を守ろうとするなら、先を読め。
これが、「竜馬、君ならどうする」に書いたインターネットの付加価値をつけるひとつのやり方なんだ。
何でも政治家の所為にするな。
こっちができることやってからだ、文句言うのは。
消費者にしかできないことがあるんだ。
予測とか、戦略は論理なのだ。つまり無機。感情じゃない。
無機であっても政治家や官僚（東大）が言えば有機になる。だから、消費者にしかできない。しかも、それを英語でやらなきゃならない。
それが、政治家が使える「武器」になる。
バカな政治家は、こっちが作ってやっても使えない。だから、それにきちんと呼応できる政治家を見つけ、育てる。
それが、念仏、“総理大臣甲子園”

ここまで言っても、まだわからないか。

石原慎太郎：預言者に転生? - 2012.01.11 Wed

然し実は我々の生命的存在がこの今、互いの間で ある譲歩がなされなければ、国家の我欲の相剋の中で時間は空費され我々の生命的存在はツバルの海岸線を浸食している海水のように蝕まれ、予想よりも早い終末を迎えることになりかねまい。
「地球は滅びるだろう」（日本よ；**2012.1.9**産経新聞）

この日付に注意。

タイミングから見て、石原都知事がニューヨークタイムズの記事を読んでから書いたとは思えない。

ロンドンとフロリダの大学研究者の最新研究報告である。

大気の炭酸ガス濃度が産業革命前のレベル（240～250ppm）ならば、1500年以内に氷河期に入る。しかし、現在すでに390ppmに達し、温暖化が続けば次の氷河期の到来は著しく遅れる。
「**The Next Ice Age and the Anthropocene**」（**January 8, 2012**）

ニューヨークタイムズに送られた研究者からのプレス・リリースにある文言である。

That may sound like good news, but it probably isn't, said Jim Channell, distinguished professor of geology at the University of Florida and co-author.
"Ice sheets like those in western Antarctica are already destabilized by global warming," said Channell. "When they eventually slough off and become a part of the ocean's volume, it will have a dramatic effect on sea level." Ice sheets will continue to melt until the next phase of cooling begins in earnest.
（氷河期の到来が遅れるというのは）良いニュースに聞こえるが、多分良くはない。南極西部の大氷原などは温暖化によって既に不安定になっている。徐々に氷が剥げ落ちれば、海水位は極端に高くなる。大氷原は次の氷河期が本格化するまで溶け続けることになる。（共同研究したフロリダ大学の著名な地質学者の言）

恐るべき石原慎太郎。

“日本よ”の文章もこれまでの氏の“神を神とも思わないかのような”いつものトーンとは異なり、人間を超える偉大な力を畏怖するかのような響きがある。

天才、慎太郎も転生か？

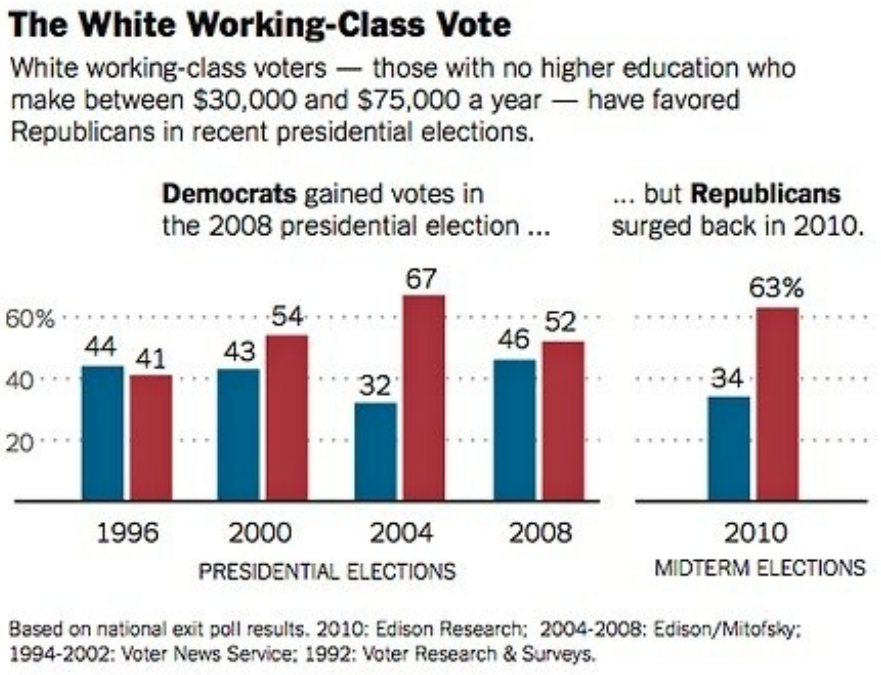
関連ブログ：

「武田氏の温暖化懐疑論をどう思いますか、石原都知事？」（2010.05.20）

米大統領選どうなる：竹中平蔵、大田弘子の敵は赤ちゃん - 2012.01.14 Sat

アメリカ共和党（Republican）のロムニー（Romney）がオバマを破るかもしれないという報道が散見される今日この頃である。
過去の例から見て一月の予備選挙（primary：党の大統領候補選出）で勝った候補が最終候補者に選ばれる傾向が大きいという。
アイオワ（1月3日）とニューハンプシャー（1月10日）で2勝した前マサチューセッツ州知事のミット・ロムニー（Mitt Romney）が有力視されているのは事実である。
しかし、アイオワでは僅少差で2位になったサントラム候補（Rick Santorum）、ニューハンプシャーで10ポイント差の２位になったポール候補（Ron Paul）の人気も高い。いずれにしても、現在6名の戦いなので“げたを履くまで”わからない。

アメリカのメディアも日本と同じで、早くもロムニーが勝つか、オバマが勝つかという気の早い記事が氾濫している。



2008年にオバマを支持した白人ブルーカラーの不満が現在共和党に回帰した。
ウォールストリート占拠抗議も彼らが中心であり、オバマ再選は彼ら次第であるという分析記事がある。
「**Obama and Romney Face a Tough Fight for Key Group**」（January 13, 2012）

アメリカにも私と同じ考えの人は多い。その一つの例である。（“オバマの戦略家たち”を読んだ方にもすぐ理解できる過去の事件を述べている都合の良いものである。）

最初に、事実をはっきりさせよう。オバマ大統領が、“苦々しい”とか“銃と宗教にすがっている”などの発言が録音された事件では、中間層（ミドル・クラス）全体を指したものではない。彼は、ペンシルバニア西部、或いは中西部の廃れた製造業地域の小さな町を指したに過ぎない。オバマ大統領を庇うつもりはないが、正確な状況を知ろうとする努力はしようじゃないか。（注：オバマの戦略家たちに詳細あり）

Let's start with the correct facts. When President Obama was caught on tape describing some as "bitter" and "clinging to guns and religion," he was not referring to the middle class as a whole. He was talking specifically about small towns in Western Pennsylvania or the Midwest that were manufacturing towns and had suffered in recent decades. I'm not excusing his comments, but lets make an effort to get the context correct.

次に、ロムニーとオバマが中間層からの分離が同じだなどと知ったようなことを言うのは止めよう。今は二人とも億万長者だが、彼らの歴史は極端に異なる。オバマは、すべてのアメリカ人が成功するチャンスを守ろうとしていると幾度も述べている。そのチャンスがなければ今の彼はないからだ。一方、ロムニーにはチャンスなど必要なかった。初めから銀の大皿にある王国への鍵を貰ったのだ。だから、経済政策については、常に他人のチャンスを潰して極く少数者の富の集中を守ることに声を張り上げている。

Next, let's not pretend that Romney and Obama share the same disconnection from the middle class. While both are millionaires now, their personal histories are drastically different. Obama has repeatedly talked about trying to protect the opportunity of every American to succeed. Because without that opportunity, his story would not be possible. On the other hand Romney has never needed opportunity, he was handed the keys to the kingdom on a silver platter. And everything thing about his economic policies screams that he will do everything he can to protect the concentration of wealth among a few by limiting the opportunities of everyone else.

Nathan　Michigan

ワシントンポストに、Mitt Romney says he likes being able to 'fire people' who don't provide adequate business services. He said Monday that he wants to allow people to shop for their own health insurance and fire their health insurer if they aren't happy with it.（きちんと仕事のできない奴を首にできるというのはいい。好きな健康保険に入ればいい、そして気に入らなければ止めればいい。）とロムニーが述べたビデオがある。

ワシントンポストの読者投稿欄は2チャンネル的。

俺たちも俺たちの政治家も三流だ。だけど、共和党の予備選の騒ぎを見ているとね、何故か、日本人であるのを誇りに思うよ。

Both we and our politicians are third class. But, but, watching all these Repub primary circus I am proud of being Japanese somehow.

と投稿したら、

そうだろうな。共和党は俺だってアメリカ人として恥ずかしくなる。
I don' blame you. repulicans make me embarrassed to be an american.

というコメントが戻ってきた。俺もという人がさらに二人いた。

一方、カンサス州議会の反オバマ側は、暗に“オバマが死ぬのを祈ろう”というメールを仲間の共和党議員に送るめちゃくちゃだ。
House Speaker Mike O'Neal, R-Hutchinson, forwarded to fellow Republicans an email that refers to President Barack Obama and a Bible verse that says “Let his days be few and brief.”
But the speaker's office said Tuesday that the email was referring to the president's days in office.

最新のギャラップ調査では、オバマ支持**45**％、反支持**46**％。
大統領選では、オバマ支持**50**％、ロムニー支持**48**％である。

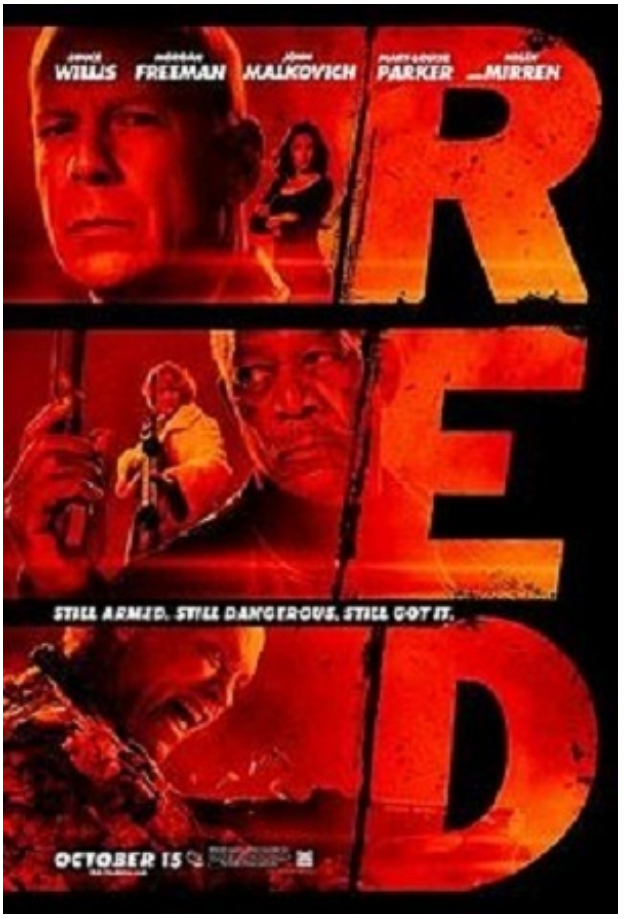
しかし、明日になれば、この数字も変わる。この種の調査がどこまで信用できるのか根本的な疑問はある。

私が、読むメディアは、ニューヨークタイムズ、ワシントンポスト、ハッフィントンポスト、いずれも反共和党で、どちらかと言えば、オバマ大統領支持の傾向である。
ウォールストリート・ジャーナルは、反オバマなので読んでいる人からのコメントがあれば良いのだが・・・。

邪気がなくなれば予測はできる。赤ちゃんがオバマ勝利を予見したではないか！

転生石原都知事に捧げる：**Reincarnated Extremely Dangerous - 2012.01.15 Sun**

前々回「石原慎太郎：預言者に転生?」の続きである。
というのも、中曽根康弘氏、桜井よし子氏などの著名人の寄稿文を読んだが、あの石原都知事の“日本よ”のインパクトがどうしても頭を過ぎるからだ。天空からのメッセージとでも言えば良いのか・・・。



過去のことは言いたくないが、地球温暖化問題が、アメリカ、中国、インドの身勝手によって捻じ曲げられたのは、2009年12月のコペンハーゲンで予測されたことだ。（詳細は、“だから日本はこうなった：外交”参照）
戦略性があれば、日本も何らかのリーダーシップを採れたかもしれないが、”京都議定書からの逸脱”では、子供のイヤイヤと同じだ。

そこで、同じ転生の身として、提案したいことがある。
そのために、出版にはない四つの情報を共有する。

最初は、アメリカ環境庁とNASAの科学者が共同で衛星から地面に近いところの大気汚染測定精度を高める研究を行うというもので、これは昨年6月の情報だ。
「**EPA scientists collaborate with NASA to improve view of air pollution from space**」

次は、大気に国境はないから他国の炭酸ガス排出量の大きさはアメリカの安全保障問題になるということに関連する。
国境の前に、アメリカの州境を取っ払ってしまう環境庁のルールが生まれた。2011年の7月から12月に掛けて発表された政策である。
「**Cross-State Air Pollution Rule (CSAPR)**」

そして、全米の州、町ごとの排出量を示す画像情報の公開である。（これは衛星からの排出画像でなく、報告に基づく結果）
コペンハーゲンで透明性、透明性と中国に迫ったものがこういうことである。これは、2012年1月11日の最新の発表である。好きな州でも町でも名前を入れると即時に排出量がわかる。
「**Greenhouse Gas Data Publication Tool**」

四つ目は、一方でボイラーや焼却炉の排出基準を厳しくして、地球温暖化に大きな影響を与える元素状炭素（黒色炭素：black carbon）研究に助成金を出すという発表。これは、2011年10月のこと。出版にも書いてあるが、北極の氷原消失に煤が関係していることは記載した。その煤は、アジア（主に中国）から飛来すると言われている。
「**EPA Awards $6.6 Million to Universities for Black Carbon Research**」

環境庁などなくしてしまえ、規制を厳しくするから経済が停滞する、失業が増えるとこの3年間共和党から攻撃を受ける中で、着々とやるべきことをやっているのだ。
勿論、衛星からの排出源特定も飛来追跡データも蓄積していることは言うまでもない。

石原転生知事は、「人間にとって、地球にとって今必要なことは、極めて悪しき「肝心なこと」が我々の身近で刻一刻進みつつあるということを真摯に見つめて向かい合うことでしかありはしまい。」で“日本よ”を終えている。

お互い転生の身、そこで終えずにこういうのはどうだろう。

衛星から発信された信号は誰のものですか？
発信前の衛星にあるデータや地上基地（NASA）が受信したデータを盗んだらハッキングだが、到達前の信号が漏れたものを拾って、世界の排出源と排出量が公開されてしまったら、これは“欲望にかまけて実は幼稚化してしまった人類”にも少しは薬になるのではないか？

漏れを拾うのは、罪ではないだろう？
拾った物を公表するのは、拾い物を警察に届けるのと同じ？

転生すれば、この程度の発想は持てる。
問題は拾う能力だな・・・。

転生したんだからシナももう止めてね、ごね得のアメリカ、中国、インドの三国が怒るだろうね。
この発想と能力があって公開をちらつかせれば、外交の「武器」になる。（次元の低い転生だこと。）

転生は退職（retired）ではないから、RED最新作だ。

漫画が原作の**Retired Extremely Dangerous**はふざけた映画で笑えた。

サーバが小さいせいか、URLを記録してもすぐ読めなくなるので、転生お祝いに全文転写しておく。南無阿弥陀仏。

昔々一休和尚は、正月には杖の柄の先に骸骨を載せて辻説法をし、「正月は冥土への道の一里塚」と説いたそうだが、年の明けた今昨年暮れのある出来事 を思い返すと新年早々縁起でもない話だが、やはりこの地球は間もなく滅びるような気がする。昨年十二月のダーバンでのＣＯ２に関する世界会議の体たらくは どういうことなのか。会議を延長して得られた合意とは、重病の病人に手当てをしないことへの合意としかいいようない。
　地球温暖化の元凶で あるＣＯ２の多量排出国であるアメリカ、シナ、インドの三国がごねた末のごね得の所産以外の何ものでもありはしない。彼らが納得するための案を今後四年か かって二〇一五年に作成し、それをさらにその五年先に稼働させるという決定が何の足しにもなりはしないことは自明であって、その間、これから九年の間温暖 化は加速されて進み、異常気象は最早異常なものではなしに正常なものとなっていく、いや既になっている。
　昨年日本やタイを襲った豪雨禍やアメリカ東部の豪雪など枚挙に暇のない自然災害は、想定外のものではなしに至極当然のことでしかない。世界中の氷は溶け続け、ＮＡＳＡのハンセン教授の予測通り北極海の氷も後十年わずかで消滅するだろう。
　それによって大洋は水かさを増し続け、増えた水は地球の自転の遠心力で赤道付近に集まり、ツバルのような砂州国家は水没し、他の島々も海水で浸食され海浜の破壊は続けられる。増えた水は当然その分だけ以前に増して蒸発して陸地に注がれ、従来に増した降雨降雪となって災害をもたらすというごくごく当たり前の循環の変化でしかありはしない。

そして、今まで何度となく引用してきた、私が四十年前東京での講演で聞いた天才宇宙学者ホーキングの予言、「地球のように文明の進んだ惑星は宿命と して自然の循環が狂い、この地球もまた宇宙時間からすれば瞬間的に、地球時間からすればおよそ百年ほどでその生命体は消滅するだろう」という言葉が恐ろし い余韻で思いおこされる。

福田和也氏の名論文『なぜ日本人はかくも幼稚になったのか』の中の至言として「幼稚な人間とはＩＱが低いとか常 識がないということではなしに、何が肝心かが分からぬ、そして肝心なことについて考えようとしない者だ」とあったが、自らの存在の基盤であるこの地球とい う天体が、宇宙原理のもたらす氷河期などという巨きなサイクルなどとは関わりなしに、人間自身がもたらした文明の進展の結果損なわれ、自らの、あるいは子 孫の生命が損なわれようとしているのに、それを左右する最も肝心なことについて、さまざまな利害損得にかまけて考えようとしないのはまさに恐るべき幼稚さ としかいいようない。

その生命の存在をも否定しかねない幼 稚さの所以とは、文明が育んだ人間たちの我欲に他ならない。世界が物理的時間的に狭小となり、情報を氾濫させる文明の中で、周囲を相対的に意識することで 人間や国家の我欲は増幅され抑制が効かなくなる。それは人間の発想を狭めて目先の利益を求め大局の把握を阻害してしまい、昨年末のあのダーバンの国際会議 での虚ろな結論をもたらすことにもなる。

ＣＯＰ会議に限らず、先進国の最高首脳が集うサミットでも、この地球をいかに救うか、あるいは見捨てるのかという問題が真剣に討論されたことなどあ りはしない。過去三年間、サミットの後各国のスポークスマンは口を濁しながら、それでも半歩は前進したと口を揃えて唱えてきた。三年かかって一歩半という 進展？が、刻一刻進んでいる温暖化による地球の毀損を防ぎ得ないのは自明のことなのに。

過去の歴史を振り返れば、人間の欲望はさまざまな 創意によって文明の進歩をもたらし先進国には豊穣な生活を育みはした。その収穫の平均化を、かつては収奪に晒されてきた途上国が求めるのは当然だろうし、 それは新しい歴史のうねりとして許容されるべきだろうが、然し実は我々の生命的存在がこの今、互いの間である譲歩がなされなければ、国家の我欲の相剋の中 で時間は空費され我々の生命的存在はツバルの海岸線を浸食している海水のように蝕まれ、予想よりも早い終末を迎えることになりかねまい。

昔読んだ外国の有名な宇宙小説に、宇宙全体を管理するいくつかの惑星の生命体たちがもぬけの殻になっている地球にやってきて、この星が実は後僅かで崩壊の 危険にさらされているのに気づく。慌てて脱出したその宇宙船は、航海の途中であの地球という星を脱出して他の新しい天体に移住するべく、人間以外の動物も 乗せて巨大な宇宙船団を作って飛行中の人間たちに出会って祝福するという筋書きだった。やがて遠い将来のいつかいつかそんなこともあり得るのかなという子 供心の関心で読んだが、この今、欲望にかまけて実は幼稚化してしまった人類にはまだとてもその能力もなければ発想もありはしない。

人間にとって、地球にとって今必要なことは、極めて悪しき「肝心なこと」が我々の身近で刻一刻進みつつあるということを真摯に見つめて向かい合うことでしかありはしまい。

（2012.01.09　産経新聞）

外交力とインナー・サークル：東大にルートは？ **- 2012.01.16 Mon**

皆さんが見るものにはダウンロード数はあっても閲覧数はない。
閲覧数と実際に読んだ人の数はイコールでないことは承知だが、「オバマ大統領を支える戦略家たち」の閲覧数が際立って多い。アリッサの顔写真のせいでもないと思うので、その後の戦略家たちの動きについて補足する。ちょっと長くなる。日本にはこんな報道ないから、読む価値あると思う。

年が明けた1月9日、ホワイトハウス主席補佐官の変更があった。
今度の主席補佐官は、ジャック・リューである。オーザックの後の財務統括部長として”戦略家たち”に登場した。
ヒラリー・クリントン国務長官の右腕で。手放すのを嫌がったという実力者である。
”戦略家たち”は、シカゴ市長になったエマニュエルが主席補佐官であった時までである。実は、今回で4人目の主席補佐官である。

White House Chief of Staff

1.Emanuel

2. Rouse

3. Daley

4. Lew

Campaign mgr

now

① Axelrod

Senior adviser

② Plouffe

ダーレィーの辞職は、昨年秋以後、揉めに揉めたグランド・バーゲン（grand bargain）失敗の責任を取ったものと噂されている。

「**Lew to Replace Daley as White House Chief of Staff** 」（January 9, 2012）

グランド・バーゲンとは、今後10年間で総額400兆円にのぼる財政削減と経済活性化のための税収増加策（これに1%の富裕層の税率アップがあった。）を同時に推進するオバマ大統領の政策提案で、ベーナー下院議長（John Boehner：House speaker as majority leader）も一時同意した。

しかし、下院の僅か10数名に過ぎないティー・パーティ（Tea Party）の支援を受けて当選した共和党員が激しく抵抗して似ても似つかぬものになった。
昨年末、200万の失業者に対する給付金が途切れるかどうかで大騒ぎになった。ここでも、共和党は富裕層への税率アップ提案を引っ込めれば、給付金の延長を認めると“失業者を人質”にした戦略を取った。結局、2ヶ月間の延長だけは合意され、失業者は何とかクリマスを迎えることができた。
詳細は省くが、この2ヶ月延長についてもベーナー議長の発言は揺れに揺れて、ティー・パーティ議員を抑えられない指導力のない議長という評価が広がった。今年の大統領選を前にして、ベーナー氏自身も大変難しい立場に立たされている。

Pete Rouse

2代目のピーター・ラウスについて日本では殆ど知られていない。エマニュエルと今回辞めるダーレイの繋ぎとして僅か2ヶ月間のことだったからだ。
ところが、このラウスは、とんでもない実力者である。
どうも、表に出るのが嫌いな人らしい。
生涯独身で猫と暮らしている。おばあさんが日本人という出自。

オバマ大統領は、彼に繋ぎ役を頼んだのではない。正式就任を固辞したので結果的に繋ぎになったのだ。
ブログに書いた記憶はないが、エマニュエルは、「君、**30**秒で、私にどんなことをしてくれる」というガンガン要求派タイプ。彼の前では誰もが緊張するそうだが、ラウスになった途端にホワイトハウス全体が和やかになって、誰もが自由に意見を言えるようになって効率が上がったという。
今回のリューの主席補佐官就任に当たっては、仕事の1/3はラウス行う役割分担になる。

この間、上級アドバイザーのアクセルロッドが、オバマ大統領二期目を狙うキャンペーンのためにシカゴに戻り、その代わりにプラウが上級アドバイザーになった。

ラウスとオバマの出会いは、アクセルロッドやプラウよりも早い。ラウスがアドバイザー」をしていたイリノイ州の上院議員が議員生活を止め、上院議員を目指したオバマに請われて彼のアドバイザーになったのである。
2008年、オバマ上院議員が民主党大統領予備選挙に出る前に、ラウスとアクセルロッドはそのことで話し合っているが、プラウの参加前のことだ。

オバマが大統領に選ばれた一ヶ月前のラウスのインタビュー記事がある。ラウスがオバマ大統領をどのように見ているかがわかる貴重なものである。

When things don't go well, I've never seen him lose his temper or blame someone other than himself for circumstances. He's very focused on: "OK, that didn't go well. Let's figure out why and move forward."
物事が上手く行かない場合でもかんしゃくを起したり、他の人を責めるのを見たことがない。
常に、「上手く行かなかった理由を考えて前に進もう」という具合に前向きだ。
I think his instincts, both on politics and even on issues, have been the strongest of anybody in the operation -- not always right, not always 100 percent on target, but consistently his instincts have been very good, and I think that bodes well for how he'll be as president.
政治でも何でも、彼の本能的な感はチームの誰よりも強かった。何時でも正しい訳でも、100%目標を外さないということではないが、本能的な感は何時でも一貫してすばらしいものがある。
私は、いい大統領になる資質を持つ人と捉えた。
And the third thing is, ... some of us wondered at the beginning, how hard was he going to work at this? ... But he has worked his tail off. He's been very disciplined and very focused. So I think it's really his instincts, his competence under pressure and his work ethic that have impressed me in this.
三つ目は、最初は誰もが懸念したのだが、この選挙戦でどこまで懸命になれるのかなということだった。最後までやり切った。強い規律と集中力を見せてもらった。私は、それは彼の本能的な強さであり、大きなプレッシャーを乗り切る自信と物事をやりぬく意欲の表れなのだと感服した。

Interviews - Pete Rouse | The Choice 2008（October 14, 2008; updated December 18, 2008）

最初の写真をじっくり見ることだ。
ラウス、アクセルロッド、プラウはオバマ大統領のインナー・サークル（inner circle）の中心に

いる。

彼らが、関係閣僚との政策のすり合わせを行い、議会との妥協点を探る任務を背負っている。オバマ政権内からのリーク情報は殆どなく、メディア泣かせである。
それは一重に、ホワイトハウス内部の結束の固さ、そして中心にいる彼らの内政、外交、軍事、財政、経済のすべての分野に及ぶ閣僚とのコミュニケーション能力があるからである。戦略に一貫性がなければ、リークに類することは必ず起こるし、政権内トラブルも起こる。

民主党（日本の）が政権に就いた時、オバマ政権とのルートがないということが盛んに心配された。それ以前の小泉–ブッシュの関係が蜜に見えたからという理由もあろう。しかし、外交におけるコミュニケーション力というのは、大統領、或いは閣僚との関係だけでなく、インナー・サークルに対するアクセス力も含まれる。

外務省は東大そのものだ。頭も良いし、ワインの味も知っている（前世から引き継いだ皮肉だが

、読む人は何のことか知らないか？）紳士たちである。
しかし、オバマ上院議員が大統領になる過程を彼らが熟知しているかどうか疑問はある。政権を動かす表に出ない人たちがいることは知っていても、インナー・サークルと関係を持つのは殆ど不可能であろう。
ラウス、アクセルロッド、プラウの経歴を知れば知るほど、東大とは縁が遠いことがわかるからだ。

オバマ大統領の誕生直後、ウズベキスタンだったかカザフスタンだったか覚えていないが、プラウに講演を依頼した。講演料が500万円だ。プラウ個人の懐には入れなかったが、ホワイトハウス入りしなかった彼を利用してインナー・サークルとの接点を作ろうとした戦術である。
外務省がやれば露骨に過ぎるが、彼の著書、**Audacity to Win**は政治学というよりマーケティングの本だから、それこそ東大が経営学にかこつけて講師に呼べば良かった。それが、外務省、或いは“志ある”（皮肉）政治家が取るべき戦略というものだ。それでインナー・サークルとコネができるかどうかは先の話。投資だ。

そういう発想のない東大、みんなどうする？

ところで、そのプラウだが、民主党全体の選挙を見るようオバマ大統領に頼まれたにも関わらず、中間選挙はボロ負けした。
その状況は、“英語力向上の秘訣”の実践版である「女性のための英語（**22**）：緊急特集**–**オバマさんが大変」にある。

その後、アクセルロッドと交代でホワイトハウス入りしたが、メディアへの露出度は極端に少なくなった。
アクセルロッドがいみじくも言っていたが、とにかくワシントンの腹の探り合い、嘘、メディアのつまらないことを事件にする騒々しさに辟易したそうだ。それを横から見ていたプラウも慎重にならざるを得なかったのだろう。

新年早々、そのプラウの“らしさ”が覗われる記事があった。

翻訳はしない。日本文は解説と私の見方だ。

「**Obama Takes Aim at Congress to Hurt His G.O.P. Rivals**」（January 5, 2012）

Upon the president’s return from Hawaii, the Obama campaign this week unleashed a carefully scripted and deliberately aggressive strategy that showed a White House in combative re-election mode as the president and his advisers sought to ensure that the Republicans did not get all the

political limelight. Mr. Obama inserted himself into the media blitz of what was supposed to be an all-Republican show, the Iowa caucuses, when his campaign took out a huge advertisement on the home page of The Des Moines Register on caucus day and he spoke by video conference to Democrats gathered in the state.
“The Republican candidates are leaving Iowa. But their terrible plans are here to stay,” was the declaration that greeted readers who went to the newspaper’s Web site to get caucus updates.
民主党は予備選がないから、メディアは共和党の予備選ばかり取り上げる。それでは不利なので、予備選の行われた州の党大会（caucus）を報道するメディアを狙い撃ちしたオバマの広告戦略だ。
「共和党予備選候補者は去っても、彼らのお粗末な政策はこの地に居残る。」

On Wednesday, after waiting until the dust in Iowa had settled, clearing out space in newspapers and on television, Mr. Obama delivered another jab, announcing four recess appointments, including that of Richard Cordray as head of a new consumer protection agency, despite Republican opposition. On Thursday, the president went to the Pentagon and outlined a new military strategy that embraces hundreds of billions of dollars in cuts to what is a Republican sacred cow, and made it clear that American ground forces would no longer be large enough to conduct prolonged, large-scale counterinsurgency campaigns like those in Iraq and Afghanistan. On Friday, he will take a victory lap with Mr. Cordray in a visit with the staff of the new Consumer Finance Protection Bureau.
共和党を挑発するジャブの連続だ。
「共和党の反対で、埋まらない四つの重要ポジションを議会が休会中に決める。」と。国民が期待する新設“消費者保護庁”長官に指名したリチャード・コーディと（勝手な）ウィニング・ランを行った。（共和党は頭にくる。）
さらに、ペンタゴンを訪問して、10兆円規模の軍事費削減計画の概要を述べ、イラクとアフガニスタンの地上軍は長期の大規模対ゲリラ戦はできないと明言した。共和党にとっては“神聖で犯すべからず領域”に土足で踏み入る。（これも共和党は頭にくる。）

David Plouffe, one of Mr. Obama’s senior political advisers, has argued in meetings at the White House that Republicans will overreach in their efforts to oppose the president’s initiatives. And administration officials believe that is what House conservatives did in the case of the payroll tax cut, with the Tea Party wing of House Republicans initially balking at a compromise deal that Senate Republicans had signed on to and sparking a backlash in the public. The refusal of Senate Republicans to allow many of Mr. Obama’s nominees to be confirmed, White House officials believe, could also end up hurting the Republicans, if it feeds the notion that they are standing in the way of the business of government.
“It is a matter of fact that the contenders for the Republican nomination have all endorsed and

adopted the position espoused by the House Republicans" in the recess appointment battle, a senior administration official said on Thursday. And that, administration officials have concluded, puts Mr. Obama at an advantage as he seeks to establish a narrative this year of him as the defender of middle-class Americans and the Republicans in Congress of the rich.
So in the next few weeks, there will be more executive initiatives that will portray the president as refusing to wait on a hostile Congress to take action to help Americans, officials say.
共和党はやり過ぎた。自らの墓穴を掘っている。これまで、共和党の反対でできなかったことを大統領がやれば、共和党予備選候補は、オバマ大統領をけなす。けなせばけなすほど、自分たちが過去3年間にやってきたことが有権者の目に明らかになる。"中間層を守ろうとするオバマ大統領と守ろうとしない共和党"
相手自らが差別化してしまうことになるいかにもプラウらしい選挙戦略だ。

それが、この記事の冒頭の文章だ。

Just three hours after President Obama announced that he was defying Congressional Republicans to fill a high-level regulatory position while lawmakers were out of town, Mitt Romney sent out the obligatory news release ripping the president. "Chicago-style politics at its worst," Mr. Romney fumed, accusing the president of "circumventing Congress." The statement was just what the White House wanted. It put the Republican presidential front-runner squarely on the side of the Republicans in Congress, a group with toxic poll numbers that the president's campaign hopes will hurt his rivals for the White House.
ロムニーが反射的に、"議会をないがしろにするシカゴ・スタイルの最悪政治"と怒り狂えば、狂うほどホワイトハウスの思うつぼ。大統領選挙の相手は議会ではない。しかし、共和党の予備選トップ・ランナーが怒れば、共和党大統領候補は、3年間オバマの政策に反対して国民をないがしろにしてきた議会の共和党と同じということが浮き彫りになる・・・なるほどね。
中間選挙の完敗から、学んだものも多いのだろう。
ここまで我慢に我慢を重ねて、選挙年年頭の第一攻撃。しばらくはこの戦術が繰り出されるようだが、新聞に見抜かれたら、その時点で次の別の戦略を持っている筈だ。相手だってバカじゃないから何時までも同じ手は使えない。

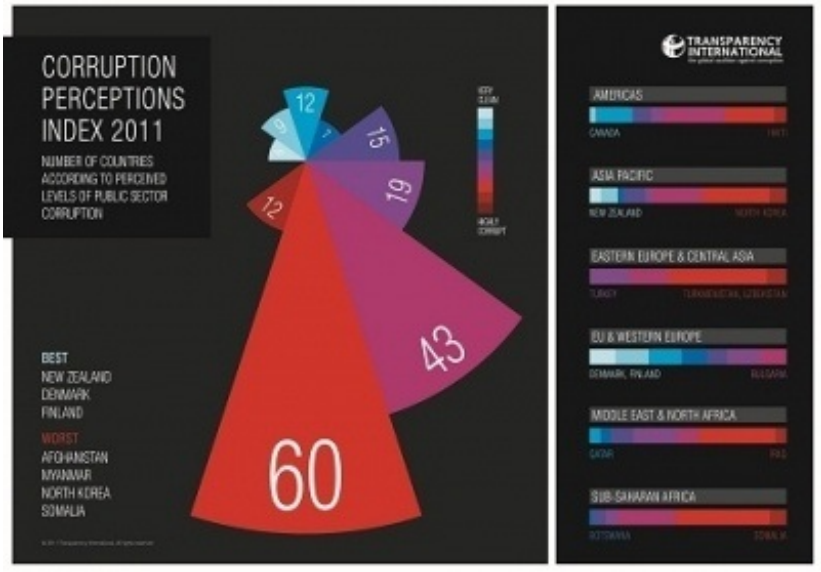
日本の新聞には、軍事費削減を心配する社説もあった。
あのね、オバマ大統領は利口なの。共和党と妥協する柔軟さは持っている。
昨年は、共和党が失業者などを人質に取って、オバマ大統領に譲歩を迫った。それは、それは酷いものだった。お陰でオバマ大統領の支持率は極端に下がった。
今度は、オバマ陣営が軍事費などを人質に取って共和党から譲歩を引き出すと同時に二期目を確実にする番なのだ。

東大、がんばれ。インナー・サークルの戦略を正確に読みきらないと駄目だ。

エリートだからね。名も地位もある奴だけ頭に入っているのだろうが・・・。
ワシントンの“全然有名じゃないけど最も力のある**25**人”のトップにオバマ大統領の日程を決めるアリッサ（Alyssa Mastromonaco）が挙げられ、その他にもホワイトハウスの若いスタッフが何人かいる。そこまで気を遣おう。

東大讃歌！

“知らんぷり”と社会劣化：**Social deterioration by ignorance　- 2012.01.18 Wed**



すばらしい記事に感謝する。
チャンドック医師の話の中に見直さなければならない典型的な問題がある。
Thanks for the insightful story.
I see a typical issue we all face in the statement of Dr. chandok.

チャンドック医師はこう言う；
“我々は99%”というウォールストリート占拠！（OWS）のスローガンを聞いたことはなかった。二人の子供がいて、一日11時間はたらいていれば政治にかまけている時間はほとんどない。スローガンが富裕層への富の集中に対する不満ということに対して、「4年間の学部生、4年間の医学部生、3年間の研修医、3年間の研究員生活うをしてきた私だ。不満を言っている人たちを見てご覧なさい。」
Quote; Dr. Chandok said she had never heard the Occupy Wall Street slogan “We are the 99 percent.” Two children and 11-hour workdays, she said, do not leave much time for politics. But when the slogan was explained as a complaint against the wealthy’s growing share of income, she shook her head. “I spent four years in undergraduate school, four years in medical school, three years as a resident and three years as a fellow,” she said. “You have to look at the people who are complaining.”

私の友人の医師は、OWSについて全く同じ事を言う。昨年9月の抗議運動以後何度も議論してきたが、絶好状態にある。友人の、この場合チャンドック医師の言い分に我慢ならないのは、世の中に対する無知さ加減だ。
医師たちは大学も含め、政治に対して組織的に大きな影響を与える強力な圧力団体である事実を知らない振りしている。1%富裕層の中のこのような意図的な“知らんぷり”が今日の混乱、別の言葉を使えば、社会の構造的欠陥の主な原因の一つだ。

医師になるための期間の長さ、長時間労働は弁解にもならないし、OWSの抗議と何の関係もない。抗議は、富裕層に貧乏になれなどと言っちゃいない。社会問題に対する知らん振りを止めろと主張しているのだ。
A friend of mine, a medical doctor in my country says exactly the same thing about OWS. We have argued a lot since the beginning of the protest in September last year and nearly made a break with him. I just can't stand his or Dr. Chandok's in this case, innocence or naivety about the world.
They simply pretend not to recognize that the doctors including academics are a powerful lobbyist group to influence politics systematically. This kind of intentional ignorance among 1 % is one of the major causes of today's mess, structural defect of the society in another word.
The length of professional training required and longer working hours should not be an excuse and have nothing to do with OWS protest. The protest does not want them to be poor but asks them to get rid of social ignorance.

今問題になっている1%の富裕層の実態はいろいろだというニューヨークタイムズの記事は一読に値する。
「**Among the Wealthiest One Percent, Many Variations**」（January 14, 2012）

私の投稿は（ロールダウンした番号50）、昨年実際にあったことだ。
努力したこと、高収入を得ていることを自慢するのは構わない。しかし、そうなれなかった人たちを、“惰眠をむさぼった怠け者”と決め付けるのには我慢ならない。

私は、医師、弁護士、会計士などになった人に対して特別の敬意はない。なる気があったらなっていたと思うからだ。多少頭が悪くとも努力と集中力なら大抵の奴には負けない。
重要な仕事だし、そうなるにはそれなりの努力もしただろうから認めはするが特別の敬意を払う存在とは思わない。
“その職業が好き”でなったのなら訓練に要する努力は当然である。自慢するほどのことではない。
問題は費用だ。なりたくてその頭脳はあっても学費の問題でなれなかった人もいる。
さらに、もっと問題なのは家庭環境だ。
貧乏に育った子供の学業成績が小学校低学年から劣ることは科学的にも統計的にも実証されている。
それは、政治問題である。
私が、社会的無知と怒りたくなるのは、実証されている事実に対する無知、或いは知っているのに“知らんぷり”するからだ。
一般的には敬意を受ける知的職業にある者たちのそういう“知らんぷり”が、社会の歪を大きくする、つまり加担していることを自覚しろってことだ。
お金に嫉妬している訳でも、職業に嫉妬している訳でもない。バカ者め。

遺稿集「イノベーションのメンタル・モデル」の表紙を変えた。

昨年末のOECDの社会正義（Social Justice）調査の結果一覧である。
画像クリックで報告書（pdf）を読むことができる。

Bottom of the Heap

Selected measures from the report "Social Justice in the OECD – How Do the Member States Compare?" Includes some categories of index ratings and some raw data.

Top 16 (Top 5) — Groupings may be larger in cases of ties. — Bottom 15 (Bottom 10, Bottom 5)

Ratings are weighted and on a scale of 1 (lowest) to 10 (highest).

Inter-generational justice rating *Includes family and pension policies, environmental policies and assessment of political-economic being established for future generations.*

	Overall social justice rating	Overall poverty prevention rating	Overall poverty rate	Child poverty rate	Senior citizen poverty rate	Income inequality (Gini Index) Higher numbers represent more income inequality	Pre-primary education Public expenditure on pre-primary education as a percentage of GDP	Health rating Inclusiveness, quality of service, and perceived health between highest/lowest incomes	Inter-generational justice rating
Iceland	8.73	9.07	6.4 %	6.7 %	6.7 %	0.301	0.75 %	8.53	7.18
Norway	8.31	8.87	7.8	5.5	8.0	0.250	0.42	7.30	8.53
Denmark	8.20	9.16	6.1	3.7	12.3	0.248	0.60	7.53	8.10
Sweden	8.18	8.43	8.4	7.0	9.9	0.259	0.67	7.87	9.00
Finland	8.06	8.53	8.0	5.2	13.0	0.259	0.36	7.17	8.01
Netherlands	7.72	8.88	7.2	9.6	1.7	0.294	0.38	7.08	6.82
Switzerland	7.44	7.39	9.3	9.4	17.6	0.303	0.19	8.03	7.55
Luxembourg	7.27	8.35	8.5	11.0	2.7	0.288	0.45	7.89	7.01
Canada	7.26	7.00	12.0	14.8	4.9	0.324	0.20	7.63	6.06
France	7.25	8.66	7.2	9.3	5.3	0.293	0.63	7.67	7.17
Czech Republic	7.17	9.18	5.5	8.8	3.6	0.256	0.42	5.84	5.97
New Zealand	7.14	6.27	11.0	12.2	23.5	0.330	0.45	8.18	6.98
Austria	7.13	8.49	7.9	7.2	9.9	0.261	0.45	6.87	7.11
Germany	7.03	8.12	8.9	8.3	10.3	0.295	0.40	6.63	6.87
Britain	6.79	6.92	11.0	13.2	12.2	0.345	0.28	6.77	6.95
Belgium	6.73	7.56	9.4	10.0	13.5	0.259	0.59	7.05	6.10
Hungary	6.41	9.14	6.4	7.2	4.7	0.272	0.69	5.08	6.04
Ireland	6.41	7.51	9.1	11.0	13.4	0.293	0.003	7.00	6.06
Italy	6.29	6.78	11.4	15.3	8.9	0.337	0.49	7.45	5.12
Poland	6.17	7.15	11.2	13.5	7.7	0.305	0.57	5.04	5.33
Australia	6.14	4.24	14.6	14.0	39.2	0.336	0.04	7.68	6.29
Japan	6.00	5.21	15.7	14.2	21.7	0.329	0.09	7.66	4.95
Portugal	5.97	5.77	12.0	18.7	15.2	0.353	0.37	5.66	5.60
Slovakia	5.96	8.33	7.2	10.7	7.2	0.257	0.37	5.04	5.24
South Korea	5.89	4.26	15.0	10.3	45.1	0.315	0.09	7.18	5.72
Spain	5.83	5.20	14.0	17.2	20.6	0.317	0.63	7.35	5.77
United States	5.70	3.85	17.3	21.6	22.2	0.378	0.33	6.23	5.95
Greece	5.37	6.24	10.8	13.2	22.7	0.307	0.11	6.61	3.47
Chile	5.20	3.30	18.4	24.0	22.8	0.494	0.59	5.65	5.92
Mexico	4.75	2.11	21.0	25.8	29.0	0.476	0.59	3.51	5.34
Turkey	4.19	4.26	17.0	23.5	13.7	0.409	0.02	3.79	5.05

Source: Bertelsmann Stiftung

長寿（健康度）だけが自慢できるということらしい。
他国と比較してもしようがないというのにも一理ある。それはそうだが・・・

冒頭のグラフは行政の汚職の程度を示す。日本は汚職が少ないランクにある。東大だもの・・・
バナナ共和国とは違うが、本当に誇って良いのかい？？？

稲田朋美氏の正論を題材にしたメンタル・モデル分析演習 - 2012.01.19 Thu

稲田氏の名前は知っていても、どういう政治家なのか全く知らない。今日はじめて書いたものを読んだ。産経新聞の「正論」である。

「弁護士、衆議院議員・稲田朋美　増税の前にやるべきことがある」（2012.1.19）

この短い文章から、氏の政治思想や知識の程度、つまりメンタル・モデルを読もうと試みる。好き嫌いとは無関係。無機的な解釈である。

国内総生産（ＧＤＰ）の２倍もの債務を抱える借金大国で財政再建をしようと思えば、社会保障を抑制して増税する以外にない。

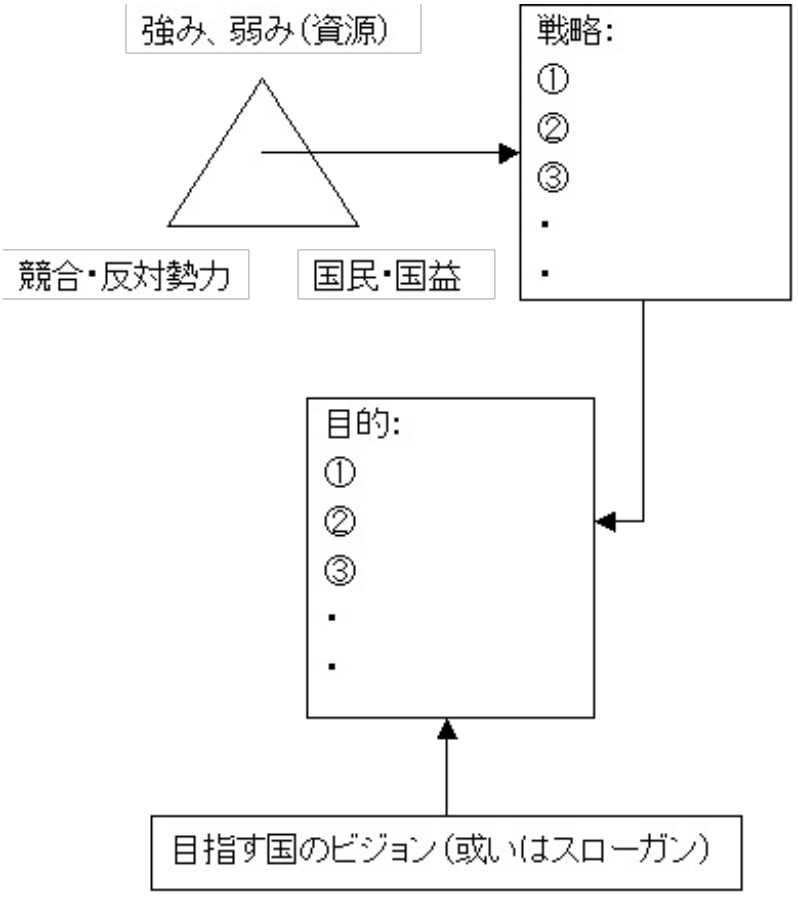
これは、一方的な見方である。このブログでたびたび紹介しているクルーグマン博士と真っ向から対立する考え。
GDPの65％は消費者の購買力。社会保障を抑制して増税すれば、購買力は落ちる。恐らく経済の知識に欠けていると思われる。

要は、社会保障を原則自立の例外と捉え直して、本当に国の手助けを必要とする人々を対象としたものに変えていく、ということだ。

この言は、小泉一竹中時代を思い起させるが、財政再建と繋げれば、この方は、俗に言う“新自由主義的な考え”の持ち主と思われる。

そもそも、政治家には、国家のために働くことに生きがいと誇りを感じる人がなるべきで、収入が少ないからなりたくないなどと言う人になってもらう必要はない。

この一連のくだりは、この方自らが政治家の政策・戦略能力を重視していないことを示す。思想信条だけで政治はできない。
官僚が作成する政策案を検証する、或いは独創的な経済・外交・軍事政策を立案し提案するには優秀な人材をスタッフとして持たなければできない。その費用は膨大である。
この方に代議士自らが、政策・戦略思考を持つ必要性を感じているとは思われない。



この戦略思考構造図に照らしてみると、新自由主義（市場原理主義）を国のビジョンと考えているのか不明だが、そのための戦略らしきものが、社会保障抑制と増税ということになる。

結局、この「正論」に関しては、「これらの大改革を断行するには強い政府でなければならない。破綻した公約の上に築かれた砂上の楼閣政権には、大なたなど振るえるわけがない。公約撤回–謝罪から始めるほかないのである。」ことを言うために、一票の格差是正問題まで持ち出して現政権を批判しているに過ぎないのであるが、この短い文章からだけでもかなりの推測が可能である。それをベースにして、これ以外の言動記録を戦略思考構造図を基につなぎ合わせていけば、氏の実像が見えてくる。

私は、本当にこの方のことは知らないので、今日書いたことに間違いがあると思う人、異論のある方は、お教えいただきたい。

無礼をお許しください、芳賀先生：産経新聞に感謝 - 2012.01.20 Fri

河合榮治郎も知らない無教養ですが、河合の恩師（らしい）新渡戸稲造が学んだ札幌農学校直系学科を卒業したという理由にもならない理由で、一言言わせていただきます。ご無礼のほど平に、平にお許し願いたく存じます。

今日の産経新聞「正論」
「東京工業大学名誉教授・芳賀綏　河合榮治郎に学ぶ真の自由主義」（2012.1.20）

芳賀 綏 （やすしと読むそうだ）先生：
昭和3（1928）年生まれ（北九州市出身）。昭和28年東京大学文学部卒業。東洋大・藤女子大・法政大助教授、東京工業大・静岡県立大教授を経て、東京工業大学名誉教授。

先生、若い人が読んでもわかるようにもっと易しく書いていただけませんか？

「党綱領さえ作れぬ雑居・滅裂集団を、どうして厳格な河合が容認できようか。
　「歴史に学ぶ」は日本人の口癖だが、純正自由主義者の思想とスピリットに学び、“亡国政治”の一掃を迫り続けるべきである。」

先生、河合はとにかく、私はとっくにあきらめました。
そして、先生、“迫り続けるべきである”はピントがずれています。

新渡戸が“武士道“を発表してから何年になりますか？
河合榮治郎の純正自由主義者の思想とスピリットを学んだ教養人たちは多数いますね？
・・・にも関わらず今の状態なのですよ、先生。

何かがおかしいと思いませんか？

思想とか理念とかは、それを達成する手法を持たなければ単なる念仏に過ぎないのです。それを教養人の証と考えてそこで留まるから、“〇〇すべきである”で終わってしまう。
“・・・すべきである”で教養人の役割終わり！
こんなことではさらに100年経っても何も変わりません。新渡戸も泣いていますよ。

教養人は、手法という言葉が嫌いですものね。戦略という言葉も嫌いでしょう？
小手先のこと、下賤の考えることと見ますからね。
それが、大きな間違い。

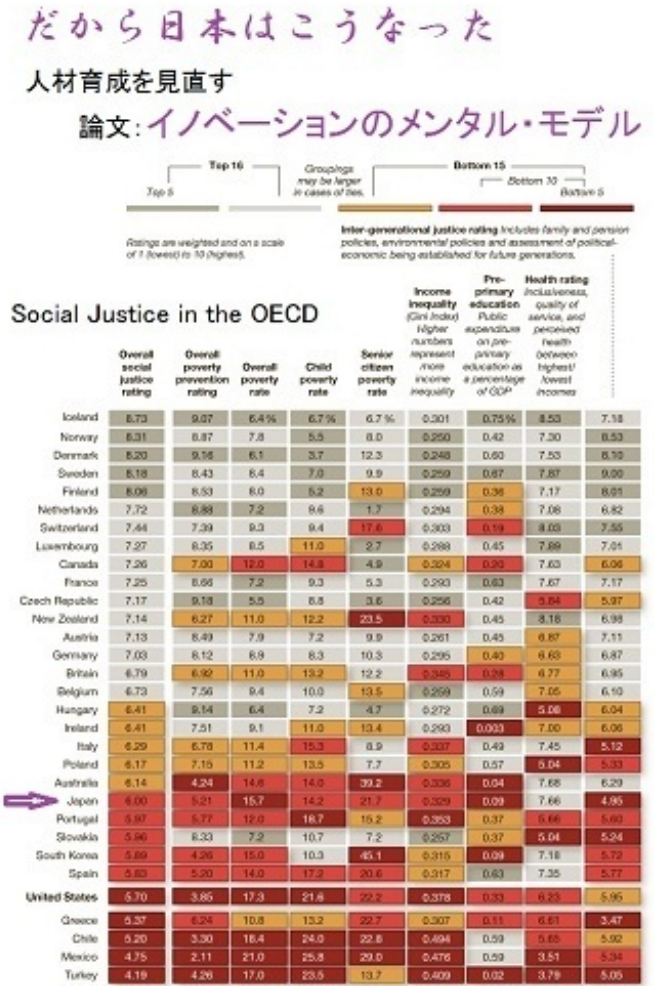
理念や思想と戦略手法は表裏一体。
もういい加減に気付けよ、天下の教養人たち！

何度も繰り返しますが、戦略は予測なの。
いくら立派な思想を叫んでも、耳を貸さない無法者は次から次へと出てくるのね。欲はなくならないから。
そういう無法者の手を読んで封じる。それが戦略なの。
封じ込んだままにするか、徹底的にぶちのめすかは、河合の言う“愛”次第なの。“同胞愛”でも、“人類愛”でもどっちでも良いのですけどね。
だから、戦略手法を持たない“愛”は似非教養人の口先に過ぎないの。何の役にも立たない。

こういうことを書いているのが、「手法を持たずに理念を実現できるか」なの。

ビジネス、特にイノベーションの手法を書いたのがウェブ・セミナー。

予測手法と戦略立案手法を体系化したものが、「イノベーションのメンタル・モデル」なのね。



だから日本はこうなった

人材育成を見直す

論文：イノベーションのメンタル・モデル

Top 16 — Top 5 — Groupings may be larger in cases of ties. — Bottom 15 — Bottom 10 — Bottom 5

Ratings are weighted and on a scale of 1 (lowest) to 10 (highest).

Inter-generational justice rating includes family and pension policies, environmental policies and assessment of political-economic being established for future generations.

Social Justice in the OECD

	Overall social justice rating	Overall poverty prevention rating	Overall poverty rate	Child poverty rate	Senior citizen poverty rate	Income inequality (Gini Index) Higher numbers represent more income inequality	Pre-primary education Public expenditure on pre-primary education as a percentage of GDP	Health rating Inclusiveness, quality of service, and perceived health between highest/lowest incomes
Iceland	8.73	9.07	6.4%	6.7%	6.7%	0.301	0.75%	8.53
Norway	8.31	8.87	7.8	5.5	8.0	0.250	0.42	7.30
Denmark	8.20	9.16	6.1	3.7	12.3	0.248	0.60	7.53
Sweden	8.18	8.43	6.4	7.0	9.9	0.259	0.67	7.87
Finland	8.06	8.53	6.0	5.2	13.0	0.259	0.36	7.17
Netherlands	7.72	8.88	7.2	9.6	1.7	0.294	0.38	7.08
Switzerland	7.44	7.39	9.3	9.4	17.6	0.303	0.19	8.03
Luxembourg	7.27	8.35	8.5	11.0	2.7	0.288	0.45	7.89
Canada	7.26	7.00	12.0	14.8	4.9	0.324	0.20	7.63
France	7.25	8.66	7.2	9.3	5.3	0.293	0.63	7.67
Czech Republic	7.17	9.18	5.5	6.8	3.6	0.256	0.42	5.84
New Zealand	7.14	6.27	11.0	12.2	23.5	0.330	0.45	8.18
Austria	7.13	8.49	7.9	7.2	9.9	0.261	0.45	6.87
Germany	7.03	8.12	8.9	8.3	10.3	0.295	0.40	6.63
Britain	6.79	6.92	11.0	13.2	12.2	0.345	0.24	6.77
Belgium	6.73	7.56	9.4	10.0	13.5	0.259	0.59	7.05
Hungary	6.41	9.14	6.4	7.2	4.7	0.272	0.69	5.08
Ireland	6.41	7.51	9.1	11.0	13.4	0.293	0.003	7.00
Italy	6.29	6.78	11.4	15.3	8.9	0.327	0.49	7.45
Poland	6.17	7.15	11.2	13.5	7.7	0.305	0.57	5.04
Australia	6.14	4.24	14.6	14.0	39.2	0.336	0.04	7.68
Japan	6.00	5.21	15.7	14.2	21.7	0.329	0.09	7.66
Portugal	5.97	5.77	12.0	18.7	15.2	0.353	0.37	5.66
Slovakia	5.96	8.33	7.2	10.7	7.2	0.257	0.37	5.04
South Korea	5.89	4.26	15.0	10.3	45.1	0.315	0.09	7.18
Spain	5.83	5.20	14.0	17.2	20.6	0.317	0.63	7.35
United States	5.70	3.85	17.3	21.6	22.2	0.378	0.33	6.23
Greece	5.37	6.24	10.8	13.2	22.7	0.307	0.11	6.61
Chile	5.20	3.30	16.4	24.0	22.8	0.494	0.59	5.65
Mexico	4.75	2.11	21.0	25.8	29.0	0.476	0.59	3.51
Turkey	4.19	4.26	17.0	23.5	13.7	0.409	0.02	3.79

先生、もう“・・・すべき”はジ・エンドにしましょう。

河合榮治郎に喝を入れて貰う代わりに転生前の故“渡辺　日出男”の本をみんなに紹介してください。
そして、HideoJapanと一緒に総理大臣甲子園やりましょう。

産経新聞大好きです。ブログの最適ネタをタイミング良く書いてくれるので助かります。ありがとうございます。

トヨタいじめ：大前研一氏のOp-Ed分析 - 2012.01.22 Sun

やっと決着ついた。発生から実に2年3ヶ月。

Members of the science committee said that despite its shortcomings, the safety agency had done all that it was capable of doing to determine why Toyotas were suddenly accelerating out of control and causing serious accidents. They concluded that the agency had correctly closed its investigation after failing to find evidence of defects in Toyota's electronic throttle systems.
「**Road Safety Agency Is Urged to Add Expertise in Electronics Systems**」（January 18, 2012）

The National Academy of Sciences was asked to review procedures at N.H.T.S.A. after the agency's investigation of unintended acceleration of Toyota vehicles and a possible link to electronic-control systems. The Japanese automaker recalled more than eight million vehicles worldwide in 2009 and 2010 to fix sticky accelerator pedals or replace faulty floor mats that Toyota had claimed could cause unintended acceleration.

フロアーマットがアクセルに絡み付いて戻らなくなるってのが、どうしてもわからない。純正しか使ったことがないからだが、カーペットみたいな分厚いものを使えばそうなることもあり得ると知り合いが言っていた。
しかし、それは消費者の責任だろう。（トヨタは当初、そう言って、それもまたトヨタ叩きの材料にされた。）

NASとNASAが強力な磁場を作って実験したことは以前のブログでも書いたし、「**GM**再建とトヨタ潰し」にある筈だ。

苦しい言い訳がこれだ。
A branch of the National Academy of Sciences reported Wednesday that federal safety regulators lack the expertise to monitor vehicles with increasingly sophisticated electronics.
「GMを有利にするためのでっちあげ事件でした」と書ける訳がない。
せいぜい、努力してください。

Sonicのブレーキパッド入れ忘れるくらいだからGMはどうだか知らないが、製造業のまともなところは、エレクトロニクス回路に想定外の大電流や磁場の発生にはもの凄く敏感で、そんな試験はどこでもやっている。
ウェブセミナーや「イノベーションのメンタル・モデル」の謝辞にあるちっぽけな“ペルチェ素子”の開発でも、水分の浸入や回路断線の原因となるかもしれない磁場、大電流、信じられないほどの落下衝撃試験等々、嫌というほど繰り返して開発した。
もちろん、そんなことやらないとんちんかんな会社もある。そんな会社は淘汰される。
やったって淘汰される場合もある。それが、ビジネス（マーケティング）の厳しさなのだ。
株主至上主義（市場原理主義と同義といって良い）の問題はここにもある。
利益、利益と迫られるから、想定外の実験設定レベルが低くなる。時間と費用が掛かるからだ。
その結果、びっくり仰天が起こる。
福島第1については検討したことないから具体的には言えないが、基本的な問題の構図は同じだ。

私が論文「イノベーションのメンタル・モデル」で定義しているメンタル・モデルは、知識と思考パターンという狭義である。
それは感情と無関係。「食べログ」に関するブログで、有機、無機という言葉を使った。英語の訓練も無機であり孤独で辛いものだとも書いた。

したがって、この狭義のメンタル・モデルを使えば、書いたものから人の知識と思考パターン（無機的な部分）の推測がつく。勿論、人は優しさとか冷たさとか諸々の性格（有機的な部分）があるから、人をメンタル・モデル（無機的な部分）だけで評価するのは間違いだ。
しかし、政治家、官僚、学者、評論家、メディアなどなど、公的な責任を負わなければならない職業にある者、つまり一般大衆に対して責任のある職業に好んで就いた者は、有機だけで事足りる訳がない。
有機を支える無機の部分に突出するものがなければ、そんな職業を選ぶこと自体が間違いなのだ。

志、志と唱える輩の信用できないのは、無機の孤独や辛さを知らないからだ。知っている者は、

志などという言葉は使わない。目的を持ち孤独や辛さに耐えることが志の発露だからだ。達成できても謙虚に、“まだ足りない”と思えば続ける。志があると言ったところで何の役にも立たない。「志を持って～を行います」と言う奴は、「私は意志が弱いので、できるかどうかわかりませんが、今の時点では～を行うつもりでがんばってみます」と言っているのと同じだ。大体、がんばりきれないでヘタる。古タイヤと同じだ。信用できる訳がない。

「**GM**再建とトヨタ潰し」に、大前研一先生のOp-Edを紹介し、恥ずかしいと書いた。今、考えても恥ずかしい。
恥ずかしいというのは私の感情である。
訳のわからない若い連中が、国家戦略相にもっとも相応しい人と言っていたこと、そして、世界27位（日本最高位）の戦略家と言われているからだ。
もっとも、“戦略は、メンタル・モデルと関係がある”と言う程度に留まっているハメル教授（論文「イノベーションのメンタル・モデル」を読んでいない人にはわからないだろうが）が第1位だから、どこまで信用できるランク付けかは不明。

アホらしくて、感情だけしか書かなかったが、今日はアホらしいという部分を補足する。メンタル・モデルに関係することだからだ。

あのOp-Edは；「エレクトロニクスで制御されるエンジンのインプットとアウトプット数が大幅に増えたために、以前のようにエンジン全体がどうなっているかわかる人がいなくなった。トヨタの“カイゼン”方式ではもはや対応不可能」ということである。最後に、何やらエレクトロニクスと人間の関係みたいなどうでも良いことが書いてある。昔、どこかで読んだような・・・。
車は、「動かす、走る、曲げる、もっと曲げる、戻す。もっと戻す、加速する、減速する、ゆっくり止まる、急に止まる、エンジンを止める」という極めてシンプルな機械である。それはエレクトロニクスが採用されようが同じことである。電子化されて空を飛ぶわけではない。
それぞれの動作を“ブロック”とする。この“ブロック”自体は変わらない。変わったら大変だ。曲げたのに戻ったら困る。
インプット、アウトプットが増えているのは、それぞれの“ブロック”の効率（燃費への影響、動作のスムーズさ等々）を高めるためだ。それぞれ独立した“ブロック”のインターフェースは誤作動の原因になる場合もあるから、この点に細心の注意を払う。ソフトもハードも同じ。細心の注意を払う。
それが、トヨタレベルの研究、生産技術、製造、すべてに流れる思考と行動のパターンなのだ。
それだけだ。
これが、製造業の本質だ。
ブロック内の、そしてインターフェースの“カイゼン”はエレクトロニクスで複雑になろうがなるまいが未来永劫必要なのだ。

これを知っていたら、アクセルを吹かしていないのに勝手に加速するなど誰が信じるものか。

あのOp-Edを読んだ瞬間、大前先生は製造業というものを理解されていない、つまり知識が不十分なのだとわかった。単に、知識がないだけのことである。
もう一つ、昔のエンジン技術者の話を引用して、エンジンの全貌を知る人がいないという件だが、この方は想像力のない人だなぁ～と思った。
インプットとアウトプットが増えても、エンジンのはたらきを正確に掴んでいる人がいなくてどうするの。いますよ。当たり前じゃないですか。
複雑化ー目視不可ー理解不能というのは、単に話を聞いたエンジニアの想像力不足のなせる業で、それを鵜呑みにしてOp-Edに書くのかと驚いた。

大前先生は知識がないで済んだが、バカだなぁ～こいつと思ったのは、たしかスティーブ・ジョブズと共同でアップルを創業したとかいうソフトの超有名人が、「ソフトに欠陥あり」と書いたことだ。欠陥ソフトなら、そんなものは検査でわかるし、車が市販されることはない。ソフトだって、バグ検査はするだろうに、製造業の実験手順や検査基準を全く知らないバカと思った。
「**GM**再建とトヨタ潰し」には名前も書いてあるはず。

書くという行為は、大きなリスクを伴う。有機だけでホンワカしているうちはまだいい。
しかし、無機で分析されたら信用失墜する。
デジタルになって記録が後々まで残るし、容易にリトリーブ可能だから恐ろしい。

まぁ、読む方がバカの内は大丈夫だ。

コロっと変って：

SIX ONES クリックで100年に一度の大幸運

Ms. Dowd, you will lose your friends：ダウドさん、友達失くしますよ **- 2012.01.23 Mon**

“the president could get 70 or 80 percent of the vote anywhere but the U.S.”

Ms. Dowd, do you know why?

The world knows that Mr. Obama is a sensible person as president of the U.S. and any Republican substitute would cause more disaster to the world.
Thanks to that American-made “trickle down” globalization, our society got messed up, much larger social divide, only during six years after 1998. I don’t blame you for this because it was our fault anyway. However, you are responsible for the Mid-term election because it became the major cause having delayed Mr. Obama’s economic recovery plan, which has obviously affected the stagnation of world economy.
Ms. Dowd, the third round is going to be more important. If you help go back to the party of “trickle down”, you will lose all of your friends. I don’t care whether you like or dislike Obamas but beg you to listen to the voice of the world. The U.S. is not standalone.
ダウドさん、“アメリカ以外ならオバマは投票の70～80%獲得する”理由お分かりですか？
オバマさんがアメリカ大統領として分別のある人ということ、もし、共和党の誰かが大統領になったら世界をもっと悪くすることを知っているからですよ。
あのアメリカ製の“トリクルダウン”のグローバリゼーションのお陰で、1998年からたった6年間で日本は社会格差が大きくなってめちゃくちゃになりました。これは、私たちの責任ですから責めません。しかしですね、中間選挙はあなたたちの責任ですよ。あれでオバマさんの経済再生計画が遅れ、世界経済の停滞に影響したからです。

三度目はね、ダウドさん、もっと大事ですよ。共和党に戻す手助けをするなら、あなた、友人を失くしますよ。あなたがオバマ夫妻を好きか嫌いかはどうでもいいのですが、頼むから世界の声を聞いてください。アメリカがアメリカだけでなりたっているのではないのですから。

投稿に間に合わなかったので、誰かの目に留まるかと期待して。

共和党の大統領予備選挙の第3戦（サウスカロライナ州）で、2勝のミット・ロムニー氏を大差で破ったのが、ニュート・ギングリッチ氏（Newt Gingrich）。

ダウド女史（ピュリツアー賞受賞のジャーナリスト）は、オバマ大統領夫妻が自分たちはアメリカの犠牲と言い、ギングリッチ氏は、メディアのオバマ支援の犠牲者という犠牲者同士の戦いと揶揄半分でオバマ大統領夫妻を攻撃するコラムである。よっぽど嫌いらしい。以前は、ここまであからさまではなかったが、11月6日（大統領選挙）はもうすぐだから・・・。
「**Showtime at the Apollo**」（By MAUREEN DOWD: January 21, 2012）

コラムの出だしは以下ですが、Apolloは劇場、そして、これを聴きながら読むとわかり易いと思う。
“FOR eight seconds, we saw the president we had craved for three years: cool, joyous, funny, connected.
“I, I’m so in love with you,” Barack Obama crooned to a thrilled crowd at a fund-raiser at the Apollo in Harlem on Thursday night, doing a seductive imitation as Al Green himself looked on.

共和党の予備選報道を見ているとこっちまで気が狂いそうになる。
ロムニー氏（投資会社をやっていてお金持ち。父親の遺産も膨大）は、税金の明細公開要望に対してムニャムニャとはっきりしない答えでごにょごにょ口を濁す。この人は、相当の嘘つきです。
また、今回勝ったギングリッチ氏は、歴史学者で下院議長を勤めたこともある人だが、保険会社や金融機関のロビイストとしてお金を作ったらしい。ロムニー氏ほど金持ちじゃないので、貧乏人の味方をひとつの売りにしている。これは、詭弁。

サウスカロライナの直前、今の奥さんと浮気しているのを二番目の奥さんが責めたら、“open-marriage”にしようと言ったとテレビでばらした。開放結婚というのは浮気OK結婚ということかね。これでも、サウスカロライナで大勝だからね。わからない国だ。
もうひとつ、サウスカロライナは特別の州ってことがある。
歴史的に、この州で勝った人が共和党大統領候補になるそうだ。白人至上主義の州だから。今回はオバマ大統領が相手だから、人種問題が色濃く影響している。その特殊事情は過去にないため、今回ギングリッチ氏が勝ったからといって、他の州で予備選を勝ち抜く保証にならないというのが一般的な見方のようだ。

日本の報道を補足する意味でこんなものを読むのはどうだろう。

「**Marianne Gingrich, Newt Gingrich's Ex-Wife, Reiterates 'Open Marriage' Claim In ABC Interview**」（Updated: 1/20/12）

Editorial
「**Mr. Gingrich’s Deceptions**」（January 22, 2012）

オバマさんが勝ったとしても日本に対して厳しいが、こっちがきちんと理に叶ったことをやるなら交渉の余地はあると思う。しかし、共和党の誰がなっても理など通らないだろう。はちゃめちゃだもの。サーカス・アニマル（**Circus animal**）みたいなもんだ。勝手で、騒々しくて、飛び掛ってきそうで・・・。

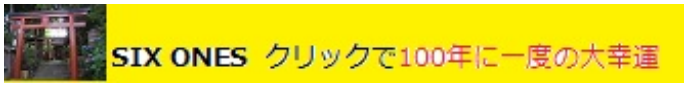
そして、日本はまた市場原理主義の連中が幅を利かすようになる。

怖いんだ、実際。

どうするんだ、みんな。

関係ないってか？

コロっと変って：



空の目（JALの目）：野球の話 - 2012.01.24 Tue

朝、コーヒーいれている時ふと、“受験のシーズンになるな”と思ったら、即座に、

胃にもたれる東大弁当

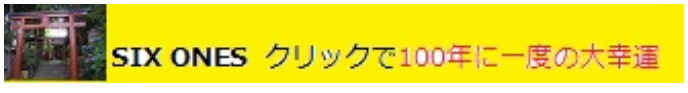
胃にもたれる東大ラーメン

胃にもたれない“ここにわ”・・・

と連想が続いた。

東大コンプレックスだ。

明日から4日間ポスティングやるので、東大弁当みたいなものを書けるのは今日だけ。気合入れて書くから、リラックスして・・・・



SIX ONESの意味がわかったら直ぐ閉じて！
2回クリックしても何の役にも立たないし・・・・（意味不明？）

大学でキャッチャーやっていた。
“野選”ってご存知？
英語では、fielder’s choiceという。
この訳語もすごいが、例えば、一塁にランナーがいて、打者がバントするとしよう。キャッチャーが、そのボールを捕って一塁に投げればバントした打者はアウトになってランナーは二塁に進塁する。ところが、ランナーを指そうと思って二塁に投げる場合がある。進塁させたくないから。間に合わなくてセーフになる。この場合、キャッチャーはアウトを取るための（投げる）選択を誤ったことになる。これが、野選の意味だ。
プロなのに、しょっちゅう同じミスを犯すキャッチャーがいた。

動作を分ける。

1.バントする。
2.キャッチャーはランナーを見る。
3.球を捕るために目を切る。
4.球を捕る。
5.一塁か二塁に投げる。

一塁に投げるか、二塁に投げるかは、ちらっとランナーを見た瞬間に判断する。
この“瞬の間”に、バントの方向、強弱、自分が捕るまでの時間、セカンドの動き等々を全部見て無意識に時間を測っている。

それは、ちょうど野球版の真上から見て、全体像と動きの動画イメージが頭の中にあって、自分の動作（立ち上がる、球を捕る、投げる球のスピード）とシンクロした状態だ。

同じ過ちを犯すプロは、多分この動画イメージとシンクロに問題があるのだと思う。私は、選手としては下手糞だがこの点でミスを犯したことはない。
そして、大学生の頃にこの動画イメージとシンクロを“自覚”していた。
俺は空に目があると思った。

イチローみたいなすばらしい外野手は、打者が打った瞬間に球の落下地点に一目散に走って、実にタイミング良くクルっと身体を返して補給する。まるで背中に目があるようと称されるのは、多分同じことだ。“自覚”しているかどうか知らない。

吉本隆明が、「臨死体験者が、見てもいない病室の状態、医師や看護婦の動きが見える」とハイイメージ論?に書いていることをブログにも出版のどこかにも紹介した。吉本は、それを“第三の目”と呼んでいる。
この本を読んだ時、最初に思い浮かべたのが、見ていないのに見える野球で体験した空の目だ。

アルペン競技のスキーヤーが出走前に目を瞑ってコースをなぞっている光景を観たことがあるだろうか？

あれも多分、旗門のすべてを“空の目”でなぞっているのだろう。

ちょっと息抜き。別にそそられないけど・・・

これは、やばっ！

何で、フリーの鳥居イラスト検索でこれが出てきたのか？・・・・・鳥居ね。
出処不明。著作権持っている人教えてください。削除します。その間、出版物無料で読んでいいですから。

“地の目”、もとい、“空の目”は、誰もが持っている。

但し、分野、分野によって持てる人も、目の鋭さも異なる。スポーツの天才たちの目はすごいが、あるスポーツで持てても他では持てないのが普通だろう。

“空の目”は、自分すら客体化してしまう無機で冷徹なものだ。（あぁ、気が散る）
“空の目”は、誰もが持っている。
ただ、持っているのがどの分野なのか、それを自覚しているかが問題になる。

「イノベーションのメンタル・モデル」を目にした（読んだとは言わない）人は、途中で嫌になった筈だ。特に、理論パート1、及びパート2は、私自身の体験をクドクドと述べているから、退屈だろうし、その分野を知らない人は興味も湧かないのが普通だろう。
人によっては、自慢話と思うかもしれない。
しかし、ここは意識して、これでもか、これでもかとクドクド書いたのだ。体験したのは私自身であっても分析するのは“空の目”だからだ。

論文を大学教授に繋いでくれるとか言った奴が、（私の体験だから）結局、主観ですよねと言いやがった。この一言で、こいつに“空の目“を話しても到底わからないとあきらめた。でも、これが普通。あなたも同じかもしれない。
ということで、大抵、途中で読むのを止めるから「プリウス事例研究」（165ページ）まで行った人はいないのだろう。
MITや“知識創造企業”の野中教授らの分析と比較してごらん。
レベルが違うから。
ここを理解すると、GMも結局同じことをやるのだということがすぐ理解できる。ビジネス戦略は、企業は違ってもやることは同じ。

ボルトで技術力を見せ、利益を向上するために高級車に力を注ぐというやつだ。慎重な振りしているけどやる。
プリウスの宣伝効果を基にレクサスで企業収益を上げたトヨタと同じ。
「**G.M. Regains the Top Spot in Global Automaking**」（January 19, 2012）

時代が違うからダメだという見方もあるが・・・
「**Auto Industry May Want to Look at That Luxury-Car Plan Again**」（January 14, 2012）

“企業は違ってもやることは同じ”と言っても何が同じなのか、“空の目”と言っても、どうやって獲得すれば良いのかわからない。
しかし、論文で明らかにしたメンタル・モデルがある。思考パターンだ。
“空の目”を誰でも持てて使えるようにしたのがこれなのだ。

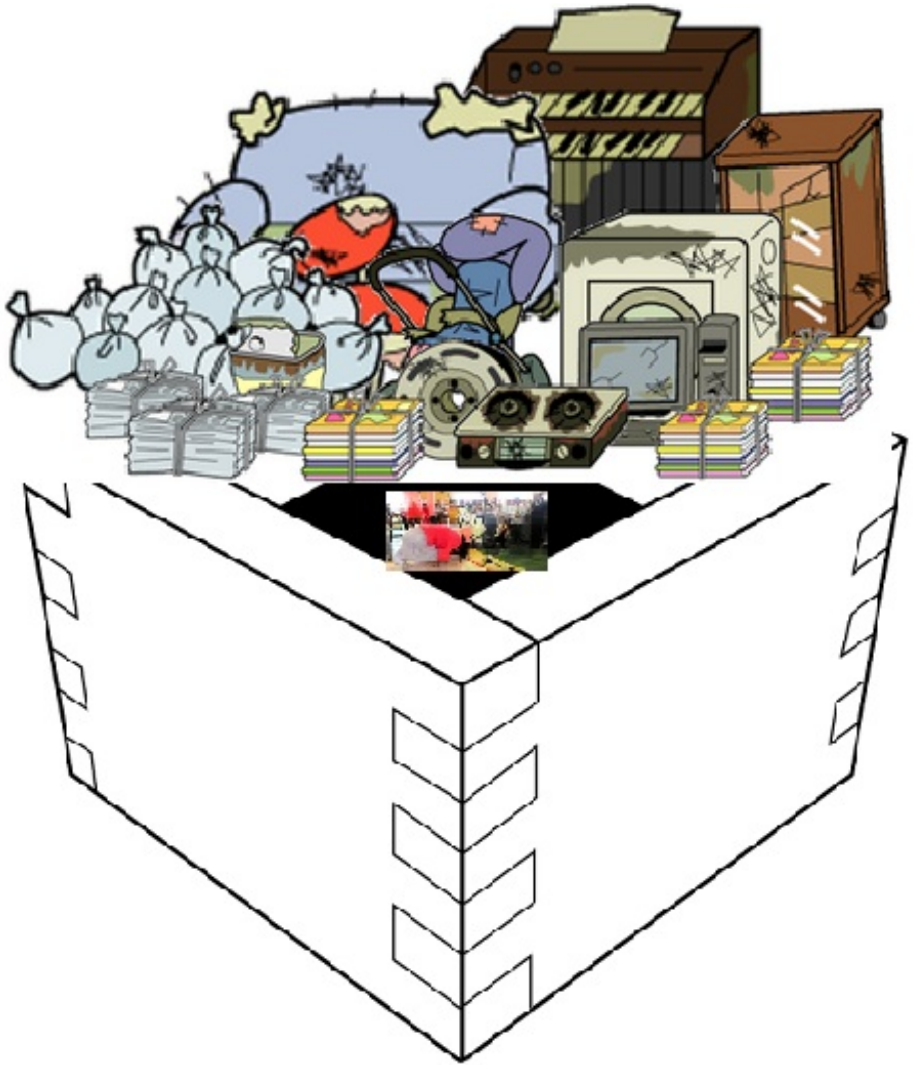
あの論文は、こういうものなのだ。
書いた奴は輪廻してしまったから、野球盤使って解説したが、**SIX ONES**のご利益あったろうか？

10年来のあこがれ“ちあきちゃん”とも友達になれたし、万歳だ。ヤバ鳥居、ごめんね。

誰かは、Facebook！

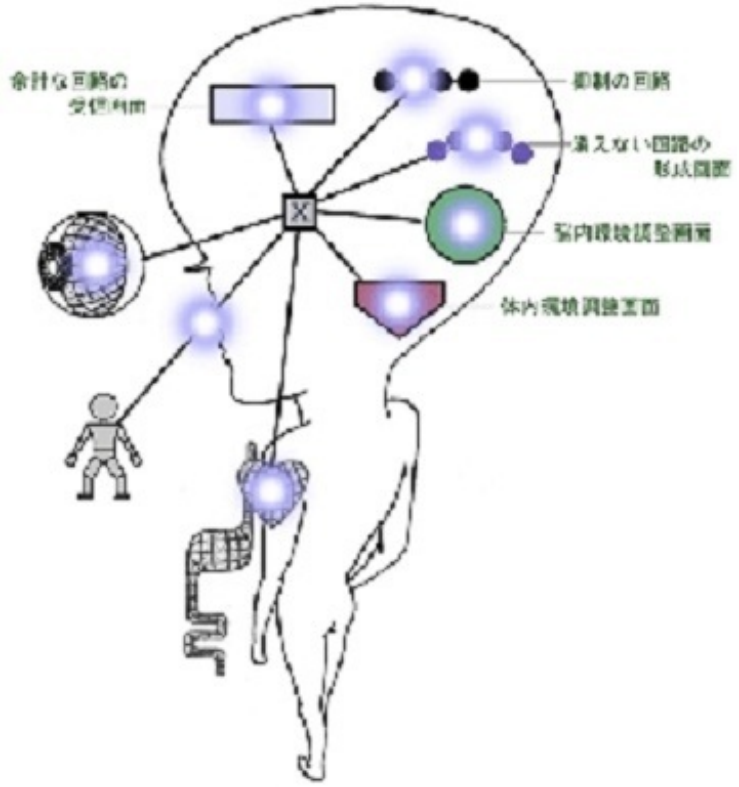
マスゴミの正体：恐怖と不安 - 2012.01.26 Thu

インターネットの世界にはマスゴミという言葉が氾濫している。私は、この言葉を使う人が好きではない。



おやじギャグじゃなくてペイント　（ごみに押しつぶされる土下座最高！）

いきなり、話は変わる。



“恐怖”（危険性の察知と反応）は昆虫や寄生虫を含めてすべての動物に共通するものだが、不確かなものに悩む“不安”は、予測能力に係るもので、特に人間に特有のものといっても良い。人間は、他の動物と異なり将来に自らを投影する。

Every animal (including insects and worms, as well as animals more like us) is born with the ability to detect and respond to certain kinds of danger, and to learn about things associated with danger. In short, the capacity to fear (in the sense of detecting and responding to danger) is pretty universal among animals. But anxiety ― an experience of uncertainty ― is a different matter. It depends on the ability to anticipate, a capacity that is also present in some other animals, but that is especially well developed in humans. We can project ourselves into the future like no other creature.

不安が不確実性によって起る以上、人間の不安は将来、存在する場所、さらには、物理的に不可能なことまでをも想像する能力によって増幅される。想像力は未経験のことや起る可能性がほとんどないシナリオにも思いをめぐらせることができる。

人間は、生活をより良くするか思いめぐらせ、この創造力を最大限に使う。しかし、往々にして非生産的な使い方をする。つまり、物事の結果に対して過度に悩みがちである。

While anxiety is defined by uncertainty, human anxiety is greatly amplified by our ability to imagine the future, and our place in it, even a future that is physically impossible. With imagination we can ruminate over that yet to be experienced, possibly impossible scenario. We use this creative capacity to great advantage when we envision how to make our lives better, but we can just as easily put it to work in less productive ways ― worrying excessively about the outcome of things.

「**The Brain and the Roots of Fear**」（January 22, 2012）

話はまた変わる。

アメリカで火曜日（日本では昨日）、オバマ大統領が一般教書演説を行った。
画像に合わせてスクリプトが現れるNYTをご覧になったろうか？
President Obama's 2012 State of the Union Address ― Full Transcript - Interactive Feature - NYTimes.com

全般的なことは日本の報道にもあるから触れないが、経済実績の第一番に挙げたのが、G.M.救済勝利宣言だ。

No, we will not go back to an economy weakened by outsourcing, bad debt, and phony financial profits. Tonight, I want to speak about how we move forward, and lay out a blueprint for an economy that's built to last — an economy built on American manufacturing, American energy, skills for American workers, and a renewal of American values.
Now, this blueprint begins with American manufacturing.
On the day I took office, our auto industry was on the verge of collapse. Some even said we should let it die. With a million jobs at stake, I refused to let that happen. In exchange for help, we demanded responsibility. We got workers and automakers to settle their differences. We got the industry to retool and restructure. Today, General Motors is back on top as the world's number-one automaker.

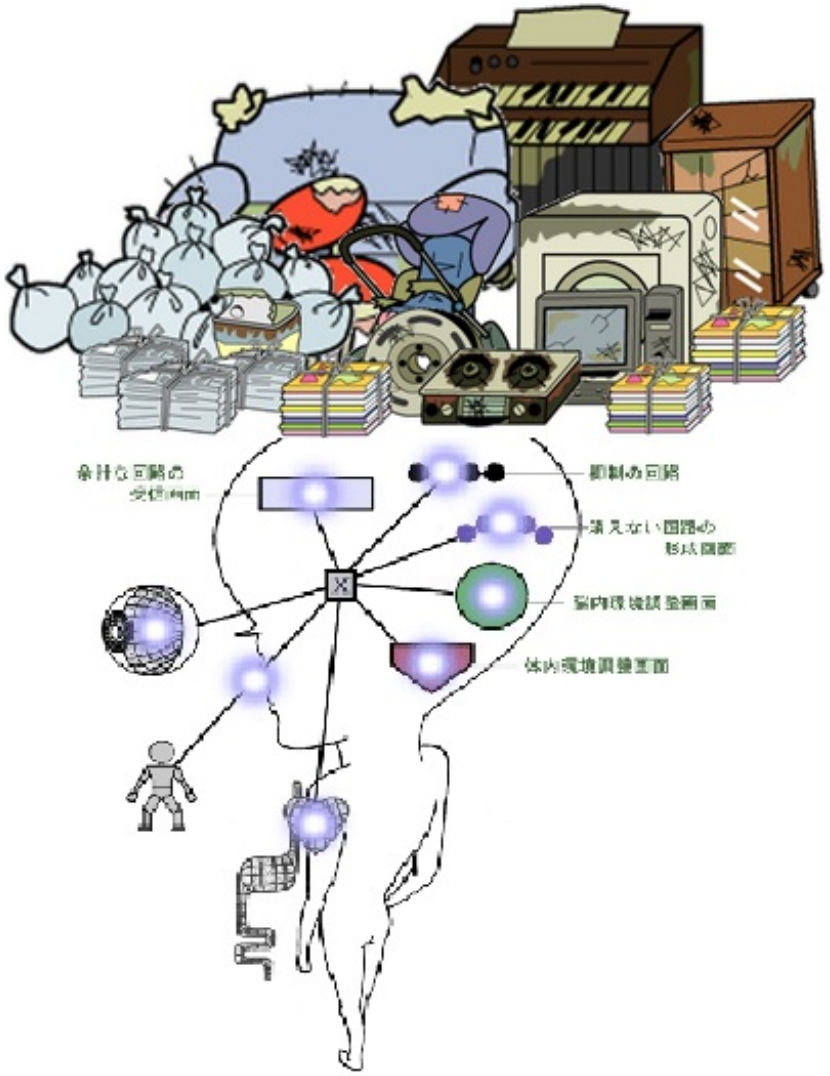
政府保有（21％）の株式が53ドルで売れて投資全額を回収していたら馬の鼻息になったであろうが、そこまでいかずともとにかく勝利宣言である。

G.M.救済当時（2008年）の読売新聞の記事に、見方が甘いと“けちを付けた”。しかし、だからといってマスゴミとは言わない。
いくらインテリでも記者である。私のブログのように、“トヨタはやられる”などと書けない。書けば、「お前の一人よがりの勘だろう」と言われて、ちょんである。
しかし、もし書いて、NUMMIを閉鎖するな、ほらやられた、とシリーズにしたら、二年以上続いたヒット記事になったかもしれない。
その間に、どこかから圧力がきたかもしれない。
そうなったら面白かっただろうが、だからといって、やらなかった新聞をけなしてもしようがない。シリーズをやったら、記者も、認めた編集長も終わりまで不安でたまらない。間違っていたら（不確実）どうしようという心配するからだ。
トヨタのリコールでは、当時大臣だった前原氏が、トヨタを呼びつけて顧客を大事にしなければみたいなピント外れの小言を言った。石原都知事は、アメリカも誇りがあるからみたいなことを言った。前原氏よりははるかにましなコメントだ。そして、あの大前大先生のOp-Edだ。

マスコミがゴミなのではない。

誰がどれとは言わないが、想像力がまったくないか、立場を考えない無責任か、それとも折角の想像力を創造的にし得ない非生産的な使い方になっているかのいずれかということだ。

つまり、ゴミが詰まっているのだ。



マスゴミ呼ばわりする人も同じではないのか？

「GM救済とトヨタ・リコール事件」を読んでいない人にはわからないことを書いた。

お互いゴミを溜めないように祈りましょう。

SIX ONES クリックで100年に一度の大幸運

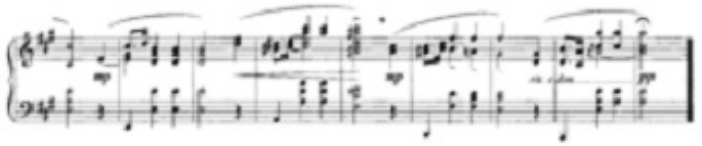
石原新党、党名決まる：**AKB**が応援歌 **- 2012.01.28 Sat**

（ウィキペディアより）

いいですよ、石原さん。商標登録なんかしていませんから。
いいじゃないですか、新党「総理大臣甲子園」
さすがに転生しただけのことはある。
伸晃（のぶてる）を総理大臣にするためって噂もあるけど、それもいいじゃないですか。
家族に捉われているうちは100％転生はないが、50％でもいいじゃないですか。
・・・伸晃はなれませんですけどね。
300万人もの人が伸晃のメンタル・モデルを分析するのですよ。無理でしょう。
AKBが応援歌うんですってね。いいですよ、Exileでも、矢沢でも、氷川の演歌でも。

総理大臣甲子園

作詞・作曲：石原転生



「一枚は自分の小遣いで買うから、もう一枚はお父さんが買って？」って言われるんですよとこぼす父。
ファンの支持で順位が決まるんですってね。
この話を聴いたとき、天才プロデューサー秋元康はPimpか？と失礼なことを考えてしまった。

本人たちも有名になって喜んでいるのだからいいじゃないか。
・・・でも、これだって一種のExploitationだ。
親は、タレント養成所に通わせ大金を使う。
ファンは、一枚でいいのに二枚も三枚も買わされる。
天才的な仕組みだ。
一億総アホ化陰謀の“担い手”秋元康。ご立派。
Pimpなんて失礼なことを・・・お許しください。

In November, a terrified 13-year-old girl pounded on an apartment door in Brooklyn. When a surprised woman answered, the girl pleaded for a phone. She called her mother, and then dialed 911.
The girl, whom I'll call Baby Face because of her looks, frantically told police that a violent pimp was selling her for sex. He had taken her to the building and ordered her to go to an apartment where a customer was waiting, she said, and now he was waiting downstairs to make sure she did not escape. She had followed the pimp's directions and gone upstairs, but then had pounded randomly on this door in hopes of getting help.

Op-Ed Columnist
「**How Pimps Use the Web to Sell Girls**」（NICHOLAS D. KRISTOF　January 25, 2012）

尖閣の時には、コメント受付を閉じなかったのに、今回は早くに閉じられたので投稿できなかった。

Mr. Kristof,
Your article reminds me of “the Whistleblower”, a film of girls trafficking in Bosnia where peacekeeping UN officers are not only customers but actually help the trafficking organization. I have been wondering why the US didn’t help the whistleblower, an American woman police officer.
あなたの記事を読んで“トゥルース”を思い出しました。ボイニアの少女売買の映画ですが、国連の平和維持職員が顧客であるばかりか人身売買組織に手助けしているというものです。米国がアメリカの婦人警官である告発者をなぜ助けなかったのか今でも不思議に思っています。
It is sad but I don’t think the exploitation of this kind could be eliminated as long as the demand exists.
However, we can do something even if they have only limited effects.
悲しいことですが、この種の少女利用は需要があるかぎりなくならないと思います。
しかし、たとえ効果が限られていてもできることはあります。
A couple years ago I read the British research report which said that 50% of porn web sites in the world are American origin being followed by 15% Japanese made, funny enough to be well proportionate to the population of both countries.
We can increase the number of those who feel embarrassed with this fact.
2～3年前、イギリスの調査ですが、インターネット上のポルノ・サイトの50％がアメリカのもの、二位の日本が15％を占めるということです。この割合は、両国の人口比に合致しているのがおかしいですね。
こんな事実を恥ずかしいと思う人の数を増やすことはできます。
I admit that we had a culture of inexplicit one-sided open marriage for men, but I was stunned by the victory of Mr. Gingrich in South Carolina despite of the shocking confession of his second wife.
I don’t want our children to live in a society where people easily forgive public figures who have actually acted to endorse “predominance men over women”.
Pimps don’t listen no matter what but the society has no need to make up an excuse for them.
日本に男は浮気しても許されるという文化があったことは認めます。それもあってか、二番目の奥さんのショックな告白があったにも関わらず、ギングリッチ氏がサウスカロライナで勝利したことにびっくりしました。私は、“男尊女卑”を絵に描いたような行為をした公人を簡単に許す社会で子供たちを育てたくはありません。
何を言っても女衒（ぜげん：売春斡旋者）は聞く耳を持ちませんが、社会が代わりにいい訳を作ってやる必要はないでしょう。

性年齢がどんどん下がっているのは随分前からだが、危険に対する防御心も薄れているのではないだろうか？
すぐ表現の自由という話を持ち出すが、いくら何でもコンビニの成人向けコーナーにあんなものを置くのはおかしい、と私は思うが・・・。

Whistleblower（日本題名;トゥルース）

Inspired by actual events, Kathy (**Academy Award® winner Rachel Weisz**) is an American police officer who takes a job working as a peacekeeper in post-war Bosnia. Her expectations of helping to rebuild a devastated country are dashed when she uncovers a dangerous reality of corruption, cover-up and intrigue amid a world of private contractors and multinational diplomatic doubletalk. Directed by first time filmmaker Larysa Kondracki, the film also stars Academy Award winner Vanessa Redgrave, Monica Bellucci and Academy Award nominee David Strathairn.

事実を基にしたとあるが、考えさせられる映画だ。その婦人警官は現在ヨーロッパのどこかに（度忘れ）住んでいるそうだ。

ポスティングが終わりに近付く。あと**350**枚・・・。
11月中頃からの夕刻の空だ。指先が冷たい。脚にも張り。もっとも“ふんいき”を感じる時だ。終えるのが惜しいような・・・。

戸数約**2700**、人口約**7000**人のマンション街。

「こっちが先にできたんだ。人口増加は後のことだ。」
そうですよね。

・・・子供も高校生も歩く薄暗い街。
「今どきの子供はそんなこと気にしないって。ウェブで斡旋？そんなものとっくだ。クリストフも古いね。」
そうですよね。

慣れて、警戒心も薄れて、餌食になる子もいる。

「お前！転生して社会派に転向か？」
そうじゃないんですけど、他のこと書こうと思っていたら、これ書いてからって空からの

声が・・・。

石原さん、無理せずにね。
動く前にじっと耳を澄まして。
そしたら、今日のブログが聞こえるから。

空の目でもいいから。

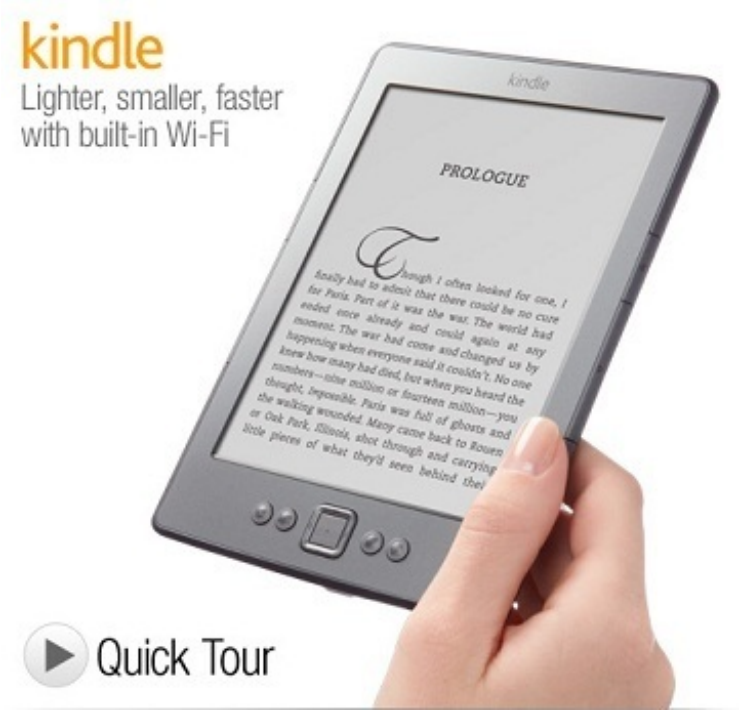
空の目大明神（新説6の酉）

「お前もしつこい！」

アメリカにはやられっぱなしだ：稲田朋美の「正論」続編 - 2012.01.31 Tue

アメリカにはやられっぱなしだ。
日本にだってこのぐらいの技術はある。

Kindleのことだ。



WiFi環境が何のことやらわからないまま注文したら4日で届いた。それから悪戦苦闘の4日間。たった5ドルの本を読みたいばかりに・・・。

私のブログはリンクが多い。出版にある“地球温暖化問題”も“トヨタ・リコール”も全部リアルタイムの予測である。「あいつの予測なんか当てになるものか」と思いながらも確かめたくなる。（だろう？）
出版の新しい形と思って書いてきた。

Kindleはまさにそのものなのだ。英英辞書は組み込まれているし、参照（リンク）に飛べるし、ブ

ログなどに引用しようと部分もメモルことができる。
日本の技術だって同じものができるはずなのに・・・。
「オバマ大統領を支える戦略家たち」を続ければ、さらに4年間は続く連続出版シリーズになる可能性もある。そんな電子出版にしたかったのだが、「電子出版？売れません」の一言で誰も相手にしてくれなかった。
こういうことだ！
It's clear we are only at the beginning, or as Arianna Huffington said in her introduction, "When future histories of Occupy are written, this will be just the first chapter."

非暴力の抗議運動“ウォールストリートを占拠せよ”（OWS）にもやられたと思ったことは既に述べた。

1. リーダーがいないこと。
2. 破綻がきたシステム全体に対する大衆の不満を形にしたこと。
3. その象徴をウォールストリートに置いたこと。
4. 既成政党の草の根運動や組合運動と一線を画したこと。

これらが、評価した理由である。

抗議運動としての発想は実に斬新で創造的だが、“物理的な（場所の）占拠”がどこまで続くか懸念していたが、警官との衝突が多くなって難しい場面を迎えている。大手メディアは終わりと言い、OWSは依然として活発だと反論している。
「**Hundreds Held in Oakland Occupy Protest**」（January 29, 2012）

そして今度は、**Facebook**だっ！・・・くそっ。

Facebookの政治アプリの登場だ。政治家個人は取り扱わないようだが、例えば、経済と環境のどっちを優先すべきかみたいな選択をFacebookの友人間でやったものを集計してタイムズ・スクエアにある本社の電光掲示板に表示するのだそうだ。
写真ソースは**NYT**の記事。クリックで記事に。

総理大臣甲子園でやろうと考えているとは若干違うけど、これもやられたって感じだ。
「**Facebook Users to Put Political Views Up in Lights on Times Square**」（January 29, 2012）

As the country prepares for this year's presidential election, political devotees have been following the nuances of every debate, caucus, straw poll and primary. A new application for Facebook users, however, is intended to encourage those who are not as engaged to talk about the election issues that are most important to them.

The new app was created during a 24-hour "hackathon" this month with engineers from Facebook and representatives from the advertising agency R/GA, part of the Interpublic Group of Companies, at Facebook's Manhattan headquarters. The goal was to create a social application that could share users' political views on digital billboards in Times Square.
（中略）
To limit conflicts, the developers decided to focus on nine issues: the economy, health care, immigration, social issues, energy, Social Security, debt, national security and the environment. They also decided not to focus on a specific candidate, allowing the app to be used throughout the election cycle.
The result was an app called 2012 Matters: What Matters Most. Starting this week, Facebook users will see poll questions in their newsfeeds asking them which of two issues matters more ― say, the economy or the environment. When a user answers the question, the result will show up on that user's personal news feed and on friends' newsfeeds. The friends also will be prompted to take the poll.

そこで、総理大臣甲子園をどうやるかなのだが、こんなものを作ってみた。稲田朋美「正論」続編だ。

岩下俊三の転生 - 2012.01.31 Tue

俺は、ああいう奴が好きなのだ。泣きの俊三。
どんな風に転生するのか見極めたくてリンクを外さなかった。
忙しさもあって10日前のブログを見逃した。

サーバーとの契約を解除するというから見れなくなると思うので、転載しておく。

「友よ」（2012年01月21日15:40）

東京に戻ってきた。戻ってはきたが、実は長い旅立ちの準備のために一瞬もどってきたに過ぎない。

ブログは閉鎖しないが、もはや一年以上書くこともないだろうと思う。

東京も離れるし、今月いっぱいでプロバイダー契約も解除する。、、、つまり、ネットともおさらばするということだ。マスメディアに絶望し、ネットに期待したが儚い夢であった。しかし儚くても僕を「生きさせて」くれた。

しかも、ネットを通して「愛」も識ることができた。だからネットに感謝している。ネットという媒体に絶望してけれどもネットで繋いだ「愛」には深く感謝している。
昨年１１月には数千のアクセスもあったが、ほぼ二ヶ月、全く更新しないブログに当然だれも訪れないと思っていたが、それでも一日数百のアクセスがあったし、いまもそれが続いている。これには驚いた。ネットには媒体としての「政治力」はなかったけれど「愛の力」だけは強くあったのだと、、正直驚いている。

そして、

友よ、、、、、貴方の、貴女の、友情に感謝します。本当に嬉しくおもいます。中断宣言にもかかわらず、多くのコメントやメッセージ、拍手をいただきました。今はなんのお返しもできません。しかし感涙だけはしています。「にんげん」であってほんとうによかった。いきていてほんとうによかったと。

しかし、
ブログどころかネットそのものへの絶望は変わりません。だからすべて止めます。でも「にんげん」は止めません。

でも、やはり「愛」しか僕の生きるよすがはないようです。世界が変わるのを待つのではなく、僕自身が変化してみたいと思います。そして、そしていつか、世の中と僕自身がシンクロしたとき、また現れたいと思います。
それでは、それまでHasta la vista ！

すべての読者の方々、三人の渡辺さん,kappaさん、さやこさん、ちえこさん、ひみこさん、leeさん、netajiさん、Vuvantomさん、山椒魚さん、そしてノラさん、、、、、、いつかお会いしましょう。それまでおすこやかに、、、、

相変わらず、ウェットな物言いだ。転生までにはまだ時間が掛かりそうだ。

そして、俊三、お前は甘い。

俊三のブログのアクセス数は、ひとケタ多いと思っていたのだ。その数なら俺のと同じレベルだ。
俺は、もう二ケタ上がらないとどうにもならないと思っている。
そこからが、本当の頭を使った勝負になる。

今程度のアクセスでインターネットに絶望などバカバカしくて聞いちゃおれない。
出版にあるような論理に6年の準備期間を要した。その期間でも今程度のアクセスはあった。
今の俺は、その論理を土台に、二ケタ上げるのにどんなことができるのか必死で考えている。

総理大臣甲子園の新サイトもそのためだし、ウェイクボードを再開したのもアプローチを開発するためだ。
このブログには広告が一切ない。ちょこまかした小遣い稼ぎでサイトを汚したくないのと、本当に飛躍するサイト活動のためには広告収入が必要になるからだ。
それを懸命に考えている。

ただ、俊三のブログがその程度のアクセス数にも関わらず、コミュニティができているのはすばらしいとも、だからそこで留まってしまうとも言える。
俊三のブログは、俺の言う“有機”なのだ。コメントする人が多いのも、その“有機”を共有しているからだ。そして、そこに“有機“の限界がある。

俺は、“有機”の俊三ブログに“無機”の血を注ぎ込んで、宇宙のごみを大きくしたかった。できると思った。コミュニティの協力さえあれば。実際に仕掛けた。見事失敗した。

Orwellさんこと稲村公望ブログにも同じように仕掛けた。稲村ファンがついて来ると思ったのだが、それもダメだった。

「竜馬、君ならどうする」で自問したインターネットの可能性の探求はこれからなのだ。
だから、**facebook**にもやられたと思ったのだ。

絶望なんか、冗談じゃない。
俺たちはまだ何もやっちゃいない。
ブログで各自各様に好き勝手なことをほざいているに過ぎない。
媒体の手のひらの上で踊らされているだけだ。

媒体を躍らせなきゃならないのだ。

俊三、戻って来いなどとは言わないが、さっさと転生しろ。

東大が30位？：秋入学はどうなった - 2012.02.01 Wed

どこかの記事には世界ランクが香港大学にも抜かれて25位になったとあったが、30位ですか？
そんなバカな。嘘ですよ。絶対そんなはずはない。
統計の取り方に問題があるのじゃないの？・・・・・（だんだん声が小さくなるみじめさ）

「秋入学が実現しても、高校卒業から入学までを漫然と過ごしてしまわないだろうか。有意義な半年間にするためボランティア活動を義務づけるなど、工夫が必要だ。東大の問題提起を機に、社会全体で議論を深めたい。」（産経「主張」）

議論を深めるってそんなボランティアみたいなことですか？

例の、「ずば抜けた日本の高校生の頭脳が、議論できないばっかりに認められずアイビーリーグに入学できない」って問題、そっちはどうなるのですかね。
「英語のディスカッション力とディベート力をどうつけるか」（2010.09.07）

アメリカの大学院に社会人留学した人がこの「主張」を引用したブログを書いている。
「少子化で学生数の減少が見込まれる日本よりも、海外に基準を併せるのが、本当の理由なんじゃないかと思います。「優秀な生徒を獲得」って言えば、聞こえは良いですけども、本質は、大学の授業料を払う新たな市場としての外国人学生に的を絞ってるだけじゃないかと思っちゃいます。」とある。
その通りでしょう。

ですがね、「日本の最高学府も公用語を英語にして、米帝の植民地化させる予定だから」を読むと頭にくる。
あなた、NYU出身だから英語堪能なんだろう。植民地になりたいのなら、そうするように、なりたくないなら、ならせないように戦ってはどうですか？どっちでもいいっていうんなら、つまらないブログ書かない方がいい。ゲームがそんなに得意なら、「総理大臣甲子園」をゲーム化してください。ご協力お願いします。

「主張」の前の記事引用ブログ三件を読んでも、どうしてこうも斜に構える人が多いのかちょっと不愉快になる。

ブログ書いた人たちに頭にきてもしようがないが、東大も文部省も企業も、耳かっぽじってよく聞いてくれ。

高校の英語の先生が、海外メディアにがんがん投稿して、外国人の投稿もテーマに内容をディ

スカッションするとかの工夫が先決だ。
問題は、大学の先生。
投稿なんかしないよね。素人と議論なんかしない。学会で、何度も何度も書き直した論文を発表するだけ。それが、格式。
しかしね、経済ならクルーグマン博士はノーベル賞受賞者だ。
大学の経済の先生が異論を投稿して何がおかしいの？
この3年間、一度たりとも日本のプロフェッショナルの投稿なんか見たことない。

サイエンス関連記事、例えば地球温暖化関連記事ならアメリカの大学の先生が投稿することもあれば、書いた記者・ブロガーにメール送って紹介されることもある。日本の先生からのはやっぱり見たことない。

留学させたいのでしょう？留学生を呼び込みたいのでしょう。
こんなことやってもダメさ。

習慣づけるのですよ。違う！画像クリックじゃない！（それ習慣づけても・・・）

高校の先生が、大学の先生が、幅広い物の観方で世界の人が読むメディアに自分の意見を述べる。外国人と議論する。
それを知れば、先生に続こうと思う生徒や学生が出てくるでしょう。それが、一番のモチベーションじゃないですかね。英語だけでの授業取り入れるといっても、それは単に3シグマのエリート

をｔ来るだけ。底辺が広がらなければ、順位はもっともっと下がる。

この話し抜きで、社会全体の議論を深めるといっても・・・。

「空の目」ってのは、自分のポジションを知ることでもあるのだ。

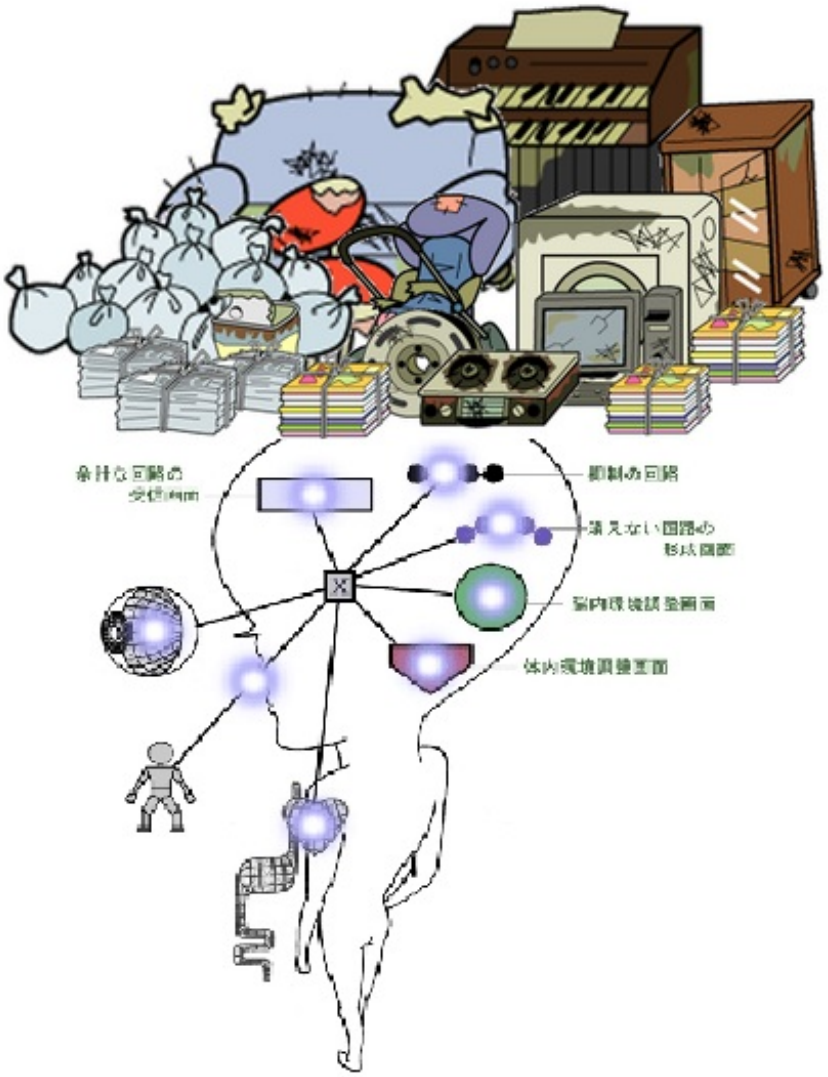
そこで、ポジションを知るテストをしよう。
ニューヨークタイムズの名の知れたOp-Edコラムニスト、Ms. Dowd とMr. Brooksのメンタル・モデルの分析をしてください。

Ms. Dowdのが二つ。
「**Showtime at the Apollo**」（By MAUREEN DOWD　January 21, 2012）
「**Tension on the Tarmac**」（By MAUREEN DOWD　January 28, 2012）

Mr. Brooksのが一つ。
「**Hope, but Not Much Change**」（By DAVID BROOKS　January 26, 2012）

この三つには、一方的な物の見方という共通の欠陥がある。共通しているから思考パターンが一緒ってことだ。
それが、何か、英語でとは言わないが、指摘してください。

秋入学を検討した東大の人、追随する大学の人、評価するといった平野なんとかさん、経団連の人たち、あなたたちが、このテストに参加して、堂々と意見を述べる。それで、はじめて学生のことを考える資格（資格だよ）があるってものだ。
TOEICを資格化したのは東大だろう。
資格化なんかするからお勉強になる。資格取ったって、役にも立たない。頼むからごみ掃除してくれ。これが、すべての分野にあるシステムの行き詰まりなのだ。徐々に変える努力はしてきたはずだ。しかし、それはこのテストに参加しない人たちができる範囲でやってきたに過ぎない。
その結果が、”いつの間にか30位”なのだ。



掃除力の日本だ。それを先にしないと議論がピンボケになる。

東大、がんばれ！
経団連、がんばれ！
産経、がんばれっ！いつも、いつも、ありがとう。

戦いの時を失した：尖閣問題 - 2012.02.02 Thu

「離島に命名　尖閣諸島の有人化を急げ」（2012.2.2）
今日の産経新聞の「主張」である。
もっともではある。

しかし、中国や台湾の反発で実行可能なのか、強行して国際的な支持を得られるのかどうか大きな疑問が湧く。

中国が今になって堂々と「核心的利益」と言うのは、一年半前の中国漁船の衝突事件で、彼らは世界の世論を味方にしたと思っているからに違いない。

どんな戦いにも時というものがある。

以下のブログで当時を思い起こして欲しい。
「尖閣諸島論争：ニューヨークタイムズで日本人奮闘」（2010.09.24）
「ホント情けない！！！」（2010.09.25）
「尖閣問題の腹立ち：一石三鳥を狙う中国の戦略」（2010.09.27）
「中国の本当の狙いは何か？：尖閣問題は尾を引く」（2010.09.28）

私は、国際世論形成という戦いは、このフリードマンのブログが正に、その時だったと思う。
当時、“たちあがれ日本”などの主催で2000人ほどの大掛かりなデモが行われた。
テレビが放映しないと怒りの声がネットにはあった。
私は、なぜ“たちあがれ日本”や“産経新聞”が、ニューヨークタイムズでの日本人の戦いを報じなかったのか、どうして自ら戦わなかったのか不思議に思った。
日本人の投稿者、teriyaki21氏は外務省の関係者と思っているが、あの奮闘振りをリアルタイムで国内に報道して日本の世論を高め、その高まりを海外発信する手段をなぜ取れなかったのか？
それが勝負の分かれ目だったと思う。

結局、マーケティングセンスがないってことなのだ。

俺は、平沼さんにある程度期待していた。大学発ベンチャーの活性化の頃、通産大臣だったか、経済産業大臣だったか、テレビを見て「随分、まともなことを言う人だ」と感心したからだ。メールのやり取りも、経済産業省の地球温暖化と産業活性化戦略資料も送った。”たちあがれ日本”の党員にもなって、結党パーティーにも出席し桜井よしこの演説も聴いた。たった一度だけ2000円の党員費を払った。選挙のときに、ボランティアで6000枚のビラ配りもしてやった。
しかしね、選挙のやり方見ても、やっぱりマーケティングセンスがないんだ。

主義主張、志があればいいっていうんじゃ話しにならない。尖閣だの、北朝鮮だの、ネット右翼が飛び付くような話題だけで、誰が爺さん党を支持するものか。今度の新党だって、石原人気頼みだろう。マーケティングのイロハのイにちょこっと手をつけるだけに過ぎない。

ストラテジー・トライアングルで考えたら、やり方次第で大きくできる強みはある。今の日本の状況、民主党政権の弱さ、ろくでもない野党を考えたら、いくらでもやりようがある。

しかし、パリスちゃんの”**8**の字”思考がまるでない。

だから、何をマーケティングの材料にできるかがわからない。
だから、クリストフのコラムを逆利用するアイディアも湧かない。
そして、折角のチャンスを逃す。

NYTでの論争を客観的に評価すれば、日本人の投稿は理屈の上では優位だったと思うが、国際世論は中国側に立ったと思う。つまり、日本はそこでは負けたのだ。投稿者の一人として肌に感じた敗北感だ。

強硬論を唱えると同時に国際世論を味方につける何らかのきっかけと仕掛けが必要と思う。
残念ながら、今のところアイディアがないが・・・。

でも、考えりゃ、必ずいいアイディアは出るものだ。
しかし、マーケティングセンスのない奴には何を言っても無駄というのも事実だ。

くやしいね。

分水嶺を越えた：まっさかさまに何処へ？ - 2012.02.04 Sat

日本は分水嶺を越したそうだ。

まるで、この製造業の壊滅状態を暗示したかのようなタイミングだったのでびっくりした。

「電機大手８社の４－１２月期最終損益、４社赤字４社減益と壊滅状態」（2012.2.3）

（素材提供者：星野伸　撮影場所：神奈川県）

「石原慎太郎：預言者に転生?」に引用した石原慎太郎さんの「地球は滅びる」に対して、「石原氏の論点は、悲観論が多すぎる。もっと英知をだして、国家と人類の希望を語るべきだ。日本の潜在能力はこんなものではない。
そのためには、正しい歴史観に立ち、経済数値に明るい人物の登場が日本にも世界にも急務である。
ＧＤＰを世界一にする。円を基軸通貨にする。日本文明を世界文明の中核にして、世界を救う。」と書いた人がいる。
日本にとって「経済数値に明るい人物の登場が急務である」には賛成だが、”GDPと購買力の関係”、”今のGDPと同じ額の輸出をするだけの材料（主に技術）”に関する知識に対する疑問を持つし、「日本の潜在能力はこんなものではない」の意味はわからない。新聞でもネットでこういうことをおっしゃる人がいるのは知っているが、日本の潜在能力って何なのですかね。

オバマ大統領の一般教書以来、アメリカで製造業ってそんなに大事なのか？本当に雇用を促進す

るのかとの論議が盛んである。

But the administration argues that big trends ― like rising wages in developing countries, falling wages in America and a weaker dollar ― have made moving work to or keeping work in the United States a much more viable option. And they say that manufacturers will continue to add jobs domestically, especially with a little help from Washington.
しかし、オバマ政権は、途上国での賃金上昇、アメリカの賃金の低下とドル安という大きな流れを見れば、海外での仕事をアメリカに呼び戻し、アメリカでの仕事を守ることは極めて可能性のあることと分析し、ワシントンのちょっとした手助けがあれば製造業は国内雇用を拡大すると言う。
We have a huge opportunity, at this moment, to bring manufacturing back," Mr. Obama said in his address to Congress. "But we have to seize it. Tonight, my message to business leaders is simple: Ask yourselves what you can do to bring jobs back to your country, and your country will do everything we can to help you succeed."
「現時点では製造業を国内に呼び戻す絶好のチャンスだが、それを実現しなければならない。ビジネス・リーダーに単純なことを伝えたい。仕事をアメリカに戻すために何ができるか自分に問いかけて欲しい。そうすれば、アメリカはあなたの仕事が上手く行くようにどんなことでもする。」オバマ大統領は議会でこのように述べた。
「**White House Offers Plan to Lure Jobs to America**」（February 2, 2012）

オバマ大統領は、ドル安政策を採り続けると宣言しているのです。

日本の製造業の業績悪化は、決して地震や津波（タイも含めて）の所為だけではありませんよ。2008年の金融危機以来、アメリカは一貫してドル安を続けてきました。基軸通貨でなくなる、アメリカは終わりだと喜ぶ声もたくさんありました。

これは、オバマ大統領の就任以後一貫した戦略なのです。

「米国にドル安、円高政策を取られたら企業はお手上げです。このようなシナリオは再生エネルギーで強い企業にも取られる可能性大です。」と述べたのは、3年3ヶ月前の**2008年11月8日のブログ**です。

潜在能力のある日本人がなぜ、彼らの戦略に対抗する経済政策を打ち出せなかったのでしょうね。
経済数値に明るい人物がいなかったからですか？

私は、単に戦略的に物事を考えることが苦手な国民だからじゃないかと思うのですが、間違って

いますか？

官僚は勿論ですが、政治家にもヒリヒリするビジネスの競争を体験した人がいないからでしょう？戦略ってどういうことなのかわからないのではないでしょうかね。
政治ブログを書く人にはご立派な方が多いから同じ傾向があるとは思いたくありませんが・・・。

潜在能力のある日本人の誇り「東大が**30**位？：秋入学はどうなった」で、コラムニスト**David Brooks**さんのコラムが。「一方的な物の見方という欠陥がある。その思考パターンが何か、指摘してください」とテストを出しました。

Brooksさんは、共和党の支援者でオバマ大統領の政策が、incremental（増分という意味です）に過ぎずアメリカ社会を根底から変革する（transformative）ではないといちゃもんつけています。そのうちのひとつが、サービス産業が90％なのに、製造業の活性化とは一体何だというものです。共和党は抜本的な未来図を描いている（嘘です）のにオバマの一般教書には夢がないというものです。
「**Hope, but Not Much Change**」（By DAVID BROOKS　January 26, 2012）

BrooksさんとKrugman博士はほとんど同じ日にコラムを書いています。意見が大きく違います。互いに意識し合っていて面白いのですが、私が思う欠陥は、Krugman博士ならどう反論するか十分に意識して書いたとは思えないことです。相手がどう反論するか、それを考えて書かないと、折角の共和党支援がぶち壊しになるということです。
この場合、オバマ大統領を支援するKrugman博士は競争相手（competitor）なのです。博士が一般教書についてどう書くか、その予測をした上で論破しなければならないのですが、オバマ大統領をけなすことばかりに気を取られて、何とも大雑把で荒っぽいコラムです。

案の定、Krugman博士のコラムは、自動車の救済成功を取り上げ、製造業の雇用を増やすためには、スティーブ・ジョブズ（Apple）のアメリカでの雇用の小ささを例にとって、賃金でなく部品などのサプライヤーを含む産業クラスターが必要だという専門的なものです。同じ紙面で、両方を読むと質の差は歴然です。
「**Jobs, Jobs and Cars**」（By PAUL KRUGMAN　January 26, 2012）

さらに、この二日後、やはりオバマ大統領を支援するFriedmanさんが、製造業に関する企業経営者と政治家のものの見方が異なるという（私には）すばらしいコラムを書いています。
彼の視点こそ、今壊滅的な打撃を受けている日本の製造業に対して政治がすべきことを暗示していると思います。
「**Made in the World**」（By THOMAS L. FRIEDMAN　January 28, 2012）

分水嶺は越えた。一月は**12**万**4**千台売れた。カムリは2万8千台も売れた。伸び率56%だ。
世界一を目指す力強いトヨタの宣言もあったし。
・・・豊田章男社長陣頭指揮の下でカムリは全車アメリカでの組み立てだよ。アメリカ人の雇用が増えるからオバマ大統領はハッピーだ。

日本の雇用はどんどん逃げていく。

結局は、このブログでしつこく書いてきたように、エネルギー・シフトのためのインフラ整備を国がやることによって製造業のイノベーションが活性化する。お利口な鳩山さんの炭酸ガス25%削減が経済政策なんだと口を酸っぱくして言ってきましたが、何と京都議定書からの離脱ですものね。

日本民族のすごい潜在能力。日本は世界のへそ論。

聞き飽きた。

本当は怖い裸のバンビ：**Hard ass bambi from Chicago - 2012.02.05 Sun**

「つまんないという念が通じたのか欠陥コラム**2**題の後のMs. Dowdは彼女らしさを取り戻したようだ。

（Wikipedia）

欠陥を指摘する前に、彼女らしさをまず見よう。
「**Who’s Tough Enough?**」（By MAUREEN DOWD　January 31, 2012）

「政治リスクが格段に大きなオサマ・ビン・ラディン殺害指令はオバマ大統領自らが下した。前面に出ないで後ろで“ごにょごにょ”言うだけのリーダーでなんかじゃない。オバマはリーダーそのものだ。骨のある男なのだ。」

副大統領バイデン（Joe Biden）が、大統領選キャッチ・フレーズ、“オサマ・ビン・ラディンは死に、GMは生き残った”を民主党員に刷り込むための演説だと皮肉一杯のコラムである。

パキスタンへのドロン（drone）攻撃指示もやったし、オバマは今やタフガイだ。本当のタフガイというのは、難しいミッションを達成しても前大統領のブッシュみたい大騒ぎしない。あくまでもクール。
（フロリダ州でギングリッチ氏を大差で破り、いよいよ共和党大統領候補の本命になった）ロ

ムニィ（Romney）も注意したほうがいい。タフガイは自分をタフガイとは言わないものだ。・・・他の人に言わせるんだ。（要旨のみ）

共和党応援なのかオバマ応援なのかわからないコラムになってしまったようだ。

オサマ・ビン・ラディンの住居を急襲したリアルタイム映像を見ていたオバマ大統領のビデオを見た人いますか？
政府高官数人が観ているのですが、オバマ大統領は端っこに座って、背中を丸めて身を乗り出している姿はとても主役の大統領とは思えないものです。
確かにオバマ大統領は自分の功績を大げさに言わない。
（後でも検討しますが、決断は戦略シナリオの一環です。戦略を本気で考えている人なら決断結果が上手くいって当たり前と思う傾向があるので、大喜びしない。逆にはしゃがない人は戦略力がある人ということができる。）

ただ、バイデンの演説は、彼自身の発案でもオバマ大統領の指示でもないと思われます。アクセルロッドかプラウの差し金だろう。（“オバマの戦略家たち”を読んでいる人ならそう思うだろう？）

その目的を、一般教書（リンク）から二つのパラグラフを引用して説明する。

The state of our Union is getting stronger. And we've come too far to turn back now.
As long as I'm President, I will work with anyone in this chamber to build on this momentum. But I intend to fight obstruction with action, and I will oppose any effort to return to the very same policies that brought on this economic crisis in the first place.
（就業数も増えてきた。財政赤字を200兆円削減する合意もできた。ウォールストリートの責任を明確にして金融危機が二度と起さないようにもした。）アメリカの結団力は強まっている。もう後戻りすることはできないところまできた。私が大統領でいる限り、このモメンタム（慣性）を高めるためなら議会の誰とでも共に戦う。しかし、反対するなら断固戦う。このような経済危機に陥らせた政策に戻そうとするどんな政策にも反対する。

You're the ones struggling with rising costs and stagnant wages. You're the ones who need relief. Now, you can call this class warfare all you want. But asking a billionaire to pay at least as much as his secretary in taxes? Most Americans would call that common sense.
（富裕層の税率アップのBuffet ruleの適用に関して）生活費が高くなる一方、停滞する給与に苦労しているのは国民だ。助けがいるのは国民だ。これを階級戦争と呼ぶなら呼んで構わない。しかし、億万長者にせめて自分の秘書なみの税金（率）を払えというのは階級戦争だろうか？そんなことは常識と思うアメリカ人が大多数ではないのか。

オバマ大統領は、すぐ妥協する骨のない奴ではないか、やっぱりウォールストリートの手先ではないか、という（根拠のない）批判に曝されてきたのも就任以来3年間の歴史である。
この一般教書での戦う姿勢を国民にわかってもらう、バイデンが紹介したエピソードはそれが目的です。そのシナリオを描くのはアクセルロッドとプラウです。

Ms. Dowdがキャンペーンのお先棒を担いでくれた。
これですよ、これ。

No more Obambi

Battle of Fort Hindman
from Wikipedia

（上の絵は南北戦争で北軍が勝利した戦いのひとつ：Wikipedia）

私は初めてだが、もうObambiを使うのは止めてくれという読者もいるので、Ms. Dowdが以前発明した言葉なのでしょう。それにしても上手いものだ。
きつい言葉の中にユーモアたっぷりがMs. Dowdの特徴で私は好きだ。これに較べると問題の二つのコラムは若干違うと思わなかったですか？

あの二つは、他の人のオバマ分析（というか単に感情的な解釈）を基にオバマ大統領とミシェル夫人を攻撃しているだけだからつまらないのだ。なぜオバマがあのような言動をしたのか、彼らの立場に立った分析の欠片も見えない。
したがって、深みもない単に悪口だけのコラムになった。Mr. Brooksで指摘したのと同じである。ただし、Ms. Dowdの一方的な見方が、逆にオバマ大統領の本質に迫る格好の情報を与えてくれた。
「**Showtime at the Apollo**」（By MAUREEN DOWD　January 21, 2012）

Asked about his cool, aloof style and his unproductive relationship with John Boehner, Obama replied: “You know, the truth is, actually, when it comes to Congress, the issue is not personal relationships. My suspicion is that this whole critique has to do with the fact that I don’t go to a lot of Washington parties. And as a consequence, the Washington press corps maybe just doesn’t feel like I’m in the mix enough with them, and they figure, well, if I’m not spending time with them, I must be cold and aloof. The fact is, I’ve got a 13-year-old and 10-year-old daughter.”
Ms. Dowdは、これを聴いて何とバカなことを言うと思った訳だが、別の見方が必要である。「議会の問題は個人的な関係にあるのではない」というオバマ大統領の根源的な物の見方が問題なのだ。

私は、これを（私の言う）無機の部分で政治を行おうとする基本姿勢と捉えている。
アメリカをこういう国にしたいと考え、それを達成するための戦略シナリオを熟考すれば、後はそのためのプログラムを一つ一つこなすだけになる。
これは、基本的に無機の作業なのだ。
彼が共和党と妥協を重ねなければならなかったのは、妥協しなければ最終的なシナリオを放棄せざるを得ないからで、お高くとまって自分は不運と考えているからでもない。
妥協そのものが無機の作業の一部になっているからだ。実際、メディアから妥協を責められても、本人は一向気にしていないようだ。いい訳をしたことがないのも事実だ。プラウやアクセルロッドは、気にするだろうが・・・。

こういう観点で読めば、レーガンとの比較も不適切、カーター前大統領も夕食を共にしたことがないという事実の見方も変わるはずだ。
彼が無機に捉えている典型が、中間選挙で敗れたミネソタの民主党候補に、“In the end, this is for the greater good of the country.”　（結果的には、国のためになることだ）というセリフに表れている。
オバマ大統領が敗北にshellacking（完敗）という言葉を発してもっともショックを受けたのは、誰もが知っている。
その時点で、議会運営の難しさ、一体それをどう乗り切るか、2012年の選挙に勝つためにどうすべきか、彼の頭には敗北を今後の国のためにどう使うかという（戦略変更に）切り替わっていた

のだ。
ここに、戦略的思考が異常なまでに鋭いオバマ大統領のメンタル・モデルが見えてくる。

政権からのリークがないためにメディアが困っていることは「オバマの戦略家たち」に書いた。それは今でも同じだ。
泡（バブル）の中の泡に包まれて仲良しのシカゴの取り巻きに囲まれてというのもこの点で見方が浅い。
戦略思考の高い大統領の下ではたらくためには、スタッフも戦略思考に優れていなければならない。下手なリークがあれば、戦略そのものに齟齬をきたす。
「ホテルに残されたメモ」（だから日本はこうなった：外交）は、多分意図的なリークと思われる。
アメリカは炭酸ガス排出量の数値合意を求めないという世界へのメッセージだ。
メキシコのCOP16、昨年のCOP17までの経緯がその答えだ。
Ms. Dowd　のお陰で、恐ろしいまでのオバマ政権の戦略力を知ることができた。

この視点がないから、決めの「2012年の選挙は、どちらもメディアに不平をもらすオバマとギングリッチの戦いだ」という皮肉が面白くも何ともない。
フロリダで負け、さらに昨日ネバダでも負けたギングリッチが予備選挙を勝ち抜く可能性はほとんどないから、今読むと面白くないを通り越して“間抜けなオチ”だ。

2番目のコラムの問題も同じだが、そこに見えるオバマ大統領はもっと恐ろしい。
「**Tension on the Tarmac**」（By MAUREEN DOWD　January 28, 2012）

Tarmacというのは、飛行機が着陸した後に駐機する場所のことだ。
元々、このコラムは、クリントンに端を発した訳でなく、オバマ大統領の移民政策に異を唱えるブリューワーアリゾナ州知事（Jan Brewer）が、駐機場で指を振り上げてオバマ大統領に迫ったが、話し途中で「冷静に」と一言残してリムジンに乗った事件（？）だ。その映像がメディアに流れ「警官みたいで怖かった」という彼女の談話から始まったものだ。

「オバマの戦略家たち」で、プラウがヒラリー・クリントンのインディアン発言問題をキャンペーンに使って、オバマ候補から手ひどく叱れた逸話を紹介した。
ヒラリーサイドが、オバマが薬物をやっていたとか、イスラム教徒ななどとキャンペーンに使ったことに余程腹を立てていたのだろうが、逆切れしたヒラリーの腕に手をやって、そこでも「冷静になって」と言ったのと同じだと批判しているのだ。

私がオバマ大統領が恐ろしいと思ったのは、この言葉だ。

After his encounter with Hillary, he told advisers that it was the first time he knew he could beat her because he saw fear in her eyes.

ヒラリーが恐怖を感じたのは、オバマの態度が彼女の予想とまったく違っていたからだ。
「ちょっとやりすぎてごめんね」（ヒラリー）
「いやお互い様だから気にしないで」（オバマ）
という程度の話で済むと思っていたのだろう。

オバマ大統領にとって、敵は粉砕すべきものなのだ。
一回一回に勝負を賭けるぐらいの先読みをしている証拠だ。

話途中での切り上げは、相手が女性に限ったことではない。
昨年の財政赤字削減問題で、ベーナー下院議長との話し合いが決着しないと思った瞬間にさっさと会談を打ち切ってwalk outした。共和党はカンカンに怒って非難した。

このコラムの最後は、「オバマ大統領はディベートが苦手だから得意なロムニィとやれば共和党に願ってもないことだ」で結んでいるが、果たしてそうだろうか？

ブログでは、オバマ大統領就任直後、たったひとりで共和党議員集会に乗り込んで、質問のひとつひとつに時には考え込みながら丁寧に答えたことを書いたが、そのシーンを見ると決してディベートが苦手とは言えないだろう。2008年のマケイン共和党大統領候補とのディベートも3戦3勝だった。

Ms. DowdはObambiと茶化すが、コペンハーゲンCOP15で、温家宝首相がブラジル大統領やインド大統領との極秘の会合の席に招かれもしないのに押しかけたあの豪胆さには驚いた。（「だから日本はこうなった：外交」に詳細）

戦略性、緻密さ、そしてスパッと切る（政治家に必要な）冷酷さ。
Ms. Dowdは、これまでもう一つ見えなかったオバマ大統領の思考と行動様式を鮮やかに浮かび上がらせてくれるきっかけを作ってくれた。

「国家間の外交は首脳間の相互信頼と友情が生まれて初めて本物になる。だから首脳外交が外交の本旨なんだ。外交は外務省がやるものじゃない。首相官邸と大統領府がやるものだ。私はそういう意識を持っていたし、そう言ってきた」
中曽根元総理大臣が今年産経紙上で語ったことだ。
「首相に必要な人間的余裕」（2012.1.4）

その通りだ。
ただ、中曽根氏の時代とは国際情勢も経済背景も異なる。同盟国すら経済競争では敵だ。
今、日本国の総理大臣に求められる相互信頼と友情のあり方は戦略性資質を抜きに語ることはできない。

オバマ大統領時代はあと**4**年続く。
この際立って優れる大統領と対峙することができる人はいるのか？

TPP賛成でも反対でもいい。
賛成なら賛成で、反対なら反対で、相手にも有利になりながら日本の利益を優先する戦略を作れるかどうかだ。
石原新党ができても、大阪維新の会と協力してもすぐにそんな総理大臣は生まれない。威勢良く反米を掲げればすぐに潰される。小沢、鳩山がいい例だ。
今の政党政治を続ける限り、出れば打たれる。出なきゃ一方的に押し込まれる。

出ても一方的に打たれないのは、相手にも納得できる戦略立案力を持ち、圧倒的な国民の支持を受ける総理大臣を作ることしかない。

“いなげや”のオージー・ビーフもアメリカ産に変わった。

輸出を倍にすると宣言しているオバマ大統領だ。
あっという間に押し切られるぞ。

香山リカの橋下論：メンタル・モデル分析 - 2012.02.06 Mon

大評判である。
「テレビの前で議論しても残る橋下市政への違和感」（2012年1月30日）への反響が大きい。

さすがに心理学の先生。メンタル・モデル分析にぴったりの論旨展開でありがたい。
香山リカさんのご指摘（緑）を戦略メンタル・モデルと対比する。

そもそもの疑問は、「大阪を変える」「日本のシステムを改革する」と訴える橋下市長が、変えた後にどういう社会を創りたいのかがどうしても見えないことです。

ないから見えないのです。あれば、必ず見えます(後述）。

番組の中でも橋下氏は、「不連続のチャレンジ」「グレート・リセット」という言葉を再三使われていました。「今でなくていつやるのか」「待ったなしの改革」と、しきりに変化の緊急性を訴えられます。変化は当然リスクを伴うことです。しかし、それを質問すると、「じゃ、このままでいいのですか」とおっしゃって、変化させないことのリスクのほうが大きいことを訴えていました。
「では、現状のままでいいのですか」と言われ、「いや、そうは思わない」と答えると、「じゃ、代案を示してくださいよ」とさらに言われます。しかし、精神科医である私にそんなことができるはずもないし、その権利もありません。

できる（？）弁護士の典型的なレトリックです。仙石さんと同じ物言いですね。
反論を反論に転じる姑息な弁護士が使うもの。そういう弁護士は、政治やビジネスなどの本質議論に向いていない。

なぜ、そんなことをしつこく聞くのか。それは、橋下氏が弁護士時代、テレビ番組で何度かはっきりと、「自分は改憲論者で核武装論者」と語っていたのを記憶しているからです。

これが、ドットと回帰直線の関係。当然の疑問です。香山さんは正しい。

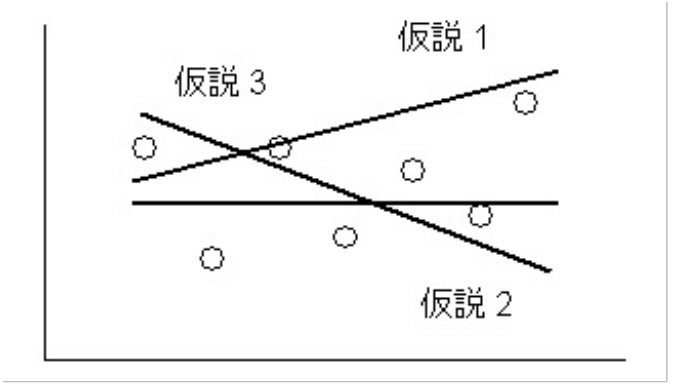


図 1: 断片情報から複数のシナリオを描く

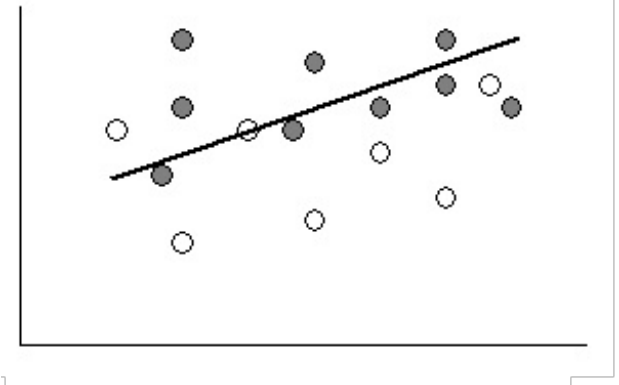


図 2: 予測戦略シナリオ

そんな下地の中で登場し、理想を掲げるよりも、現実論で変化を訴えているのが橋下氏です。目に見えやすい実際の問題を指摘し、敵を明確にしては、一つひとつ壊していく。その実行力が、何をやっても変わらない世の中に失望していた人に受け入れられたのだと思います。

過激な言葉は感情、つまり有機。
有機は飛びやすい。拡散しやすいのです。しかも、全体との相対関係は見えず、手掛ける問題は部分に過ぎないが問題なことは確か。だからわかりやすい。

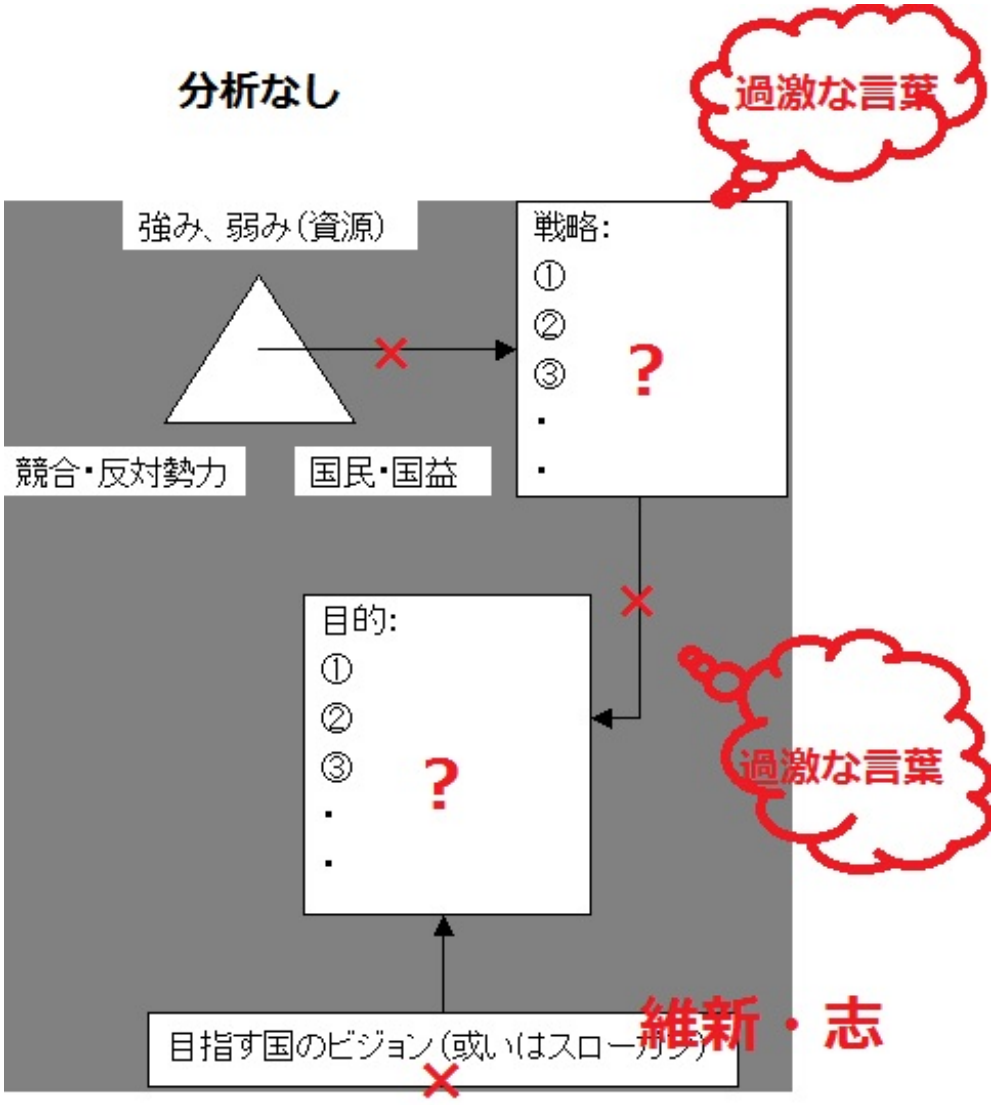
橋下人気は、**2006**年の郵政選挙時の小泉人気と同質です。

この顔いいですね。小学5年生のやんちゃ坊主。
そんな顔で口とんがらかして過激なことを言えばみんな面白がります。
キーパーソンかどうかはわかりません。
何と言っても横山ノックを知事にした大阪ですから。
しかし、香山さん指摘の部分は定義の問題であり、無機の部分ですから、それがなければやがて飽きられるのが普通です。

「具体的に税や年金の制度をどうするのかという技術的な問いではなく、まず大きな問いから議論を始めるべきだ。どうすればより良い社会を構築できるのか、正義や公正さが守られるためにはどうすればいいのかということだ。そうした原点からスタートすれば、（負担のあり方などについて）皆が納得しやすい 仕組みをつくることが可能になるのではないか。」（日本経済新聞、2012年1月23日）
「まず大きな問いから」という姿勢には全面的に同意します。

全面的に同意ではなくて、そうしない人をキーパーソンなどと言うような（田原総一郎さんで

したっけ）人を無視すればいい。



香山リカさんは、この図のどこも埋まらないと言っているのです。埋まらないということはこういう一貫性のある思考回路を持っていないということです。全部×印でコネクトできない。このコネクトは、橋下氏の言う改革の不連続性とは別のことです。根本的な革新はすべて不連続。古い鋳型を壊すのだから。しかし、そこでも到達目標と達成戦略には一貫性がなければならないということ。
終わり。That’s it.

香山さんの橋下氏に関する疑問は次の記事にもあります。ご参考まで。

「橋下市長個人にではなく〈橋下的なもの〉に感じる違和感。」
本当に必要なのはリダンダンシーのある社会ではないか（2012年1月23日）

「大阪市長選挙に思う。」

数値化できる成果が出なければ存在価値はないのか（2011年12月12日）

橋下「維新会」の戦略立案力：浪花節分析 - 2012.02.07 Tue

橋下さん、2年後でいいですから、このコマーシャルを作ってください。クリント・イーストウッド使ったあなたの大阪維新成功宣言です。日本の**Obambi**がんばれ。

前回は、香山さんの疑問を思考回路に当てはめたものだ。
そこで、橋本徹オフィシャル**HP**を基に総理大臣甲子園的メンタル・モデル分析を行った。

結論を先に言えば、具体的戦略がやはりない。

戦略以前の環境づくりのアウトラインがあるだけである。それが大阪都構想という位置づけだ。
このアウトラインを作ったのはビジネス経験のない大学の先生と推測した。・・・その通りで、ブレーンは上山信一という方である。輝くような経歴の持ち主である。ビジネス経験らしいというのは唯一マッキンゼーの共同経営者であったことだ。
コンサルタントである。
失礼な言い方になるかもしれないが、あくまでも一般論である。
橋本氏がやろうとしているのはイノベーションそのものである。それをしっかりと認識する必要がある。その上での話しだ。
コンサルタントは、イノベーションの当事者にはなり得ない。自ら、何かを開発できる訳ではないし、答えがないようなプロジェクトに自らのリスクで独創的なアイディアを提供する役割でもない。（断っておくが、私は上山氏の新書を読んでいない。）

橋下氏が批判者に対して攻撃的になるのは、上山氏のアウトラインに具体的な戦略のないことを頭の鋭い彼自身が理解しているからか、或いはあるのに消化しきれていないかのどちらかではないかと思う。
いずれにしても、具体的な質問に応えるだけの準備がないのだ。
だから、質問を攻撃と捉える。防御本能が逆攻撃に切り替わるのだ。気の毒なことだ。
心理学者である香山さんは、多分ここに気付いているはずだ。

具体的に説明する。

大阪の危機
東京と比較すると大阪市の凋落ぶりは鮮明さを増す。平成８年の大阪市の一人当たり所得は４１２万円で、東京の４２７万円と遜色なかった。ところが、平成１８年には東京４８２万円に対し大阪市３４４万円と約１４０万円もの差がついてしまった。
優秀な人材の流入や将来性のある企業立地を促すこともできず、企業流出に歯止めをかけることもできなかった。その結果、多くの生活指標が悪化し（全国最高の生活保護率、低い消費支出、

高い完全失業率等）、貧困家庭の子弟が十分な教育を受けられず、そのため世代を超えて貧困から抜け出せない、いわゆる貧困の再生産という最悪の事態が進行している。

これが課題である。

大阪が持つ潜在可能性
大阪は一地域でありながらアジアや中東の中規模国家、例えば台湾やサウジアラビア並みのＧＤＰを擁している（府内ＧＤＰは約３８兆円）。
環境、エネルギー、エレクトロニクス等の分野では世界をリードする技術を誇り、産業基盤も充実している。これからの日本経済を牽引できる潜在可能性は十分ある。
しかしながら、市町村は旧来の地域経営モデルとフルセット主義を改めることもなく、また広域的な調整も十分に機能していないため、府市を初め様々な取り組みがバラバラで、その潜在可能性を十分発揮することができないでいる。いまこそ、地域が自らの発展を戦略的に目指すことのできる枠組みを構築する必要がある。

大阪のことは良く知らないが、これも正しいのだろう。（しかし、広域的な調整がないから上手く行かないという根拠が不明である：ビジネスをやる者なら、この時点で、問題点を抉り出して基幹戦略の骨子を創り上げる。だから、こういう書き方にはならない。））

次の大阪再生マスタープランで、それが明らかになるとの期待で読んだ。

大阪再生マスタープラン
私たちは、この大阪の危機を打開し、大阪の再生を進める枠組みを構築するため、大阪再生マスタープランを提案する。
同プランの概要は次の通りである。

大阪府域の再編
４．
大阪の潜在可能性を顕在化させ成長戦略を策定する。
５．
アジアの拠点都市に足る都市インフラ（道路、空港、鉄道、港湾等）を整備する。

たったこれだけである。課題で東京と年収で140万円もの差があって、貧困県と言いながら、成長戦略の策定は後回しである。
そして、そのための環境作りみたいなものがONE大阪と「維新の会」である。

一体、これは何じゃい？（何故か、関西のやくざ口調？）

ＯＮＥ大阪
バラバラの取り組みを一つに方向付け、人々の連帯意識を育むため様々な分野（交通等）で「ＯＮＥ大阪」に向けての運動を提案し展開する。

ローカルパーティー（地域政党）「大阪維新の会」
大阪の人々のエネルギーを結集するための装置としてローカルパーティー（地域政党）「大阪維新の会」(綱領別添)を結成する。中央集権的な既存政党は上意下達機関であり、地域住民の問題意識を吸収し、課題を設定し解決する装置としては不十分である。
「大阪再生マスタープラン」に示される現状認識を共有し、「大阪維新の会・綱領」に賛同する者が各議会で会派「大阪維新の会」を結成する。また、賛同する者の中から関連首長候補、関連議会議員候補を擁立し、５年以内に新たな大都市制度の具体化に着手する。

大阪都構想には多くの誤解があるとしてその説明がある。

成長戦略としての大阪都構想
いずれにせよ過去の統一地方選挙を振り返っても、ここまで都市のあり方が根本的に変わってしまうかも知れない選挙の争点はなかったでしょう。 住民の生活がどうなるかという個々のメリットは、大阪が成長し税収が上がった後に、各自治体の首長・議会が決める問題です。 大阪都構想で、大阪の成長が見込めるのかどうか、ここを深く議論すべきです。 今のままの大阪府・大阪市の関係で大阪は成長するのか？ それとも仕組みを変えるべきなのか？ 大阪都構想は、借金頼り、増税頼り、国からの交付税頼りにならない、成長の仕組みになるのか？ ここの議論が重要であり、この議論は今の大阪府自治制度研究会が深く精緻に議論しております。大阪府のホームページに、議事録や資料が全て掲載されており ます。この議論を見れば、個々の住民サービスがどうなるかという議論ではなく、大阪都構想自体で、十分選挙の争点になることをご理解頂けるはずです。

大阪都構想は大阪再生の第一歩
住民の所得を上げれば、住民生活が大きく変わることは間違いありません。 住民生活をどう変わるかを詳細に論じるよりも、所得を上げる方策を打ち出せば十分なはずです。 自治体の住民サービスをどう変えるかを詳細に論じるよりも、各自治体の税収を上げる方策を打ち出せば十分なはずです。 これまでは、住民生活をこう変える、住民サービスをこう向上させると、非常に細かな政策羅列が統一地方選挙で行われておりました。しかし、財源確保が十分ではなくほとんどが言いっ放しで終わっています。 大阪都構想は、個々の住民生活・住民サービスを論じるものではありません。住民の生活を向上させる、自治体の住民サービスを向上させる根っこの部分、すなわち大阪の経済成長を底上げする大きな仕掛けなのです。

やるべき課題ははっきりしている。そのために大阪の持つポテンシャルを活用して成長戦略を採らなければならないと繰り返し、繰り返し言っているだけだ。誤解も何も、靴の上から水虫掻くような大阪都構想に過ぎないから、具体的な戦略を出せといわれているのじゃありませんか？

この仕事が大変なのはわかる。
しかし、成長戦略に関して言えば、管内の産業連関をどのように機能的に結びつけて（そして、ないものは創り上げて）GDP拡大を図るかという問題に帰結する。比較的単純なことだ。

ここには、トライアングルの徹底的な分析が必要になる。

東京と比較して大きく所得が下がった原因が何か？

大阪には松下（サンヨーも含めて）、シャープなどを支えてきたすばらしい技術を持つ中小企業があった。その凋落は東京の大田区や江東区と似たようなものに違いない。GDP減少は、それとどう関係するのか？
経団連の米倉会長は住友化学だ。自動車、家電製品用化学・プラスティック産業も生産拠点の海外移転で大きな打撃を受けた筈だ。

仕事は誰に奪われたのか？東京なのか、韓国なのか、中国なのか、タイなのか、インドネシアなのか？
負けた産業を放置するのか、再生するのか？
再生するなら、狙うべき競合国内経済圏はどこか？特定しているか？
国外競合相手の具体的な強み、弱みを分析しているか？戦うにせよ、強調するにせよ、相手を特定しているか？

一方、武田薬品などの製薬会社も多い。その地盤は沈下していないはずだ。その産業を地域経済拡大に利用する手立ては検討したのか？

このような分析の跡がHPにはまったく見られない。（イロハだから多分やっている筈だが、やっていればHPの書き方が変わる筈。だから不思議に思うのだ。）

香山さんが具体的に指摘した“良い教育”という問題だが、この点で一つ尋ねたいことがある。

大阪大学は国立大学だが、EUの地域統合が大阪圏の地域統合のモデルとでも思っているような研究がある。その研究にはないと思うが、実際にはEUでは統合に先駆けて、先端技術の共同研究によって各国間の融和を図る地道な努力が為された事実がある。
類似とも言えないが、大阪大学には”イノベーションリーダー育成プログラム”というのがあり、近

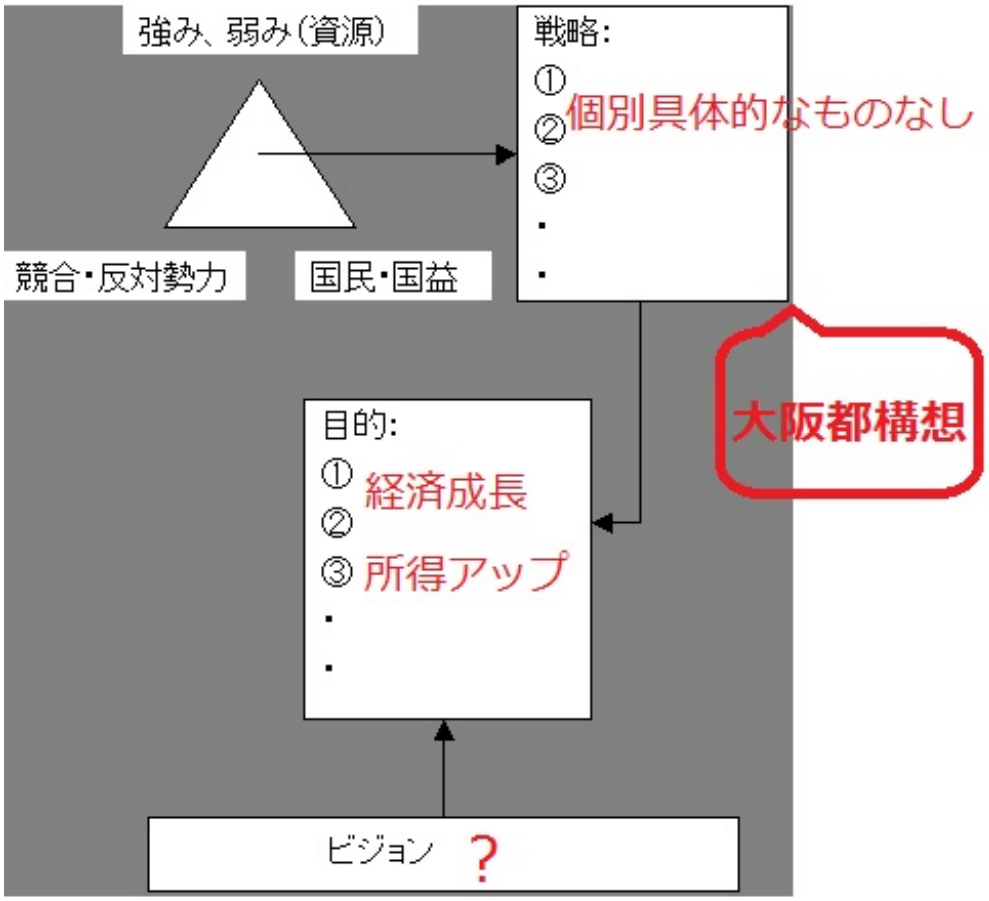
畿大学などとも共同で地域産業の活性化を図る動きがある。これを大阪都構想にどのように反映させようとするのか？
実は、論文「イノベーションのメンタル・モデル」執筆の時点で、そのホームページを見た。
2009年1月の開設である。3年後、未だに、「評価未実施のため、現在のところ該当なし。」とある。
あれは、イノベーション**25**と経団連の意見書を踏まえたダブル・メージャーを基にしたイノベーションリーダー育成手法である。論文でさんざんけなした間違いだらけの育成方法である。
橋下氏が行おうとする維新は、“今のままでは駄目だ”である。
その通りだ。
しかし、肝心の今のまま、つまり、最も“東大的なるもの”であるあんな人材育成方法を踏襲するつもりなのか？

こういうことが産業活性化具体戦略に反映すべきことなのだ。
これらは、今すぐでもやれることばかりだ。大阪都ができるまで待たなきゃならない性質のものではない。

私の大阪に関する知識は殆どないに等しいが、それでも一般論としてこの程度の指摘はできる。
たった30分でだ。プロジェクトを進める基本の常識パターンだからだ。実際にやるのは結構辛い無機の仕事なのだ。しかし、その基本さえ踏めば実行可能な成長戦略は生まれる。
それが、ないから香山リカさんの疑問をモデル化したよりややましだが、やはり中身に乏しい思考回路が浮き彫りになる。

靴の上から水虫を掻くような大阪都構想戦略

一般論のみ。具体分析なし



コンサルタンとを雇うのも良し、しかし、首長である橋本徹氏がビジネスに必要なここに書いたような産業・技術の基本知識と戦略思考がなければ、コンサルタントなど使いこなせない。
何度も言うが、コンサルタントは絶対にリスクを取らない。リスクと言えば、このプランには投資がどのくらい必要で、有形・無形リターンがどうなるかの示唆もない。こんなもの計画でも何でもない。

余計な提言
そんなに大阪を変えたいなら、日本を変えたいなら、イノベーションを実際に経験した戦略立案者と戦略遂行部隊を持つことだ。
そして、彼らの仕事がやりやすいように、役所の職員が必要なデータを素早く提供する仕組み、なければデータ収集作業をやらせるようにトップの責任で周知徹底させること。戦略立案・遂行部隊には余計な口出しはしないこと。コンサルタントも不要。大学の先生なんぞが口出しできるほど生易しいものでないのだ。
しかし、横で見ながら自分自身で勉強しないと彼らの思考回路を理解できない。

6ヶ月もあれば、戦略はできる。

注意するがこれから役所の抵抗は強くなる。
組織論をきちんと勉強しなきゃ駄目だ。「**MOT**と企業文化」を熟読のこと。

総理大臣甲子園的メンタル・モデル分析に感情は無関係だ。あなたの書いたものがそのまま戦略思考力の判定になる非情なものだ。
したがって、あなたの現時点でのその能力は残念ながら”惨めなもの”だ。
得がたい人材と思うので力をつけて欲しい。
あなたの頭は鋭いからあの論文読めばすぐできるようになる。その上でHPを書き直してご覧。見違えるようになるから。
それをやれば、スパイラル的に考えが飛躍する。

今のままだったら、”ウォールストリートを占拠せよ”（OWS）と同じだ。彼らには政治権力はないが、あなたは既に権力にあるのだから、”現状のままでいいのか？”は通用しないのだ。

どうするプラウ？：米失業率低下と対日圧力 - 2012.02.08 Wed

先週金曜日、一月の就業数が24万増加して失業率が8.3%まで改善したという記事を読んだ時、真っ先に頭に浮かんだのがこれである。
「どうする**Mr.**フラッフ？失礼、Mr.　プラウ？」

これおかしいよな。吹きだしたよ。fluffってごみのことだろう？
（注：プラウが誰か知らない人は「オバマの戦略家たち」参照のこと。裏の大統領と言われる実力者だ。）

記事にも、この増加は予想外なので、大統領選挙両陣営のキャンペーンのやり方が微妙に変わるだろうとある。
「**Jobless Rate Falls to 8.3%, Altering Face of Campaign**」（February 3, 2012）

Obama:
“The economy is growing strongly. The recovery is speeding up,“ Mr. Obama said. But he conceded: “These numbers will go up and down in the coming months.”
「経済は力強く成長している。回復のスピードも早い。しかし、この数字（失業率）は今後も変動する。」とぬか喜びに終わらないように予防線を張ることを忘れない。

Romney:
“This recovery has been slower than it should have been. People have been suffering for longer than they should have had to suffer,” Mr. Romney said, at a supply company in Sparks, Nev., before Saturday’s caucus in that state. “Will it get better? I think it’ll get better,” he added. “But this president has not helped the process. He’s hurt it.”
「この回復は、本来もっと早く来るはずだった。これほど長く苦しむ必要はなかった。良くなるかって？私は、良くなると思う。しかし、オバマ大統領はこうなるまで何の助けにもならなかった。彼が遅らせたのだ」と経済が引き続き良くなっても攻撃できる方針に変えてきた。

オバマ大統領の支持率がじわじわ上がってきていた時のこの失業率の改善である。未だに数字は高いが就任時並になったのは大幅な改善と言ってもいいぐらいである。大統領選挙の11月まで改

善はないという見通しから、ブッシュ政権の負の遺産が如何に酷いものであったかを訴えるキャンペーンを展開してきた。
改善が続けばピント外れのメッセージになってしまう。
図に乗って経済政策が間違っていなかったなどと言った後に就業数が増加しなければ、相手は嵩にかかって攻撃してくる。
迷うところだ。

応援はすぐ出てきた。
クルーグマン博士は勘が鋭いだけでなく、現政権にとっては実に頼りになる存在と感心する。
「ちょっと経済が良くなったと思うとすぐにJob creation（就業機会増加）政策は不要という政策屋が出てくる。そんな奴に惑わされてはならない。今だからこそもっとJob creation政策が必要なのだ。特に住宅産業の活性化に全力を挙げねばならない。緊縮財政などもってのほかだ。」というものだ。
「**Things Are Not O.K.**」（By PAUL KRUGMAN　February 5, 2012）

それにしてもびっくりしたのは、クライスラーのテレビコマーシャルだ。
2分間のコマーシャル費用が約12億円だそうだ。
私がびっくりしたぐらいだから、当然共和党は、“やらせ”だと息巻いている。「救済で税金を貰った企業がそのお返しにオバマに有利な宣伝まで作って」と怒る。
というのは、クリント・イーストウッドのセリフがセリフだからだ。

「どうやって逆転する？どうやって一つになる？どうやってやっつける？俺たちの国は、一発のパンチで倒れっぱなしにはならない。すぐに起き上がる。俺たちが立ち上がった時、世界中がアメリカ車のエンジン音が鳴り響くのを聞くことになる。」
Mr. Eastwood, who narrates the new ad and appears among images of molten steel and city streets, says: “How do we come from behind? How do we come together? And how do we win?” He concludes, looking straight into the camera: “This country can’t be knocked out with one punch. We get right back up again, and when we do, the world’s going to hear the roar of our engines.”
In an e-mail, Mr. Eastwood said politics were not in the equation. “The ad doesn’t have a political message,” he said. “It is about American spirit, pride and job growth.” Mr. Eastwood, a former mayor of Carmel-by-the-Sea, Calif., who usually voted Republican, has acknowledged recently having a political change of heart.

西部劇だね。
しかも、一般教書演説（リンクあり）とそっくり。
勿論、クライスラーもクリント・イーストウッドも政治に何の関係もないと言っている。イーストウッドは、アメリカン・スピリットを言ったまでだと。

この「コマーシャルを見たアクセルロッドは、すぐにTweetしたそうだ。「どんぴしゃのスポットだ」って。
David Axelrod, President Obama's chief political strategist, seized on the commercial almost immediately. He sent out a Twitter message shortly after it ran, declaring, "Powerful spot."
「**Republicans See Politics in Chrysler Super Bowl Ad**」（February 6, 2012）

私もこれはホワイトハウスの仕掛けとは思わない。やれば必ず漏れるものだ。むしろ、このアメリカの浪花節をきちんと理解しなければ駄目だ。「トヨタ・リコール事件」に書いたが、NUMMIを閉鎖せずに、「お世話になったから」とか臭いセリフでアメリカ人を泣かせればあんな酷いことにはならなかった。絶対受ける。何を勘違いしてか、儲からなければ閉鎖、それがアメリカ流とばかりにいくと汚い野郎と思うのが一般大衆だ。当たり前だろう。日本だって同じだ。大和魂だの、日の丸だのって息巻いても浪花節忘れたら駄目さ。地震と津波で助けられたご婦人が、自衛隊に申し訳なさそうに「どうもすみません、面倒掛けて」と深々とお辞儀して謝る姿に欧米人はびっくりしたそうだ。これが、浪花節の原点だよ。情というとちょっとニュアンスが異なる。わかんないかね～、浪花節だよ・・・浪曲子守唄（カラオケ唯一の持ち歌）。

大統領選挙情勢について最新のギャラップ報告。
Romney is the front-runner for the GOP nomination at this point, but his opponents vow to continue to campaign vigorously against him in the primaries and caucuses to come. With the vast majority of GOP delegates still to be voted on, and with a history so far this year of rapid changes in Republicans' preferences for their party's presidential nominee, his nomination is far from a sure thing.
ロムニーは共和党で先頭を走っているが、大統領候補になるかどうかまだまだ未知数だそうだ。
At this time, Romney ties Obama among registered voters nationally, but the unsettledness of the GOP race makes head-to-head ballot tests with the incumbent president far from predictive. Various structural measures continue to point to a tough environment for Obama this year.
ロムニーとオバマのどっちが勝つかの全国調査結果は、五分五分だが、最終候補者が決まっていない数字なのでまったく当てにならない。
Satisfaction with the way things are going in the U.S. is low, Americans' economic confidence is significantly more negative than positive, and Americans are much less likely to identify as Democrats than they were in 2008.
国民の今のアメリカに対する満足度は低く、経済について悲観的な見方が大きく、2008年（前回の大統領選挙）に較べて民主党離れが多いように思われる。
Obama's job approval rating appears to be improving at this point, and history suggests that his approval ratings in March will likely portend whether he is re-elected. The direction of change in Americans' views of the economy in the next several months will also be critically important.
オバマ大統領の支持率は改善しているが、歴史的に見れば3月の支持率が再選を決めることになり

そうだ。また、今後数ヶ月の経済情勢を国民がどう見るかも重要な要素になる。
「**Where the U.S. Election Stands Now**」（February 6, 2012）

つまり、現時点では何もわからないということだ。今日、二つの州でサントラム氏が勝利した。ギャラップの言う通りだ。

どうするプラウ？

ここまで書いた状況にあなた自身を置く。プラウになる。
なら、どうしますか？
大統領に代わって閣僚とどんな話もできる立場ですよ。

少しでも就業数を増やしたいでしょう？
どうします？
海外に圧力掛けさせますよね。アメリカ製品買えって。政府調達品が手っ取り早いですよね。納期なんか1年先でも2年先でも構わない。受注さえ入れば雇用は増えますから。
交渉に時間掛けられないから、圧力に弱い国を狙いますね。どこですかね。

宙ぶらりんになっている外交課題をさっさと処理して成功実績重ねたいでしょう？
もう始まっているようですが、基地問題を終結させますね。日本のぐだぐだにこれ以上付き合っているとまたObambiってばかにされますから。費用なんか負担すれば、また共和党に攻撃材料与えることになりから、一銭の損にもならないようにしますよね。

この他、どんなことでも10月までに実績として示せるものは全部やりますね。

失業率が低下したお陰で、対日圧力がより一層強まるという話です。

Obambi背水の陣：背筋を凍らせて笑いましょう **- 2012.02.10 Fri**

経済指標改善を受けて、オバマ大統領の経済顧問は本年度の新規就業予想を200万に上方修正し、（大統領が提案する）経済刺激政策が継続すれば、今年末の失業率が8%まで落ちると発表した。
Drawing on a string of improved economic data, advisers to President Obama have updated their forecasts in recent days and now project that the economy will create two million jobs this year if stimulus measures are extended, which could reduce the unemployment rate to about 8 percent by year's end.
Mr. Krueger said the administration's new outlook depended on the passage of Mr. Obama's economic stimulus proposals, chiefly an extension through the year of a temporary payroll-tax cut and assistance for the long-term unemployed.
「**Obama Advisers Offer Rosier Jobs Outlook**」（February 8, 2012）

勿論、共和党が反対するであろう給与所得減税を継続する（共和党議会に対する圧力にもなる）こと、さらにヨーロッパのデフォルト問題や中東での戦争が再燃しなければという前提ではある。
しかし、このような数字を出すのは、達成するという自信がなければ自殺行為になる。

「達成されるかどうか不透明な要素が多い」みたいな日本の報道になると思うが、惑わされてはならない。

自信とは何だろう？

共和党の協力もヨーロッパ・中東の状況は政権がコントロールできることではない。コントロールできないことに自信など置けない。
つまり、前回述べたようなことである。
政権だけでできることに主眼を置くという意味だ。
何も日本だけを相手にしている訳ではないが、その一環として対日圧力は確実に強くなる。

これは、円高が一番の理由だが、既に日本の報道にもあるようにトヨタが日本でのハイランダーの生産を止めてアメリカ・インディアナ工場で生産することを発表した。400人の雇用増は来年になるとのことだが、オバマ政権としてはこの種のことが加速する手を打ってくるのは当然と見なければならない。

Toyota says it will expand its factory in Princeton, Ind., and add 400 jobs so it can build more Highlander SUVs.
The hiring and expansion will come next year.

Toyota says it will invest $400 million in the factory to build 50,000 more Highlanders per year. The plant built more than 101,000 Highlanders last year. The company says it plans to stop making Highlanders in Japan and move that production to Indiana
After the changes, Toyota will be able to build about 255,000 Highlanders a year in Princeton and in China.
The Princeton plant in southern Indiana now employs nearly 4,000 people who make Sienna minivans and the Highlander and Sequoia SUVs.
Toyota sold more than 101,000 Highlanders in the U.S. last year, up nearly 10 percent from 2010.
「**Toyota to expand Indiana plant, add 400 jobs**」

実は、ここまでは一昨日書いた。ブログにアップしてもどうせ誰も読みやしないし・・・と放っておいた。が、今日、大笑いしながらアップすることにした。
みんな一緒に笑いましょう。背筋を凍らせて笑いましょう。

Toyota isn't alone either, with other Japanese automakers switching production of green cars from Japan to the U.S. For example, Nissan will begin manufacturing its all-electric Leaf in the U.S. within the year, and Acura has already moved production of its 2012 ILX Hybrid to the U.S.
トヨタだけじゃない。日本メーカーはエコカー生産を日本からアメリカにシフトする。日産リーフは、今年中に、Acuraは既にアメリカに移した。
Finally, there's an element of national pride to take into account. With more Americans than ever conscious of where their next car was built, Toyota stands to gain the custom of U.S. citizens who will only buy U.S.-made cars.
All told, the movement of Highlander Hybrid production to the U.S. starting with the 2014 model year should be good for everyone, including Toyota and the U.S. economy. And that is a good thing.
（さまざまな要素はあるが）最終的には、アメリカ人のプライドを斟酌したということがある。アメリカ人は次に購入する車が何処で製造されるかについてかってないほど敏感になっている。トヨタは、アメリカ製の車だけを購入するアメリカ人を獲得しようとしているのだ。 結局、2014年モデルからハイランダー・ハイブリッドの生産をアメリカでやるのはみんなハッピーなのだ。勿論トヨタにとってもアメリカ経済にとっても。いい事だ。
「**2014 Toyota Highlander Hybrid Will Be U.S. Made**」（February 9, 2012）

何がいい事ずくめだ。くそったれ。
日本の経済はどうなる？日本の労働市場はどうなる？日本の税収はどうなる？

何が新党だ。何が橋下だ。
バカ政治家ども。バカ評論家ども。メディアだって何でここまでぼんやりしてるんだ。

いいかい。
これが**G.M.**とクライスラーを救済し、トヨタ**NUMMI**閉鎖をきっかけにトヨタ・リコール事件で日本車神話を崩壊させ、バイ・アメリカンの風潮を築き上げたオバマの**3**年がかりの大仕事の結果だ。

こんなことに誰も気付かずに・・・・・

このブログ目にした方、知り合いみんなに「トヨタ・リコール事件」を読ませてください！

政府紙幣って何ですか？：aHoo質問箱 - 2012.02.13 Mon

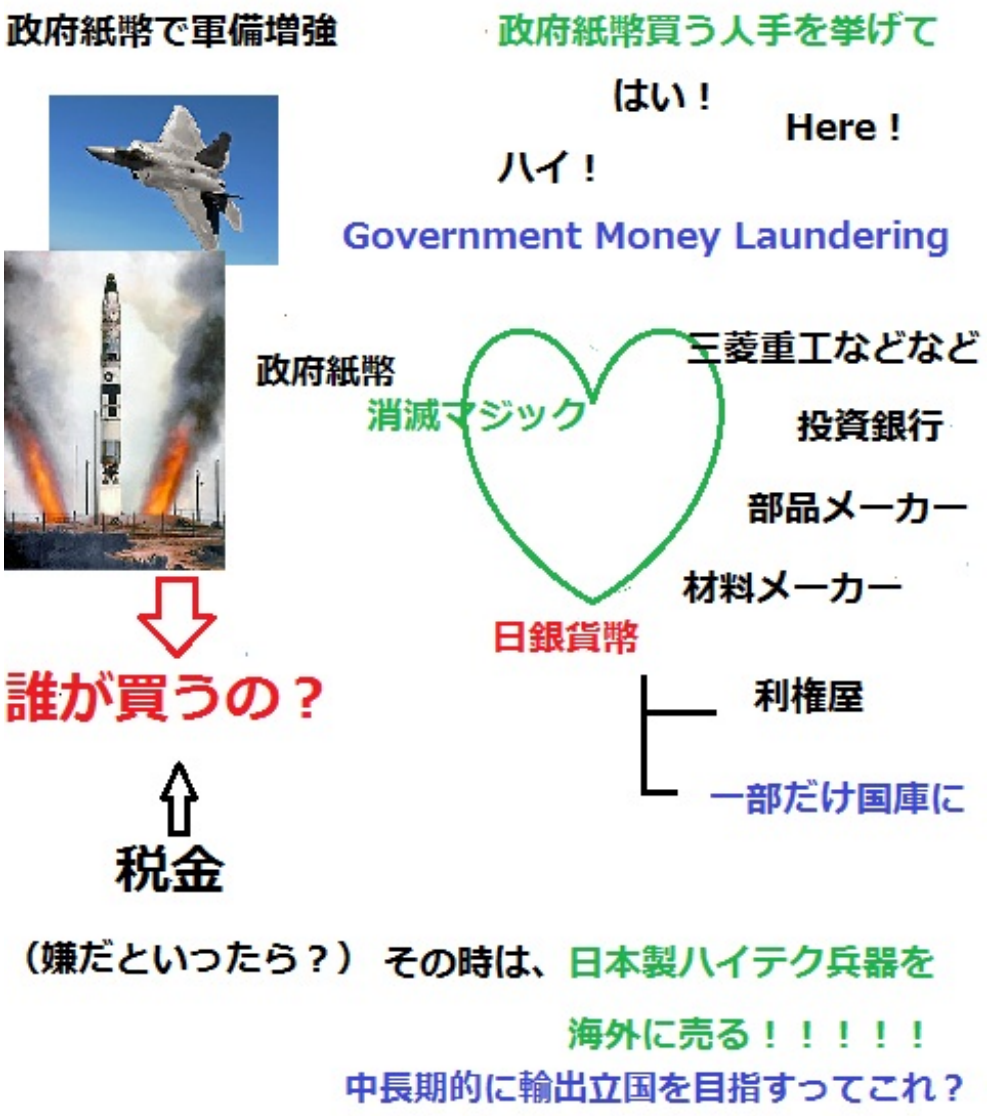
AHOO! 質問箱

「石原新党」の政策に100兆円の政府紙幣の発行があります。ウィキペディアを読みましたが何のことかわかりません。どなたかわかりやすく説明していただけませんか？

ベストアンサーに選ばれた答え

貨幣は、信用が作り出すものです。つまり、そのお金で商売の決済ができるかどうかということですね。その信用の元は貯蓄です。生命保険の掛け金も、企業の資本金も留保金も全部含めてお金がプールされたもの。それをみんなが奪い合いしています。ビジネスも税金も奪い合いの形です。
政府紙幣は、日本政府が勝手に印刷して市中に出まわせようとするものですから信用の裏づけはありません。
いくら印刷しようが、誰も使わなければ紙くずです。だからいくら印刷しても国の借金にはなりません。
使うように仕向けようとすれば、どうやって信用をつけるか？ということになります。

石原新党の考えは単純です。“例え話”としてその内の10兆円がどのように信用化されるか見ましょう。



兵器ができるまで国のお金（日銀貨幣）は使いませんから借金なしで投資を煽ることができます。すばらしいアイディアです。

ベストアンサーに対するお礼

ありがとうございました。大変よくわかりました。
しかし、できた兵器を買うのは日本ですよね。税金使うのでしょう？それは日銀貨幣ですよね。・・・なら、同じじゃないですか？
いやぁ、海外に売っちゃえば、日本企業の輸出になるから税収は増えるかもしれないか・・・・
なんか、北朝鮮やイランの話聞いているような気になりますね。

歴史に思いを馳せる場所：石原新党のお粗末な歴史認識 - 2012.02.13 Mon

川崎市高津区の高台に猫の額ほどの公園がある。8000年の歴史を一瞬にしてワープできる場所で私は好きだ。子母口貝塚公園。

8000年前の地球温暖化で、この丘の麓（市民プラザ通り）まで東京湾であったことを示している。

8000年前といえば、黄河流域に発生した漢民族が南下し始めた時期と言われている。
これは、ここ20年間の**Y**染色体分析遺伝学によって確認されている。
当時、まだ日本という国はなかった。大和もなかった。しかし、当時の子母口に人はいた。

石原新党の草案によれば、日本の建国の精神を「征服や支配、略奪ではなく、共存と協和、生産であって、今日の平和と繁栄もまた、自然を慈しみ、神々を畏敬し、和を尊んできた伝統的精神のたまもの」と定義しているらしい。
建国時期には触れていないが、約2700年前を指しているのであろう。

私は、天皇制を支持する者である。立憲君主国とすら思っている。立憲君主制民主主義である。
これに学術的な反論は不要である。これは、論理ではないからだ。直感的に正しいとする感情に反論は不要である。
大統領制を持つ国々を見るがいい。

宗教を基盤にしても、結局は権力を争う個人と個人の争いが国を別ける状態である。

私たちは、私たちを超える力の存在があること、畏怖するものが存在することを知っている。
しかし、それは人の目には留まらない。毎日の生活に直接影響する訳でもない。
しかし、畏怖するものの存在を忘れた時、人の持つ生物学的な欲望（本能：Neural Darwinism）に歯止めが効かなくなる。自己規制という理性を失う。Altruism（利他主義）を排除する。
それが、今の日本の混乱であり、世界の混乱の元なのだ。
けっして、石原新党が指摘する“日本が直面している諸課題は「文明の衝突や文化の摩擦によってもたらされた混乱」”ではない。何と底の浅い見方なのか？とても名著、「巷の神々」を書いた慎太郎さんとは思えない。
2008年11月、米国初の黒人大統領誕生時のニューヨークタイムズへの私の投稿とそれに応えたアメリカの社会学者**Bob Kates**の投稿をじっくり吟味してもらいたい。

畏怖するものの存在を常に思い起こすために何かが必要である。
私にとっての天皇制の意味はそこにある。
私の機能論的解釈を不敬とする人たちがいるのを知っている。

彼らに問いかけたい。

8000年–2700年の**5300**年間をどう説明するのか？

子母口貝塚の近くにある古墳の説明書がこれである。

さらに日本武尊の東征を記す2700年前後の歴史も「征服や支配、略奪ではなく、共存と協和」であったのか？

日本民族がアイヌ民族を平定したのが1669年、松前藩がシャクシャインの戦いを制した時である。その後の歴史は言うまい。それでも、「今日の平和と繁栄もまた、自然を慈しみ、神々を畏敬し、和を尊んできた伝統的精神のたまもの」と言い切るか？

考古学を否定した教育論など誰が受け入れるものか。

賛否両論あっても、こんな滅茶苦茶な歴史認識の大言壮語でも石原都知事が絡めば人気がある。
大言壮語で天皇制支持や国を守る気概を謳う必要などない。
ブログで単に賛成したり反対したりする必要もない。
石原新党結党メンバーは70年～80年生きてきた人たちである。8000年の歴史の1％を自らがダウンロードしたのだ。
ブログを書く人も、0.5％か0.7％ダウンロードしている。

どちらにも決定的に欠けている歴史認識がそこだ。

今を戦え。過去を追憶するのじゃない。
追憶に賛否してもしようがない。
今を戦え。
トヨタがアメリカに生産拠点を移し、日本の就業場のなくなることはトヨタの所為ではない。日本での生産を継続させる魅力的なプロジェクトを作る政治がないからだ。
敵の意図を事前に察知し、それを阻む戦略的プロジェクトをあわてず、騒がず、静かに作りあげる政治家の能力が必要なのだ。それが国を守ることであり天皇制を守ることなのだ。大言壮語は不要。

「**Obambi**背水の陣：背筋を凍らせて笑いましょう」（2012.02.10）を何度も読んでから俺に間違いがあるなら指摘してもらいたい。

狙われるブロガー - 2012.02.14 Tue

カレンダーが今年2月まで使えるものだったのでノンビリしていた。一昨日、蒲田駅前の書店に「2012年カレンダーはこれでお終いです。」の張り紙。丸めてプラスチックに入っているので中の絵がわからない。店員に聞いたらAKBの写真版とアニメですと。何でもいいやと思ってアニメにした。

一月のアニメがきっかけで、8ヶ月も見なかった植草秀一氏のブログを開けた。

“ウィキペディア「植草一秀」の虚偽情報”という文字が目に飛び込んできた。ウィキペディア記載の（氏が誤りと考える）細かな部分を丁寧に指摘するものだ。
「何とも憎めない性格の持ち主だなぁ」と私が思うのは、ウィキペディアの次の記載には触れず、それ以外の誤りを丁寧に指摘するところだ。
真実が“3回”あれば、大抵の人ならヘタル。“セクハラ癖”があると認められたら「業界で有名」でなくともヘタル。

小学館との和解
2008年（平成20年）4月4日、東京地裁で『女性セブン』を発行する小学館との和解が成立。小学館側の和解金100万円の支払いや謝罪広告の掲載などが条件。記事では植草が痴漢で**10**回摘発されたと報じたが、実際には**3**回だと認定されたため。

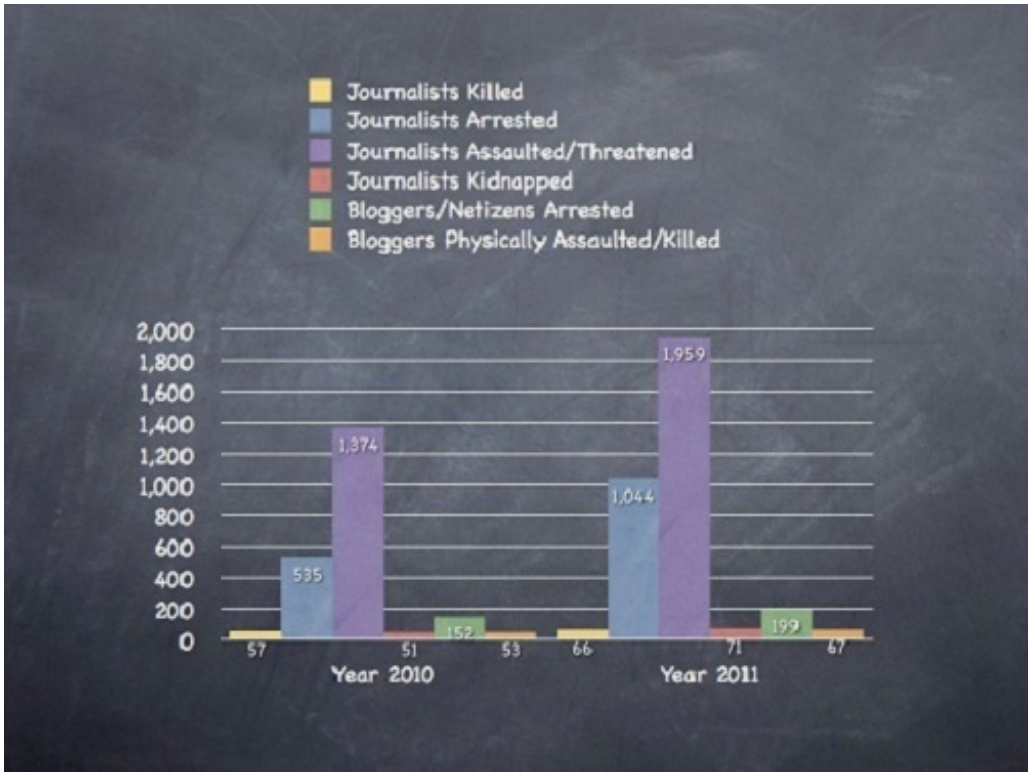
毎日新聞社に敗訴
2008年（平成20年）9月8日、東京地裁（大段亨裁判長）は、植草のことを「セクハラ癖は業界では有名」と報じた『サンデー毎日』に対し、「セクハラ癖があるのは真実と認められるが、『業界では有名』という部分は真実の立証がない」とし、発行する毎日新聞社に33万円の支払いを命じた。しかし、2009年（平成21年）2月18日、控訴審で東京高裁は「記事は真実と認められる」と毎日新聞社の逆転勝訴判決を言い渡し、さらに2009年（平成21年）6月23日、最高裁第3小法廷は植草の上告を棄却し、毎日新聞社の勝訴が確定した。

しかし、この方は、ヘタらないのだ。すごいと寒心する（変換ミスではない）。東大のしぶとさなのだろうと何となく憎めない気持ちになる。
この方のブログは、反検察、反米、親小沢みたいな特徴がある。礼儀正しい言葉遣いだが字面は相当激しい。読者は国家の謀略犠牲者となった（という）彼の同情者が多いように思われる。
以前、一日のアクセスが18万件とご本人が書いていた。
当然、公安はチェックしているはずだ。
しかし、特にお咎めもないように見受けられるが・・・。

アラブの春以後、正規のジャーナリストばかりでなく、市民ジャーナリストやブロガーが官憲に逮捕されたり殺されたりという事件が世界中で増えている。

あぁ、きっかけになった一月のアニメがこれ。手鏡を思い出してもおかしくないものである。ご高覧賜れば幸いである。（植草氏はこのぐらい丁寧な言葉を使う。見習わなければならない。）

肝心のグラフがこれ。



記事はこれである。
「**Casualty Of Global Civil Unrest: Media & Bloggers**」（February 12, 2012）

日本にどんなに過激なブログがあるか良くは知らないが、他人を売国奴呼ばわりし、メディアをマスゴミ呼ばわりする植草氏のようなものは過激といえるだろう。
国策捜査の犠牲と広言して小沢代議士や鈴木宗男代議士などと同列にご自分を置いているようだが、国家権力にそこまで大事にされる（？）私たちの知らない秘密があるのだろうか？
ブログを読む限り、そんな兆しはどこにもない。

私が、「こいつやられるぞ」と思った小泉–竹中攻撃も良く考えると単に彼らと異なる政策を声高に語っていたに過ぎない。
反対意見は彼だけが言っていたのでなく、他の多くの人たちも言っていたことだ。
ただ、小沢氏のお先棒を担ぐみたいな、私には常軌を逸したと感じる激しい攻撃を展開したが、小沢氏が政権の座に着いたらライバルの竹中氏の地位を獲得できると考えていたのではないかと想像している。
仮に、手鏡事件が狙われたものだったとしても小泉政権とは無関係だろうと思う。国民的人気を誇った小泉政権を揺るがす脅威になどまったくならないからだ。
あまりの激しさに困ったのは、コメンテーターに使用したメディアだったろう。小沢氏の手前、簡単に外すこともできず、手鏡事件格好の口実になった。

その後のブログにしても、小沢裁判の不当性や民主党政権攻撃、親米議員や反米らしきものを読んでもピンとこないものが多い。

何のための政権批判なのか、何のための代議士批判なのか、何のための反米なのか、さっぱりわからないのだ。彼を反日分子と見るウェブサイトもあるが、それも説得力に乏しい。

つまり、この人のブログに何の大義があるのか私にはまったくわからない。
検察・司法批判は結局、ご自身を正当化するためとしか思えない。

気障な言い方をすれば、この人のブログに私は愛を感じない。

しかし、この公安から見れば安全パイのブログに18万件ものアクセスがあるという。
大義もない激しさだけのブログをありがたがる読者がそれだけいるということだ。
行動のきっかけにならないことを書き手も読み手も互いが承知の上の“遊び場ブログ”の世界に見える。
現場から離れて久しいから無理なのかもしれないが、金融政策に関するプロフェッショナルなブログに特化した方が余程多くの人のためになると思うし、私自身は二度と手鏡を持ち出さないと思うが・・・。

日本にプロフェッショナルなブロガーが育つだろうか？
日本にブロガーと呼べるブロガーが育つだろうか？
日本に内容のすごさから狙われるブロガーが育つだろうか？

売国奴、マスゴミ連発ブログが幅を利かせる内は恐らく無理と思うが・・・。

政治ブログの限界：ママさんブログを見直す（1） - 2012.02.20 Mon

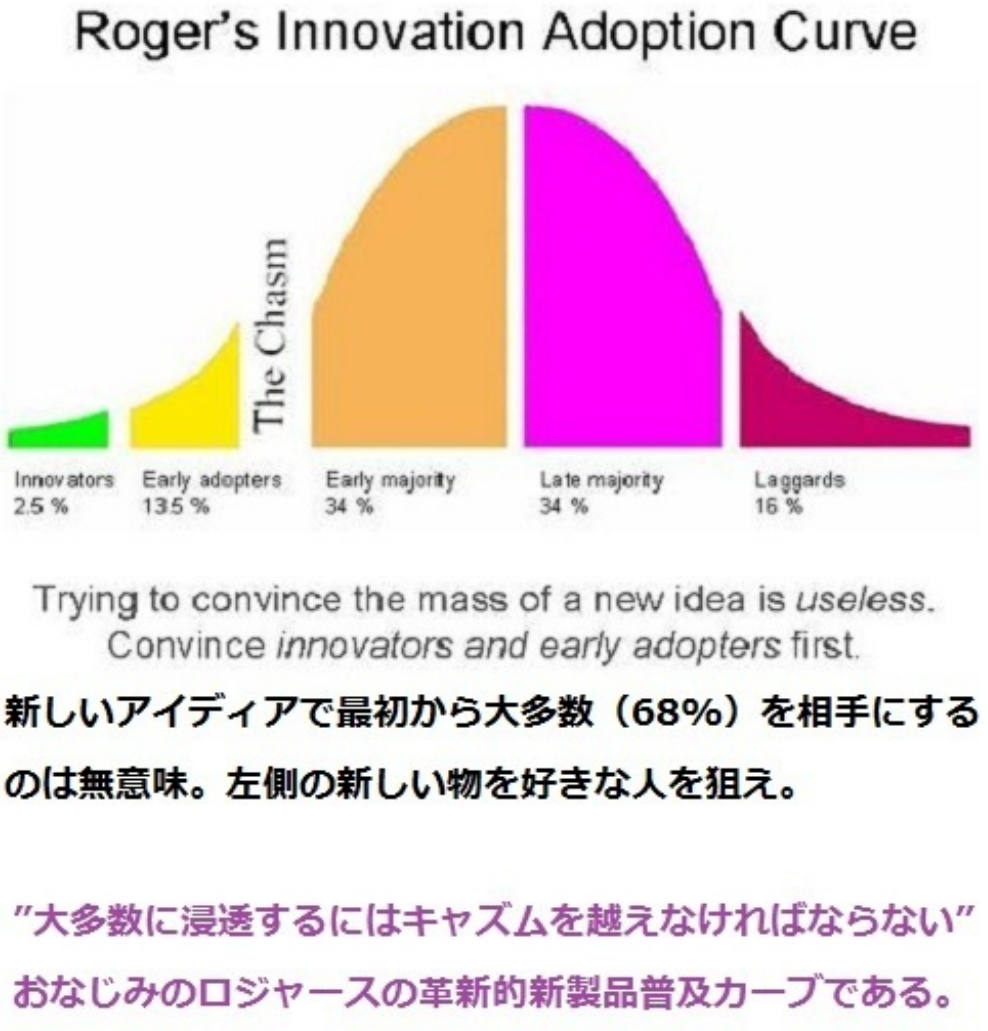
「竜馬、君ならどうする」に“宇宙のごみ”程度の個人ブログが社会に具体的な影響を与える付加価値増殖の可能性を述べた。
前回、植草氏のブログに言及したが、それは過激で読者も多いらしいブログの代表例として増殖の可能性を注視していたからだ。

結論から先に言うが、植草氏を含め、今の政治ブログで世の中を変えることはできない。

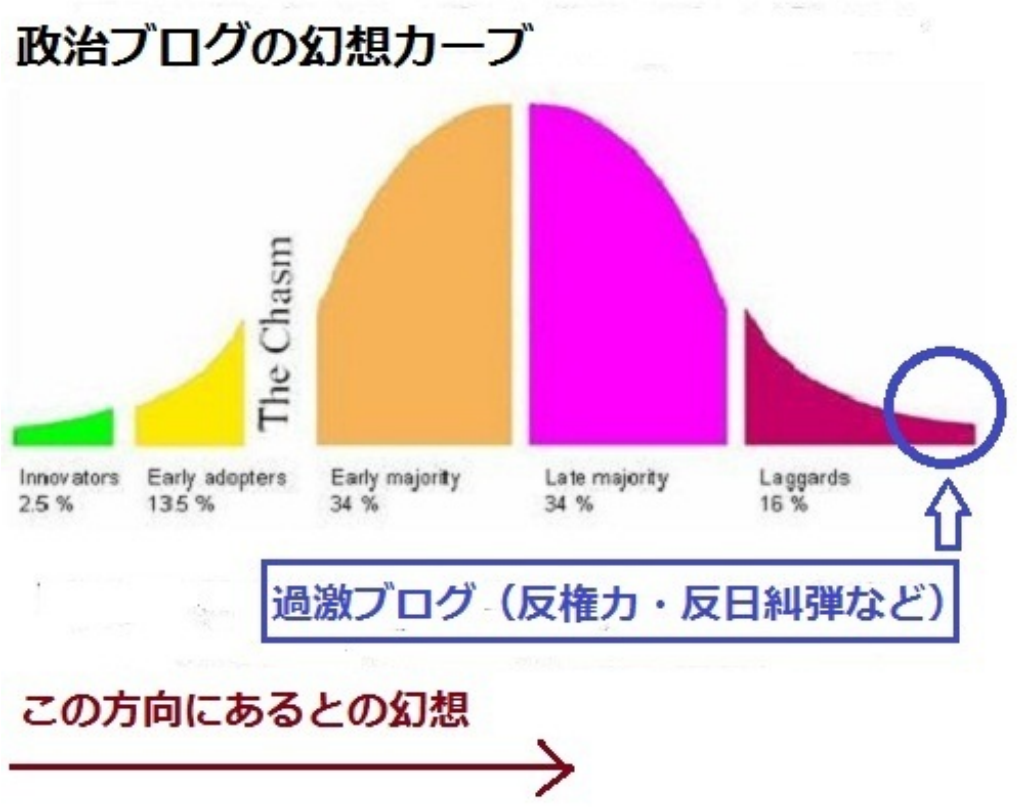
本当に日本を良くしたいと思うなら、ブログのターゲットは若いお母さんだ。ママだ。
その他、幼稚園の先生や保育園の先生等々。
彼女等にアピールするものでなければ“ごみ”以上にはならない。

日本の将来に漠然と不安を感じているのが誰かを考えれば直ぐわかる。

日本をどうしたいのか（私には）さっぱりわからない植草氏的な政治ブログが横行しているが、それらが力にならないことを今回はベルカーブを用いて説明しよう。



まず、普通の会社で、普通の仕事をしている大多数の人々は過激な政治ブログなど読まない。
断言する。
社会を構成する大多数は読まないのだ。あなたの周りの人に尋ねてみれば直ぐわかる。
政治ブログの位置づけは、ベルカーブで言うとこの位置だ。



仮に、ベルカーブの逆の位置にあると想定しよう。
何かを訴えたい人は、自分のブログがこの位置にあって増殖して中央の大多数（1σ：68%）に到達したいと考えている筈だ。
それは、自惚れだ。それが幻想なのだ。
告白すれば、それは、私も同じだった。
ビジネスマンなら知っているはずのキャズムは16%であるが、どんなブログもそこにも到達していない。まして、戦略と英語に特化した私のブログなどは較べるまでもない。本当のごみだ。

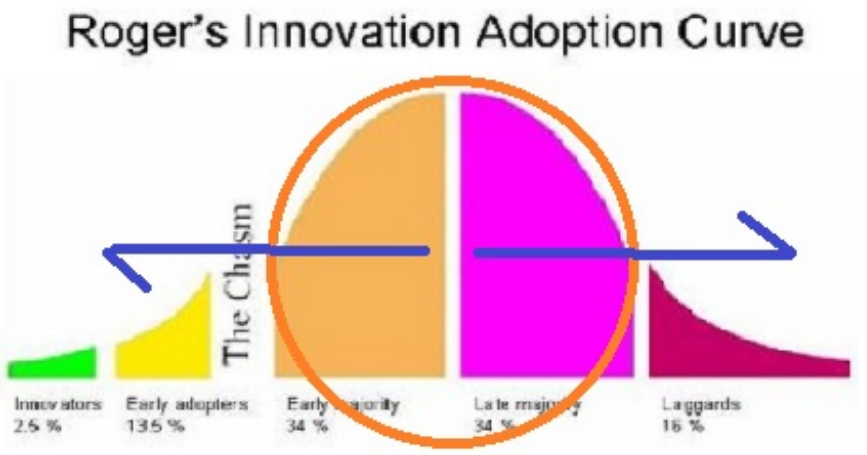
もし、過激な植草氏的なブログがキャズムに近付く、あるいは近付く可能性があると思われれば、必ずなんらかのリアクションが出る。前回述べた公安の話だ。
それは、アメリカの“ウォールストリートを占拠せよ（OWS）”と較べれば理解できる。
初めは、官憲もタカをくくっていたが、比較的早い時期にOWSに対する取締りが厳しくなった。
キャズムを越す危険性を感じたからだ。
実際に、OWSに言及するブログを当局が念入りにチェックしたと言われている。

逆に、マーケティングを知る者ならわかるはずだが、キャズムを越すのは大変なことなのだ。
今、OWSに今後の方針をめぐって内部分裂的な兆候が現れているのは、その大変なところに差し掛かっているからだ。
指導者がいなくとも明確なゴールがなくとも、ウォールストリートのやり方に不満が膨れ上がっているアメリカでOWSのアピールは新鮮だった。したがって、支持者も多くキャズム近辺まではきた。

この先は、難しい。

OWSのシステムそのものの問題の指摘は正しいが、運動や活動の実績を測ることができないからだ。できなければ参加者、支持者の意欲は継続しない。どんな活動にも目に見える何らかの実績が必要である。
政策ということになれば、日本の例で言えば、原発反対、TPP反対などのように個別政策を取り上げて反対するのはできるが、結局、党派の支持、不支持ということになる。アメリカなら結局、オバマ大統領を支持するか、民主党を支持するか共和党を支持するかということになる。
システム再構築を求めるOWSの抗議活動は、それを超えるはずのものなのだが、政策論議になれば、全体の政策バランスとの兼ね合いがあるために実際に政治を行う政治家や官僚の理屈との理屈合戦になる。
どんな政策にも長所もあれば短所もある。
したがって、政策理屈合戦に68%全体が巻き込まれるのは特殊な国民投票的な政策課題に限られる。

日本の**2009**年の政権交代を見よう。

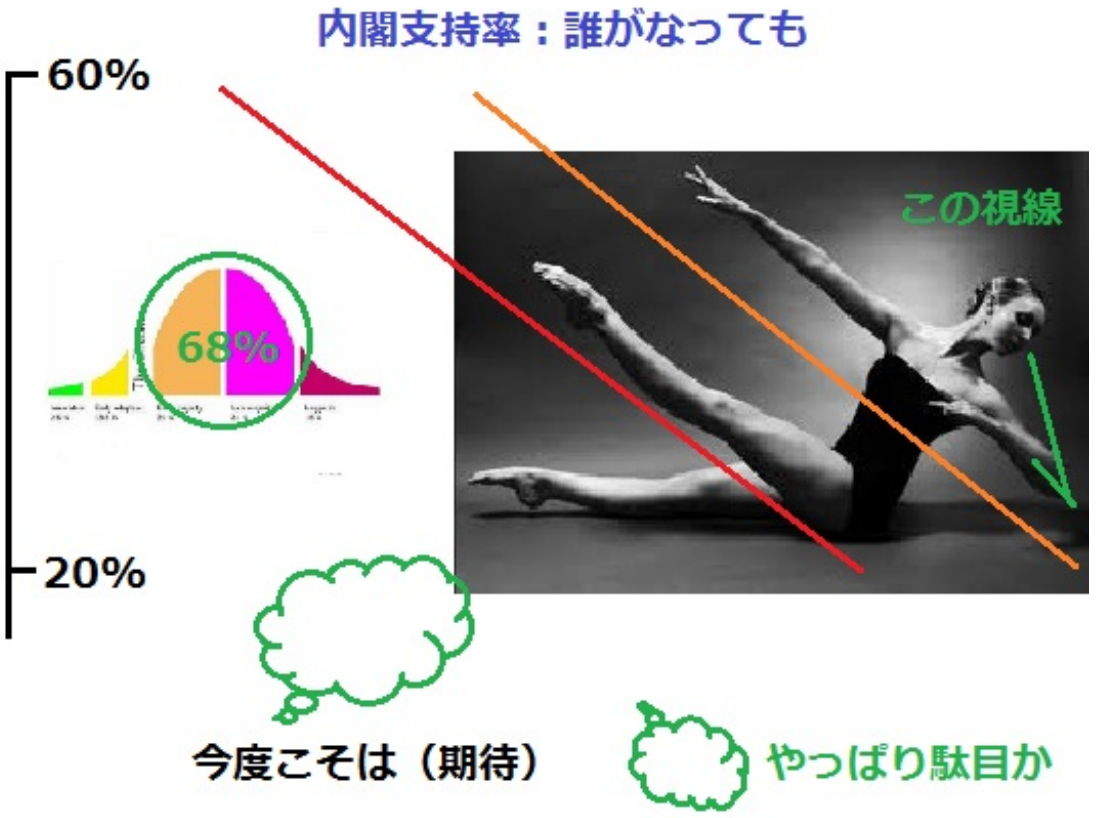


自民党から民主党への政権交代は一般大衆（大多数）
から外に向かったムーブメント

扇動者なし。ブログも関係なし。
長年の自民党の体たらくにあきれただけ。
民主党以外の選択肢なし。

ここには、ブログなど何の関係もなかった。
お腹が痛くなって辞めてしまった安部総理大臣や訳のわからない理由で政権を投げ出した福田総理、そして秋葉原オタク迎合キャラ麻生総理しか生み出せなかった自民党人材に対する国民大多数の諦めが沸騰点に達して逃げ出したからだ。
国民に民主党以外の逃げ場がなかっただけの話だ。
そこに、少しはましな人材がいるかもしれないという甘い（私）期待を持った人もいたであろう。

そして、今わかることだが、自民党時代から総理大臣が変わる度に支持率は60%程度になって、暫くすると20%程度に急落することの繰り返しだ。



この当初の支持率の高さは、期待するよりしようがないからだ。

この繰り返しに加えて、民主党の支持率が落ちても自民党の支持率がさっぱり上がらないという事実は何を示すのか？

党派、主義主張に関係なく名の知れた政治家に人材がいないことを国民の大多数が知っているということだ。

政治ブログは日本を良くしたいとの思いから書いているはずなのに、依然として疑わしい政策を標榜する党派の支持、反日だ、アメリカの忠犬だという視点とも言えない視点で騒いでいるものが多い。
良い例が**TPP**問題だ。
賛成する代議士をやっつけ、反対する代議士をやっつける“やっつけごっこ”ブログの花盛りだ。しかも一過性だ。マスゴミと呼ぶメディアの報道が下火になれば消える。
代議士だって、選挙区の思惑で賛成・反対の立場を取る。必ずしも将来を見据えた総合的な観点で物を言っているとは思えない。政治ブログも同じだ。
TPPがあろうがなかろうが、日本の自動車メーカーはアメリカに生産拠点を移しつつある。そして、日本人の働く場が縮小している。
TPPを受け入れればそうなると騒いでいる、正にそのことが実際に進行しているのに具体的な現実問題に気付かない。騒ぎもしない。

ワンクリックお願いしますと言っている間に日本はとっくにやられているのだ。

小沢さんの支持、不支持でわめくのも政治ブログの特徴だ。
日本を良くしたいと思うと小沢さんになるのがわからん。まったくわからん。
冗談じゃないぞ、まったく。あのバカさ加減には今でも腹が立つ。裏切りもいいとこだ。折角のチャンス（小沢さんにとって）を自分で潰したあの戦略性の欠如にはあきれた。あのバカさ加減で小沢さんは“人材でない”ことを自ら証明したのだ。支持も不支持も、何を今更だ。
時間の浪費だ。

こんなことばっかりの政治ブログが**68%**に到達できる訳がない。
そんなことで日本が変わるほど私たち国民はバカでもない。

次回、ママさんブログの潜在力（**2**）では、68%にどう働きかけるか条件と具体案例を検討する。
ワンクリックなんかお願いしませんよ。リンクもないから。

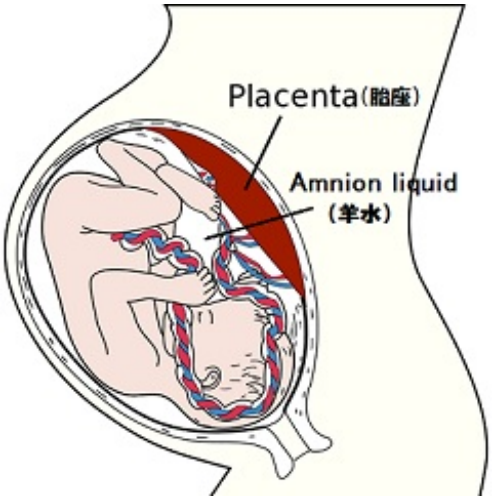
ママ・ブログの潜在力（2）：“ふりかけ”ブログも充実 - 2012.02.20 Mon

妙に居心地の良い場所を見つけた。
山小屋風というのも・・・何だろう？
・・・・・あぁ、蚕室だ、と何日後かに思った。
場所？・・・・・教えない。秘密。

蚕室は絹を取る蚕（かいこ）を育てる農家の小屋のこと。
さすが東大は偉い。建築の見地から明治から昭和にかけて存在した蚕室を研究した文献がある。Pdf画像をコピーできないので下記をクリックしてご覧になるといい。題名は英文だが、本文は日本語だ。
MECHANISM AND ITS ELEMENTS OF COOL REARING AND WARM REARING SILKWORM HOUSE
ーStudies of the modern silkworm house based on the analyzation of sericultural books Part 1ー

今でこそ廃れてしまったが、絹は昔日本の輸出産業の花形だったのだ。シルクだよ、シルク。
大事なものを育てるときには環境を完璧に整えなければならないのだ。

羊水に包まれていると感じる女性に出会ったら、あなたはもう抵抗することはできない。言いなりだ。
安全で安心。ママに守られた赤ちゃん。



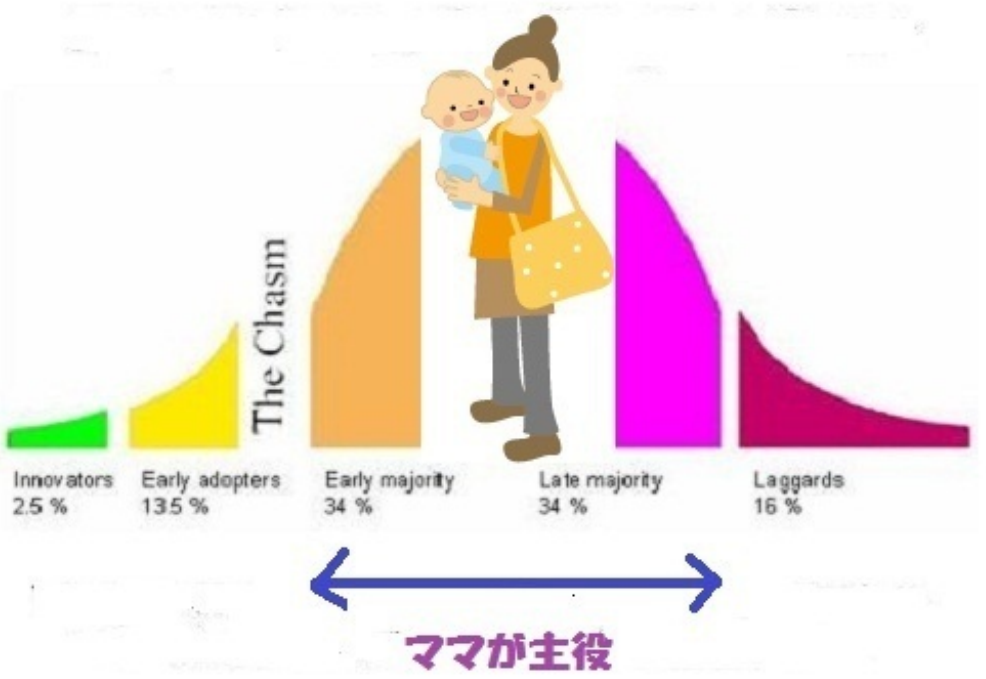
少子化とは言っても毎年100万の赤ちゃんが生まれる。

	実数			率		平均発生間隔	
	平成21年(A)	平成20年(B)	差(A)-(B)	平成21年	平成20年	平成21年	平成20年
						分 秒	分 秒
出生	1 089 000	1 091 158	△ 22 000	8.5	8.7	30″	28″
死亡	1 144 000	1 142 407	2 000	9.1	9.1	28″	28″
自然増減	△ 75 000	△ 51 251	△ 24 000	△ 0.6	△ 0.4	…	…
死産	27 000	28 177	△ 1 000	24.6	25.2	19′ 28″	18′ 42″
婚姻	714 000	726 106	△ 12 000	5.7	5.8	44″	44″
離婚	253 000	251 136	2 000	2.01	1.99	2′ 05″	2′ 06″

ママが平均1.5人の赤ちゃんを生むとしたら、7年間で700万の赤ちゃんのママはの数は470万人。
全員と言いたいがそうもいかないので、1σ（68%）が、日本の未来が明るいものであってほしいと心から願っている。320万人のママ。
その半数の夫はママの言いなり。つまり、どんなに少なく見ても、約500万人の若いカップルが、心の底で日本の政治を気に掛けている。

彼女たちは、過激な政治ブログなど読まない。
“ウォールストリートを占拠せよ”（OWS）にも参加しない。
鉢巻、日の丸、“尖閣は日本のものだ～”デモにも参加しない。
しかし、子供を公園につれていって出会う他のママとは、ちょっとした政治の話はする。社会問題も話す。住宅街近辺の居心地の良いカフェでそんな話もする。
少人数の仲の良いママ・グループ。
その内の誰かは必ずブログをやっている。
子育て、衣料、料理、自然をテーマにしたブログだ。政治問題など扱わない。

そんなママたちを中学卒業までの子供のスパンで見れば、その3倍はいる。
ご主人を含めれば1500万人、総有権者数の19%に達する。



選挙の度に誰に投票するか迷う。誰でも迷う。

政治家の人柄なぞわからない。政策の詳しいことなどわからないのは知ったかぶりの政治ブログ人たちと大同小異だ。政党も当てにならない。
しかし、優れた人がいるなら、その人を選びたい。その気持ちは強い。
しかし、優れたとは何か、その基準はわからない。誰だってわからない。

でも、たった一つの基準があれば・・・

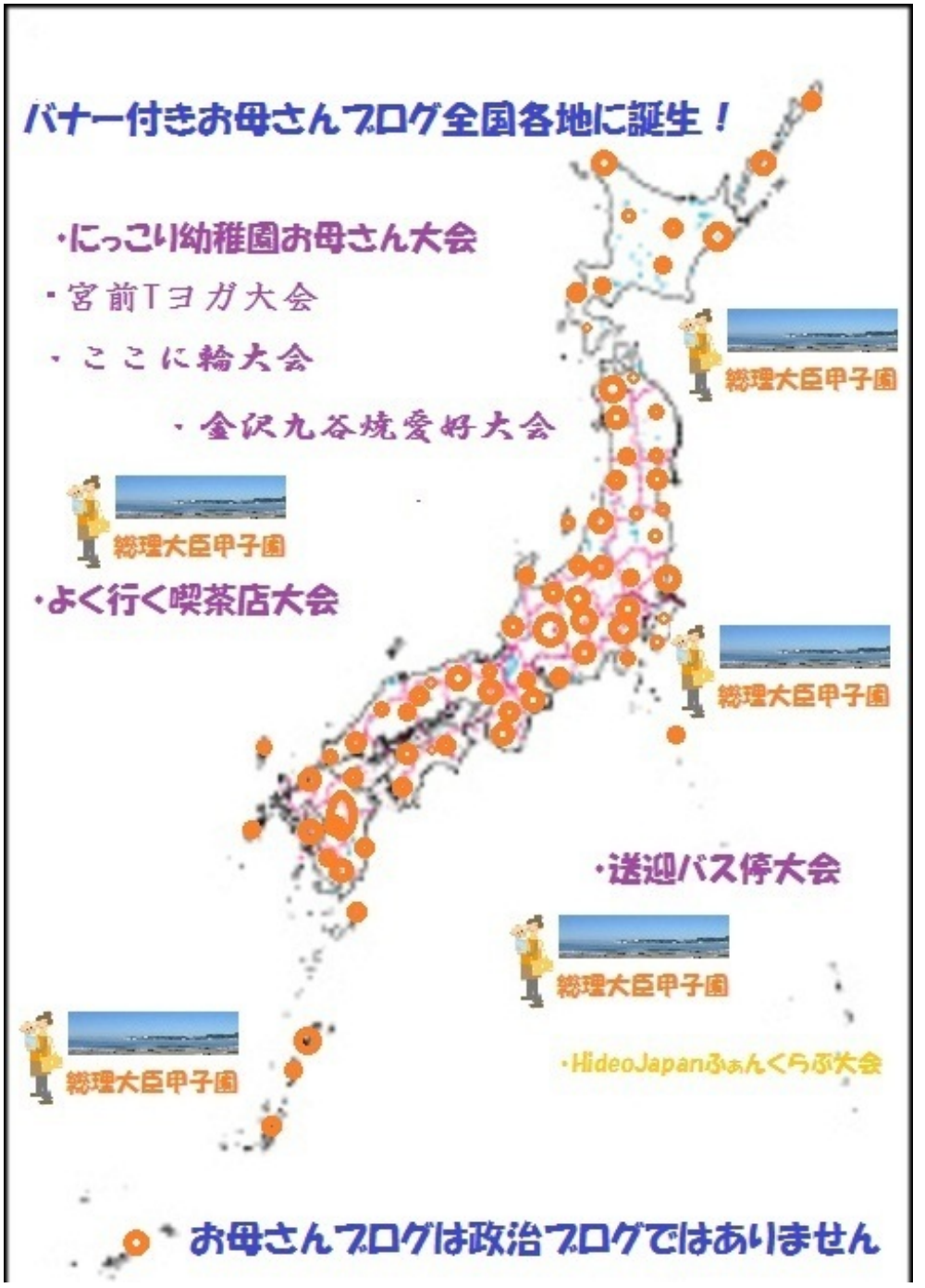
その人が総理大臣になるとしたら赤ちゃんの、幼い子供の将来を任せられるか？

所属する政党の勢力はどうでもいい。あくまでも個人。
素質を見るから若くても良い。育て甲斐があるかどうか。

小さなグループの井戸端会議で、テレビ、新聞、街頭演説を見聞きした人のぼんやりした情報交換するだけでもうっすらとイメージが湧いてくる。
「今日は、お友達とこんな人の話をしました。総理大臣の器かな～と。」
テーマ外であっても、たまにはそんなブログもちょこっと書けばいい。

やるのは、それだけ。
ただ、その日のブログには、バナーを乗せる。ひとつだけ。著作権なんて言わない。もっと素敵なバナー作ってくれたら私が使う。

バナーを乗せたら、このブログにURLを連絡する。そのURLを“総理大臣甲子園”サイトに列記する。（私の仕事）このあたりは、今後いろいろ考えて簡単にする。
小さな個人ブログが全国に広がる。



それが、契機になってブログのアクセスが急増する。
楽しみが増える。
でも、絶対に“政治ブログ”に変質してはいけません。
変質したら、列記から外します。ルールはこれだけ。

私のブログは、ママさんブログの衛星に過ぎない。
書いたものから書いた人のメンタル・モデルを類推するこのブログが、井戸端会議のちょっとした“ふりかけ”になるかもしれない。その程度の力だ。（内心、美味しい“ふりかけ”と思っているが口には出さない。）・・・出しているじゃ～ん。
”ふりかけ”ブログも募集中！・・・植草さん、あなたのは・・・？

選挙は3～4年置きにある。そして、毎年、毎年、ママたちの仲間入りする予備軍がいる。

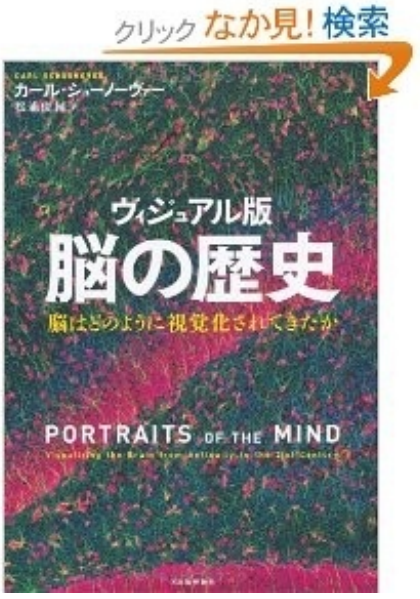
バナーとテーマ外のちょっとした井戸端会議付け足しブログ。
これだけで有権者の政治家個人を見る目が変わる。
見る目が変われば、政治家も意識する。
伸びる政治家は伸びる。
政治家が伸びれば、官僚もうかうかできない。
この風潮ができたとき、本物の“ふりかけ政治ブログ”が生まれる。
日本の政治が一流になる。
日本の子供たちが地球の未来を創る。

“風が吹けば桶屋が儲かる”式総理大臣甲子園！

ママを愛している若い夫～、婚約した君～、まだ甘ったれの大学生～、君らがママ、彼女、同級生や同窓生に声を掛けるんだ。君ら自身の将来だ。生まれてくる子たちの将来だ。

次は、美味しい俺の”ふりかけ”の秘訣教えるからね。がんばろうぜ。

美味しい”ふりかけ”：ジャーナリストのメンタル・モデルの読み方 - 2012.02.21 Tue



つい2ー3日前、Facebookで友達申請をいただいた。承認するとメールがあった。
そこに、「豪雪→融雪→ペルチェ→特許→渡辺さんのつながりで検索しました。」とある。この連想はすごいなと驚いた。
それでもお名前に記憶がない。勤め先が帝国データバンクとある。
それで、思い出した。論文の謝辞にある株式会社サーモボニック（ペルチェ素子製造）時代のことだ。
とにかくお金がないから、開発した製品を事業化するパートナー探しの連続。技術に興味を持った潜在パートナーは、調査会社に依頼してこちらの経営状態を調べる。嘘は極力言わないようにするが、都合の悪い真実はけっして言わない。調査員の中には感じの良い人もいれば、そうでない人もいる。その中に、根掘り葉掘り聞き出そうという態度はまったくないのだが、何となくこっちの心が解けて報告書が書きやすいように話そうとした若い調査員がいた。それが彼なのだ。
彼を思い出した私の連想は、「調査員→真実を言わない→心が解けた人がいた→彼」である。
彼の連想の「豪雪→融雪→ペルチェ」という部分は、峠道に熱線を埋めて凍結防止などの話をしたからだろうと思う。しかし、彼がそのように連想するのは、他人にはわからない。逆に、私の連想も他人にはわからない。

一週間前の産経新聞の[From Editor]というコラムに「じっと見ていると思い出す」というのがあった。**Yahoo**の配信から以下をまず読んでください。

数十年ぶりに会った人でも顔を見ているうちに、誰であったかを思い出すことがある。随分と体形は変わったし、髪の毛の色も量も違う。肝心の顔自体が長い年月を物語るように別人だ。女性なら化粧という強敵もいる。それでもだんだんと昔の顔と結びつき「あの人だ」と分かる。もっともこういう時は、相手もこちらの変わりように驚いているようだが。

なぜ容貌が激変しても思い出すことができるのか。脳科学者の池谷裕二さんによると秘密は「脳の『曖昧さ』にある」という（「進化しすぎた脳」講談社）。 脳は写真に写したように人の姿を正確に覚えているわけではなく、無意識に特徴を大ざっぱにつかんでいるだけだそうだ。寸分たがわず記憶してしまうと、次に 会ったときに、髪形が変わり服が違うだけでも、誰であるかを判別できなくなってしまう。完璧な記憶は基本的に役に立たず、曖昧でいいかげんであることが人間の応用力につながっているという。鳥などは写真のように覚えるが、まったく融通が利かないそうだ。

警視庁本部に出頭してきたオウム真理教の元幹部、平田信容疑者を門前払いした一件。平田容疑者は整形もしておらず、特徴や体形はほとんど変わっていなかったという。警備をしていた機動隊員は「髪が長く茶色で、顔もふっくらしているように見えた。手配書の平田容疑者とは別人と思った」と話している。対応 としては問題があったが、記憶ということでは同情すべき点があるように思う。

この隊員は職務に怠慢ということではなく、手配書をしっかりと頭の中に刻みこんでいたのではないだろうか。そのため深夜に現れた髪の長い男と、髪形の違う写真の男が結びつかなかったのでは。髪形などは無視してもっと曖昧に記憶しておけば、門前払いをすることもなかったかもしれない。

入試真っ盛りの２月、受験生にとって曖昧な記憶は大変な困りモノだろうが、それは人間の証拠なのだ。少しも励ましにならないかもしれないが、一生懸命に勉強した数学の公式や漢字を試験場で思い出さなくても、悲観する必要はない。

池谷さんによると脳は曖昧であるが、完全に忘れているわけではないそうだ。外見は違うがじっと問題を見ていると、過去に解いた問題と結びつくかもしれない。簡単に分からないように“変装”をしている可能性もある。試験では脳をフル回転させ最後まであきらめないで。（校閲部長　深山茂）

深山さんという方を知っている訳でも、思うところがある訳でもない。メンタル・モデルは思考のパターンと知識という定義をしており、書いたものにはそれが表れると言ってきた。
その分析は無機である。
感情などの有機的なものが入る余地がないことも強調してきた。

最初と第2パラグラフは、読者が「何を書くのだろう？」と期待を持たせるキャッチである。ジャーナリストの書く文章の典型的なアプローチであると“文章の書き方”（著者ジャーナリスト）に書

いてあった。その通りの導入部である。

第3、第4パラグラフは、導入部の（専門家の）脳の話を最近話題になった事件と結びつけて、読者になるほどと思わせる手法で、これもベテラン・ジャーナリストのパターンである。基にしているのは専門家の学術的なものですよという（客観的な）根拠を明らかにして書くものに信憑性を与えようとするものだ。

そして、第5、第6パラグラフが、受験生に自信を持たせようとする結びになっている。

一読して、深山さんという方に脳に対する知識が殆どないことがまず気になる。

脳の記憶は曖昧であることはその通りらしいが、視覚が記憶にいたる過程は、まだ科学的に解明されている訳ではない。
“らしい”と書いたのも今の主流の考え方であるというだけに過ぎない。脳の記憶は海馬にあると長年言われてきたが、海馬でなくとも記憶が起こるのはつい7–8年前に解明されたばかりだ。
その理由はたんぱく質形成にあるらしい。
脳科学者のたった一冊の単行本を基に“曖昧”だけを理由に機動隊員を擁護しているのか責めているのかわからない深山さんの分析を読むと恐ろしくなる。

そして、受験生に対する激励（？）である。
ここには、二つの問題がある。
一つは、前述と同じことだが、“曖昧”と同時に“忘れていないかもしれない”という根拠のまったくない推測を基に“脳をフル回転させよ”と脳科学者の話を持ち出す必要もないことを述べている点である。
単に、「似たような問題を解いたことがあるかもしれないから、それを思い出すように冷静になってがんばりなさい」と書けば済む。

二つ目は、特に氏がジャーナリストであるだけに問題なのだが、受験に重点を置く現在の教育そのものの問題、暗記と想像力・創造力の課題を知ってか知らずかの文章に留まっていることである。
Facebookの話で連想という言葉を用いた。これが、想像力・創造力と関係がある。ある事実、定理でも公式でも良いが、それを学んだ生徒がそれから何かを発想する。その発想がさらに発想を産んで展開する。脳内での発展の仕方（脳の発火）は先生にもわからない。応用問題ではカバーしきれない自由な思考の発展である。その過程には定理と異なる別の情報も加わる。現在の答えがある問題を解く教育システムでは個々の生徒が持つ（持たない生徒もいるだろうが）創造性につながる自由な想像力を育むことが難しい。判定方法もないと言った方が良いだろう。
メンタル・モデルの論文で認知科学や心理学と教育の関係に触れているのは、これと関係する

のだ。批判的思考（critical thinking）に言及しているのもそのためである。

勿論、あの短文のコラムで、このようなことまで触れることができないが、脳の話を持ち出したばっかりに氏のジャーナリストとしての教育問題に関する見識まで（私に）疑われることになる。
あれで受験生が激励されたのなら幸いであるが、このコラム自体は物書きのプロとしては失格と思う。
私の指摘は、深山さんの脳科学の知識が足りないということである。そして、足りないことに気付いていないのかもしれないとも思う。もっと言えば、機動隊員のうっかりミスに対する”曖昧”以外の要素を考える思慮深さ（他の想像シナリオとそれらの検証）がない。そして教育に関する見識の疑問。このような疑問は、文章の底に流れる彼のメンタル・モデル（知識と思考パターン）を読み、自分のメンタル・モデルと照らし合わせることから生まれたものである。
文章を書くのは勇気がいる。書き手のメンタル・モデルと読み手のメンタル・モデルが戦う材料になるからだ。それは、知識と知恵の戦いと言ってもよい。

現在、メディアは大変な時期を迎えている。購読しているニューヨークタイムズの課金方法がどんどん複雑になっている。日本では既に朝日の電子版もお金を払わなければ読めない。
記事ごとに課金する方向に向かうだろうが、深山さんのようなコラムにお金を払うつもりは私にはない。記事やコラムを書くジャーナリストのメンタル・モデルの質がメディアの生き残り条件になると思う。
ママ・ブログの衛星ブログとして、このようなジャーナリストのメンタル・モデルを解明するのも役割の一つだろうと考えている。
メディアの影響力は依然として大きいことに加え、このメンタル・モデルでプロの仕事です、ベテランの仕事ですでは、部下（人材）も育たないし、コミュニケーションを学ぶ学生にも益にならないと懸念するからである。

単行本ほど容易じゃないが、冒頭の本でも読んでみたらいかがかと思う次第である。

尚、脳に関して以前ブログしたことがある。
ここには、それ以前の記事も紹介している。日時をアーカイブすれば読める。
そうするだけで、あなたも深山さんのコラムに対して同じような見方になる筈だ。

お金を払って読むジャーナリストのメンタル・モデル：あっ、この顔は - 2012.02.22 Wed

こんな写真とリンクがあるブログにママは来ないよなぁ～と思いつつ・・・

右のサイトに、こんな文章があります。沖縄も発祥みたいなものですね。
Have you ever wanted to add some power to your punch? Do you feel threatened because of your lack of strength when it comes to defending yourself? Then it's time to finally get the edge you need over your attacker with a cheap pair of one of our real brass knuckles for sale, a reinforced piece of metal, gripped in the fist to increase the damage of normal unarmed attacks. Also sometimes called "knucks" or "knuckle dusters" or "punch rings", and a similar weapon the "tekko" is one of the traditional weapons of kobudo, a martial art from Okinawa, Japan.

そして、突然変わる。

Dear New York Times,

I am a subscriber of Times Reader and a blogger and researcher for strategy and mental model. Yesterday, I analyzed the mental model, which I define as “the combination of thought process and knowledge”, of a Japanese columnist and I concluded that I don’t want to pay for that kind of article. My blog is non-commercial and its purpose is to enlighten and urge anonymous readers to be able to filter worth-reading articles and information.

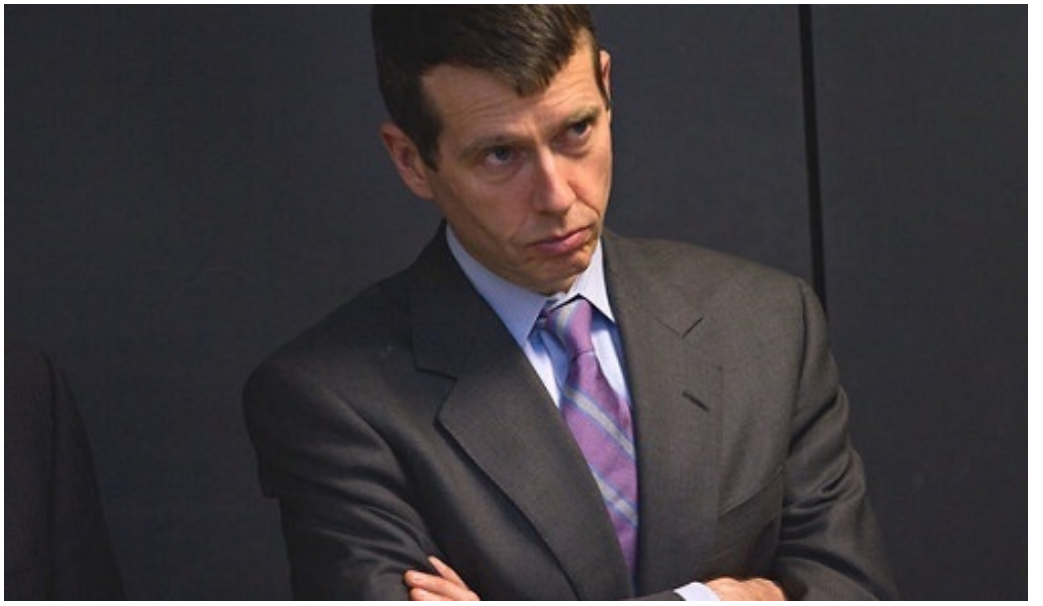
As the article (written material) is the reflection of a writer’s mental model, its analysis is an “inorganic” process without emotional detachment to the theme, up-to-date or obsolete, or writer, famous or unknown, for the filtering.
At this particular blog I am going to introduce an antithetical example I found in the front page of your February 20 issue.

Since some readers do not subscribe and may not have access to the article, I would like you to allow me to copy and paste it on this blog. I do hope that you should take this as part of your sales promotion.

The article is；
「**From Knife Seller to the President's Hard Edge**」（**By MARK LEIBOVICH　Published: February 20, 2012**）
URL is;
http://www.nytimes.com/2012/02/20/us/politics/plouffe-obama-aide-lends-firm-hand-to-campaign.html?scp=1&sq=daivid%20plouffe&st=cse

Thank you very much,

ということで、お許しを貰えるかどうか知りませんが、続きにある英語を読んでください。早い者勝ち！
知らない単語もたくさんあって辞書を引き引き読んだことを白状します。私のレベルはそんな程度です。
何度もブログに書いてきた大統領上級アドバイザーのプラウ（David Plouffe）に関するものですが、プラフ、またはプラッフ（Pluff）と呼ぶのが正しいそうです。はい、知りませんでした。でもこれまで通りプラウと書くことにします。



記事を続きに載せます。今回は、そこまでです。
それにしても、このプラウの顔、凄いですね。
誰かを連想しませんか？
それとBrass knuckleと何の関係があるのか、下手なシャレのつもりなんです。

そのあたりは、次回にしますが・・・・

David Plouffe is not a hugger, crier or someone who gets all gaga every time he walks into his West Wing office, just a few feet from that of the president. He disdains doomsayers as “bed-wetters,” press hordes as “jackals” and the political noise machine as a profanity that begins with “cluster.”

Fiercely data-driven, Mr. Plouffe revels in the company of spreadsheets, lists, maps and the Baseball Almanac. Fiercely competitive, he once decked a colleague in a friendly touch football game for taunting him. Fiercely unsentimental, he expends zero amazement over his career climb from selling knives door to door to a first-among-equals status in the White House’s closed circle.

Mr. Plouffe, 44, who managed President Obama’s campaign in the relatively dewy-eyed days of 2008, rejoined his team last year after a lucrative hiatus. Since then, he has asserted himself as the main orchestrator of the White House message, political strategy and day-to-day presentation of the candidate.
If the campaign of four years ago sold Mr. Obama as a force for what Mr. Plouffe called “a politics of unity, hope and common purpose,” this one is rooted firmly in the grind-it-out imperatives of re-election. Today, Mr. Obama seems every bit primed for “brass-knuckle time,” as Mr. Plouffe once termed campaign brawling, with Mr. Plouffe leading an effort that has shown every sign of doing whatever it takes to succeed.

This month, with Mr. Plouffe’s support, Mr. Obama ditched his long opposition to directing his campaign donors to “super PACs” ― outside groups whose bankrolling of negative advertising against his Republican rivals has done much to change politics, and not in a “unity, hope and common purpose” kind of way.
Mr. Plouffe (pronounced Pluff) has also pushed for a more combative White House stance toward Congressional Republicans and an aggressive early tack against former Gov. Mitt Romney of Massachusetts, whom the Obama team still views as its most likely and most formidable opponent in November. It was Mr. Plouffe who declared on “Meet the Press” last fall that Mr. Romney had “no core.”

Intense and self-contained, Mr. Plouffe, who declined to be interviewed for this article, is a temperament alter ego to a president who has always been drawn to loyal fixer types. Mr. Obama, whose favorite movie is “The Godfather,” has compared Mr. Plouffe to a character ― a relentless cop played by Mark Wahlberg ― in the more recent mob film “The Departed.”

Mr. Obama's aides are hesitant about discussing the frequency of Mr. Plouffe's dealings with the re-election effort led by Jim Messina in Chicago, presumably not wanting to suggest he is running the campaign from the White House. Likewise, they are reluctant to characterize Mr. Plouffe's relationship with the president as special, or suggest that it trumps that of other top lieutenants, particularly Jacob J. Lew, the new chief of staff (Mr. Plouffe is a stickler for hierarchy).
But people inside Mr. Obama's political apparatus say Mr. Plouffe is most in tune with the president's thinking in terms of his unsparing focus on the middle class and his abandonment of the bipartisan bridge-building efforts that have mostly failed through his first term.

"The president probably took David's opinion with more certitude than he did anybody else's," said William M. Daley, who left as chief of staff last month after a year in the White House. "If David said X, I think the president would more often believe X than challenge it." Mr. Daley added that Mr. Obama would be more likely to heed Mr. Plouffe's advice than his or that of other longtime confidants, the senior advisers Valerie Jarrett and Pete Rouse.

Mr. Plouffe's history with the president ensures him a rarified place in any Obama endeavor. He became a folk hero within the grass-roots network in 2008, his sleep-deprived face and deadpan delivery evoking urgency (and twiggy frame crying out for cheeseburgers). Mr. Plouffe approaches campaigns with a tribal sense of good-vs.-evil, rarely seeing much humanity in opponents. (He assumed that Hillary Rodham Clinton's crying episode before the New Hampshire primary in 2008 was "deviously contrived and staged," he wrote in his campaign memoir, "The Audacity to Win.")
In keeping with the high-minded rhetoric of 2008, Mr. Plouffe railed against the corrosive political culture in Washington, even though he has worked there for years. Mr. Obama himself would talk about those who entered politics for "the right reasons" and those who wanted to make money. And Mr. Plouffe, in his memoir, denigrated Republicans as "a party led by people who foment anger and controversy to make a name for themselves and to make a buck."

After Mr. Plouffe made a name for himself in the campaign, he made a buck. He signed on with the Washington lawyer Robert Barnett, a longtime Clinton loyalist whom Mr. Plouffe had privately denigrated during the campaign as a consummate Washington insider, according to several campaign aides.
Considered the prime facilitator in Washington for those seeking to "monetize" their political service, Mr. Barnett negotiated a reported seven-figure book advance for Mr. Plouffe and set him up for speaking gigs. Mr. Plouffe earned $1.5 million in 2010, according to White House disclosure statements, which included management consulting work for Boeing and General Electric, and close to $500,000 for speeches around the world, including $100,000 from MTN Nigeria, an African telecommunications firm.

In early 2009, Mr. Plouffe agreed to speak in Baku, the capital of Azerbaijan, for $50,000 without realizing that the event's sponsor had ties to the authoritarian government there. After complaints from human rights groups, Mr. Plouffe donated his fee to the National Democratic Institute, a pro-democracy nonprofit organization partly financed by the American government.

Speculation about Mr. Plouffe's status in the White House is precisely the kind of Kremlinology that the Obama team abhors — none more than the No Drama archetype himself, Mr. Plouffe, who lives in Northwest Washington with his wife, Olivia Morgan, and their young son and daughter. He occupies the same role previously filled by David Axelrod, his former business partner, who remains a main adviser to the campaign in Chicago.

Mr. Axelrod, who compares his yin-yang with Mr. Plouffe to that of Oscar and Felix in the Odd Couple, is the expansive slob to Mr. Plouffe's fastidious detail man. At a going-away party for Mr. Axelrod last year that was attended by numerous White House officials (including the president) and Axelrod pals (including the jackals), Mr. Plouffe looked as if he would rather be cleaning a litter box. He slipped out early.

The skills and sensibilities of the two Davids appeal to Mr. Obama for distinct reasons. Mr. Axelrod, a former journalist known as "Axe," is an idealist inspired by Robert F. Kennedy who helped fulfill Mr. Obama's ambition for lofty messages and oratorical sweep. Strategic and unemotional, Mr. Plouffe comports with Mr. Obama's exacting style and natural reserve ("very, very, very, very, very, very private," Mr. Daley said of Mr. Plouffe and Mr. Obama — six verys).

"If Axe is the person most in tune with the president's voice," said Dan Pfeiffer, the White House communications director, "Plouffe is the one most in tune with the president's personality."

Mr. Plouffe grew up in Wilmington, Del., the third of five children. His father worked on the factory floor at DuPont and eventually moved into marketing. David joked in his high school yearbook that he planned to "join the mob" but instead enrolled at the University of Delaware.

He dabbled in beer pong and earned tuition money by selling kitchen knives and sweeping chimneys. He studied political science but craved a real-world exposure to campaigns that led him to bolt in his senior year for a career as a political gym rat. He worked on dozens of campaigns, including Senator Tom Harkin's presidential run in 1992 and Mr. Obama's Senate race in 2004. (He completed his college credits online in 2010.)

"He walked out of his job interview and I said, 'He's too nice,' " said former Senator Robert Torricelli, a New Jersey Democrat who hired Mr. Plouffe to run his 1996 Senate campaign against Representative Dick Zimmer, a Republican. "I thought he was going to be eaten alive."

He hired him anyway, and Mr. Plouffe was not eaten alive: the Torricelli-Zimmer race is recalled as carnivorous — "unrestricted chemical warfare," as a Rutgers political scientist, Ross Baker, put it. It

featured charges of race-baiting, mob dealing, terrorist ties and even accusations (never proved) that Mr. Zimmer's campaign had rummaged through Mr. Torricelli's trash. Hope and change, not so much.

Stories of Mr. Plouffe's competitiveness abound — like when a former business partner, John Del Cecato, scored in a touch football game, talked trash at Mr. Plouffe and got thrown to the ground next time he got the ball. After a doctor told Mr. Plouffe he could not run a marathon because of a knee injury, Mr. Plouffe did so anyway, and wound up on crutches.

If Mr. Plouffe has an ideological bent, other than being a Democrat, it is not evident. "I don't know that he has a passion for the middle class, or the environment, or whatever it is," said Steve Elmendorf, a Democratic lobbyist and close friend. "He has a passion for winning and a passion for putting together the operation to do so."
In his memoir, Mr. Plouffe recounts what sounds like an ideal evening for himself — alone with his laptop in a hotel room in Decorah, Iowa, running election scenarios in 2008. What if the turnout of voters under 30 was 17 percent of the electorate? What if it was 22 percent? "I ran through these exercises frequently," he wrote, "sometimes at 4:00 a.m., according to my wife, while flailing in my sleep. Often it gave me comfort."

誰を連想しました？：戦略家たちパート2緊急出版 - 2012.02.23 Thu

緊急アップ

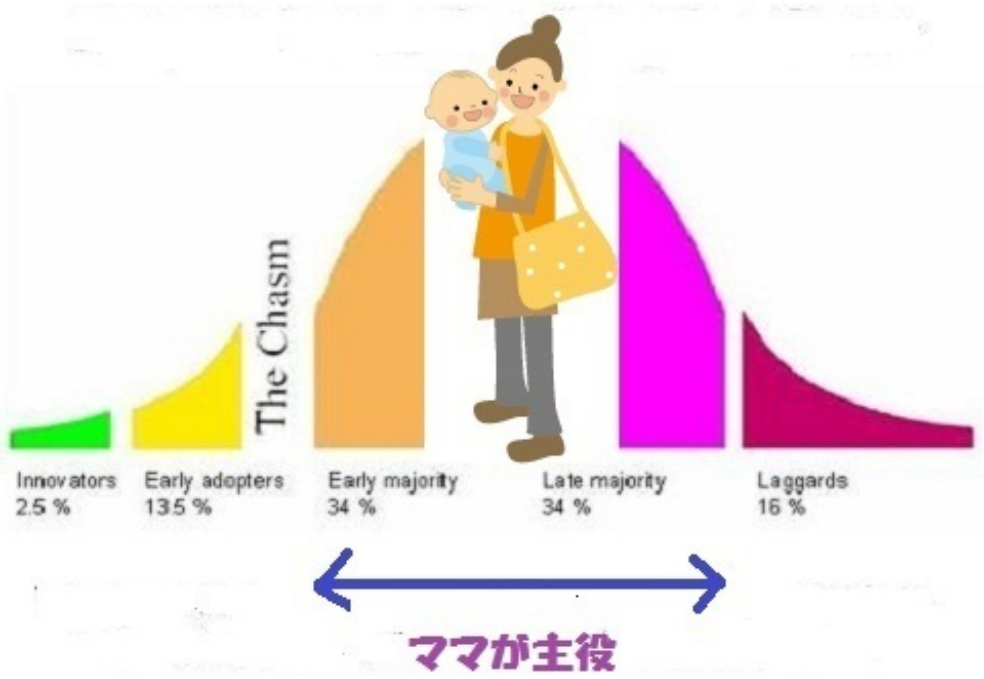
2008年4月15日から18日にかけて「だれにでもできる英語力向上の秘訣」を7回書いた時には、一日最高2700のアクセスがあった。2010年に「英語公用語賛成**20%**」を書いた時には最高2400で、この記事は継続して読まれた。リンクに15000突破とあるが、もっといっただろう。

今回が、これだ。
ガックリきた。

転生してから、英語と戦略やりたい人だけを対象にしようと決めてアクセスなど気にもしなかった。
それが、これだ。

みんな植草さんを書けばアクセス上がるの知っていて、リンク貼ったり応援してる振りしているだけか・・・。

この方が余程大事なのに、これで上がることはない。すばらしい！！！



この二つは、ブログ歴7年間でやっとたどり着いた結論だ。

「政治ブログの限界：ママさんブログを見直す（1）」（2012年2月20日）
「ママ・ブログの潜在力（2）：“ふりかけ”ブログも充実」（2012年2月20日）

今思うと当たり前のことだが、自分が、自分がと思っていた頃には思いもよらなかったことだ。

前回紹介したプラウの記事だが、英文読んでいる最中の人もいるだろうから、改めて書くが、プラウとオバマ大統領の波長の関係がオバマアメリカを面白くしている。日本の政治がつまらない一番の理由が、戦略の戦いが見られないからだ。
グループ志向の合議重視で個人の突出を嫌うからだろうが、20年前まではそれで通用しても、世界が狭くなった今、それは通用しない。この記事は、日本の政治を考える上で多くのことを考えさせられる。実は、記事の中にあまり知らない人の名前も出てくるので、今年の関係ブログを「オバマ大統領を支える戦略家たち：パート2」としてまとめた。パート1、2を読めば、記事の理解が一層進むかもしれないとの余計なお世話だ。
また、プラウに対する私の見方とこの記事の見方を対比するのもメンタル・モデルの訓練になると思う。これは、大事。

ところで、プラウの顔を見て連想した日本の政治家いますか？

私は、何故かこの方を思い浮かべました。

プラウは、外目からは中田さんのように熱くはないと思います。

何故でしょうかね〜。

どことなく二人ともやくざっぽくと言えば失礼ですが、”無頼”感を感じるのですが・・・。

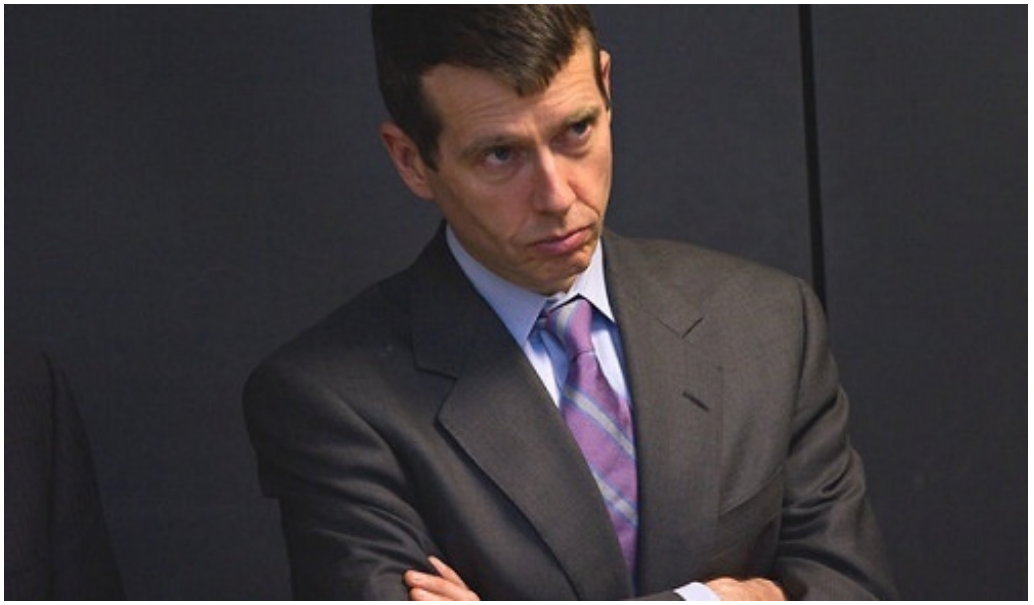
私、この本を読みました。
中田さんもいろいろ取り沙汰される方ですが、ホームページを読む限り、今後も注目しなければならない有望な政治家のひとりと思います。
総理大臣甲子園にエントリーしていただきましょう。
そのうち取り上げます。
橋下さんのところで働くことについて気に掛かっていることもありますので。

Blood, Sweat and Tears（プラウ分析）；酒と涙と男と女 - 2012.02.26 Sun

2月22日のプラウ分析記事の続きである。

追加（2012年2月27日　11.47 AM）：
このLEIBOVICH氏の記事は、ジャーナリストによる政治家、或いは戦略家の思考と行動様式（つまり、メンタル・モデル）分析としてすばらしいものである。“ジャーナリストの”と断っているのは次の理由による。
私は、メンタル・モデルと戦略の関係を長年調べてきた。したがって、私の場合、既に行っている分析に加えて、氏の記事から新たな情報・視点を得て、あくまでも “オバマ大統領二期目の選挙を勝ち抜くために、プラウがどんな戦略を採るのか”ということに主眼を置いている。
この違いがあるために、氏の記事に私が求める直接の答えはない。しかし、それがないからといって氏の記事を低く見る訳ではない。
私たちがメディア情報に触れる時、自分がそこから何を得ようとしているのかの心構えがなければ、記事の評価もジャーナリストの評価も難しいと思う。多くの報道は、ごみ情報である。それは、まさしくプラウの言う大衆の受けを狙うビジネスとしてのpolitical noise machineだからだ。しかし、マスゴミと罵る前に、自分がどんな客観的視点を持っているのかを厳しく見つめることが必要ではないだろうか。それが、メディアの質を少しでも高める読者や視聴者の役割と思う。
このブログは、メディアの読み方と英語の学び方について、ある意味私の考え方の集大成になったと考えている。ここには触れなかった日本の政治状況との比較は次のエントリーで行う。

愛想良く誰とでもハグするタイプじゃない。自己主張のために泣き喚くタイプでもない。事務所で特別目立つタイプでもない。
（どんな人を想像しますか？）
そういう人が、
弱気なことを言う奴を寝小便たれと一刀両断し、報道陣をハイエナ（英文jackal）と呼び、（Foxニュースなどの）テレビなどを群れなければ何にもできないののしり屋共と言い放つ。
（こいつ、どんな奴だと思いますね。）



Fiercelyを三度も使っているが日本語に直すと全部辞書にはない言葉が妥当になる。英検やTOEICでは足りないと言っていることだ。
日本語は難しくて英語は単純と言う人が多いが、何度も言っているように私には英語だって難しい。

Fiercely data-driven
大リーグの歴史年間データを隅から隅まで知っている奴がいたら、「あぁ、あいつは統計数字に対してほとんど偏執的だからな」となる。
戦略家たちパート1の第4回、バイデン副大統領候補指名演説を屋外でやるのを決めたオバマとプラウの会話・・・・・「100年間の天候を調べたが、雨だったのはたった一度。」
本当に調べたかどうか今でも疑問だが、凄いと思った。

Fiercely competitive
「えっ？あいつゲームで負けぐらいで相手を殴り倒したのか？」となれば負けず嫌いどころじゃない。ほとんど異常だ。そして、医者に止められてもマラソンやっちゃって松葉杖の世話になれば、ほとんどバカだ。

Fiercely unsentimental
一軒、一軒まわって包丁を売って学費を稼いで、今はホワイトハウスでは大統領を除いて実質NO.1の地位になっても、「それがどうしたの」って感じが無感動ですか？

記事を書いたMARK LEIBOVICH氏は、プラウの、そしてオバマ大統領のメンタル・モデルに迫ろうとしているのだ。それは、わかりますね。

そういう視点でこの記事を読めば、このfiercely unsentimentalが重要なポイントと私は思う。

しかし、**LEIBOVICH**氏はこの記事で、一体何を言いたいのだろうか？

「共和党下院とパンチ・リングを嵌めて殴り合いみたいな選挙をするのは、3年前に言っていた“a politics of unity, hope and common purpose”と違うではないか、支持者自身の発案と費用で共和党に対してネガティブキャンペーン広告するのを認めるのも、これまで言っていたことと違うではないか、金儲けのために政治家になるのはけしからんと言ったって、プラウは一昨年1億5000万円も稼いだではないか。」と取り様によっては反オバマ、反プラウみたいに聞こえるが、そういうことでもない。

オバマ大統領も参加したアクセルロッドの送別パーティーで、ゴミ箱の掃除をしたみたいに途中でさっさと帰ってしまったという文章がある。上手い表現をするものと感心したが、その通りと思う。
というのは、いつかのブログに書いたと思うが、プラウが「（オバマ大統領が）バレリー・ジャレットと”うだうだ”と相談ばかりして・・・」と言ったことがある。共和党と妥協に妥協を重ねても一向に政策が前に進まない頃のことだ。
自分は、講演旅行に忙しくしながらも、共和党との駆け引きでのホワイトハウスの弱腰にイライラを募らせていたに違いない。
ジャレットやアクセルロッドの性格を知り尽くすプラウにとっては、アクセルロッドに代わって自分が入ることで対共和党対策、さらに（当時から見れば）2年後の選挙対策に万全を期すことができると考えたのだろう。ゴミ箱掃除そのものだ。これを冷たい奴と見るかどうかは、別の検討が必要である。

前の首席補佐官ダーレイーがveryを6回も使ってプラウとオバマの関係がprivateと言ったことで、私には二人の関係の謎が解けたように思う。
このprivateという言葉は、他の人には立ち入れない間柄という意味だ。

その間柄とは何だろうか？
ど素人のプラウが食いちぎられるに違いないと思った人がいたという“人種絡み、暴力団・テロリスト絡み、ゴミ漁りまでして相手の秘密を探り出す中傷合戦の泥仕合選挙”を生き残ったプラウである。包丁売りと煙突掃除で学費を稼いだ36歳の青年だ。裕福な生活で育ったのではない。プラウがここまできたのは自分の身体に鞭打った血と汗の結果だ。
一人の時には涙を流したかもしれない。しかし、人前ではけっして泣かなかったろう。異常なまでの負けず嫌いだから。

彼は、昨年11月、ロムニーにはcoreがないと言ったという。Coreは芯だ。
しかし、プラウにとっての芯とは何だろう？

“死ぬなら死ぬまでのこと”なのではなかろうか？
ここまで人生を開き直っていると考えると、相手が尊敬する大統領であろうが、人を人とも思わないかのようなプラウの言動のすべてに理解の線が引ける。

オバマ大統領だって同じことだ。
エリートの道を歩いた分だけ、人種も含め“生まれ”の苦労は生半可なものではなかったのは誰にでもわかる。
人前で泣いたら、それまでの人だ。

「だから日本はこうなった：外交」に書いたコペンハーゲンでの温家宝首相との“ほとんど殴りあい的”な駆け引きは、プラウに見る開き直りの強さと同じものだと今さらながら合点がいく。

fiercely unsentimentalと書いたLEIBOVICH氏の念頭には、恐らくベーナー（Boehner）下院議長があったと思う。ベーナー氏も豊かでない家に生まれ育った。下院議長になった就任演説で涙を流した。恵まれない境遇に負けずにこの地位にたどり着いたという感無量の涙である。これが、sentimentalである。
サーモボニックの社長であった時、従業員に京セラ出身者が二名いた。彼らから聞いた話だが、稲盛社長が挨拶の終わりに、「うさぎ追いし、かの山～」と故郷の鹿児島を偲んで歌ったそうだ。彼らは感激したと言う。
歌うのも感激するのも、それがsentimental。
それをクサイと言う者もいる。”ふんっ”てなもんだ。

オバマもプラウもクサイと言うだろう。
血と汗は誰もが流す。流して当たり前。しかし、人前で涙を流すな。人の涙を誘うな。苦労して相応の地位に着いたからといって、それが何だというんだ。
これが、fiercely unsentimentalの意味だ。

他人には入り込む余地のないprivateな関係というのは、これだ。

“酒と涙と男と女”をカラオケする私もあなたもプラウになれない。プラウに似ている中田宏さん、あなたは歌わないだろうね？

そこで、ゴミ箱掃除なのだが、記事に、“I don’t know that he has a passion for the middle class, or the environment, or whatever it is,” said Steve Elmendorf, a Democratic lobbyist and close friend. “He has a passion for winning and a passion for putting together the operation to do so.”とある。
これが、アクセルロッドとプラウの最も違うところだ。
Middle classや環境に関する“情熱”というのは、いわゆる“信念”とか“理念”というやつだ。アメリカ

の復活はmiddle classの再構築にあり、中国などの新興諸国と経済競争には環境問題で優位に立つことが必要なのだから、それは勝つための手段（手法）であって信念と理念に合致していればそれでいい。何も、信念だ、理念だと喚く必要もない。
そして手段だから、勝つためにはputting together the operation to do soになるのだ。

プラウが冷たい性格かどうか私は知らない。
しかし、私の言う“無機”の部分を重視する性格であることは確かだ。
オバマ大統領にもその傾向はある。
コペンハーゲン（2009年）で、炭酸ガス排出の数値目標を定めないと決めたら、一丁上がりだ。2010年のメキシコIPCCでも2011年の南アIPCCでもその通りになった。アメリカ国内でも話題にもならなくなってしまった。そして、EPA（アメリカ環境庁）の規制だけはどんどん厳しくなっている。共和党がいくら文句言おうがお構いなしだ。一丁上がりまでは慎重に、慎重にやるが決めたらけっして後戻りしない。
”無機”の部分を冷たいというかどうかは好み（？）の問題だと思う。いずれにしても”無機”がなければ物事の進歩などあり得ない。

LEIBOVICH氏の記事を私は大変興味深く読んだ。これだけ傍証を豊富に引用して人を描く記事にはめったにお目にかかれない。

氏は、このような結論を書いていないが、私は、プラウはこの3年間の共和党のやってきたことをあらゆる角度から分析して殴り合いをやれば勝てると考えたのだと思う。
こんなこともとっくに視野に入っていたのだろう。
「**Auto Workers Tap Network for Obama**」（February 24, 2012）

STEVEN RATTNERは、G.M.とクライスラー救済チームのリーダーだった。ロムニーの2008年当時の救済反対論を幻想と切り捨てるOp-Edである。
「**Delusions About the Detroit Bailout**」（By STEVEN RATTNER: February 23, 2012）

「2月22日のエントリー後、四日間、約60時間かけて練りに練った渾身のブログです。」と書いたら、それはsentimental。
何時間かけようと読む人には何の関係もない。「60時間の割にはつまんないブログだな。」と言われてそれまで。

前原さんが悪い。しかし、それだけではない：産経記者締め出し事件 - 2012.02.27 Mon

「日本の政治家は戦略立案グループを持っていない」と思ったのは前原さんが民主党代表であった時の偽メール事件だ。
秘書団ともブレーンと呼ばれる学者などのことではない。
大統領になる前のオバマ上院議員に対するアクセルロッドやプラウに相当する人たちのことである。

偽メール事件は6年前、2006年2月のことである。
それ以後数年間の下記ブログを読み返すと前原さんの思考回路にほとんど変化はないようである。

「日本の代議士は戦略立案グループを持っていない」と思ったのは前原さんが民主党代表であった時の偽メール事件だ。
秘書団ともブレーンと呼ばれる学者などのことではない。
大統領になる前のオバマ上院議員に対するアクセルロッドやプラウに相当する人たちのことである。

偽メール事件は6年前、2006年2月のことである。
それ以後数年間の下記ブログを読み返すと前原さんの思考回路にほとんど変化はないようである。

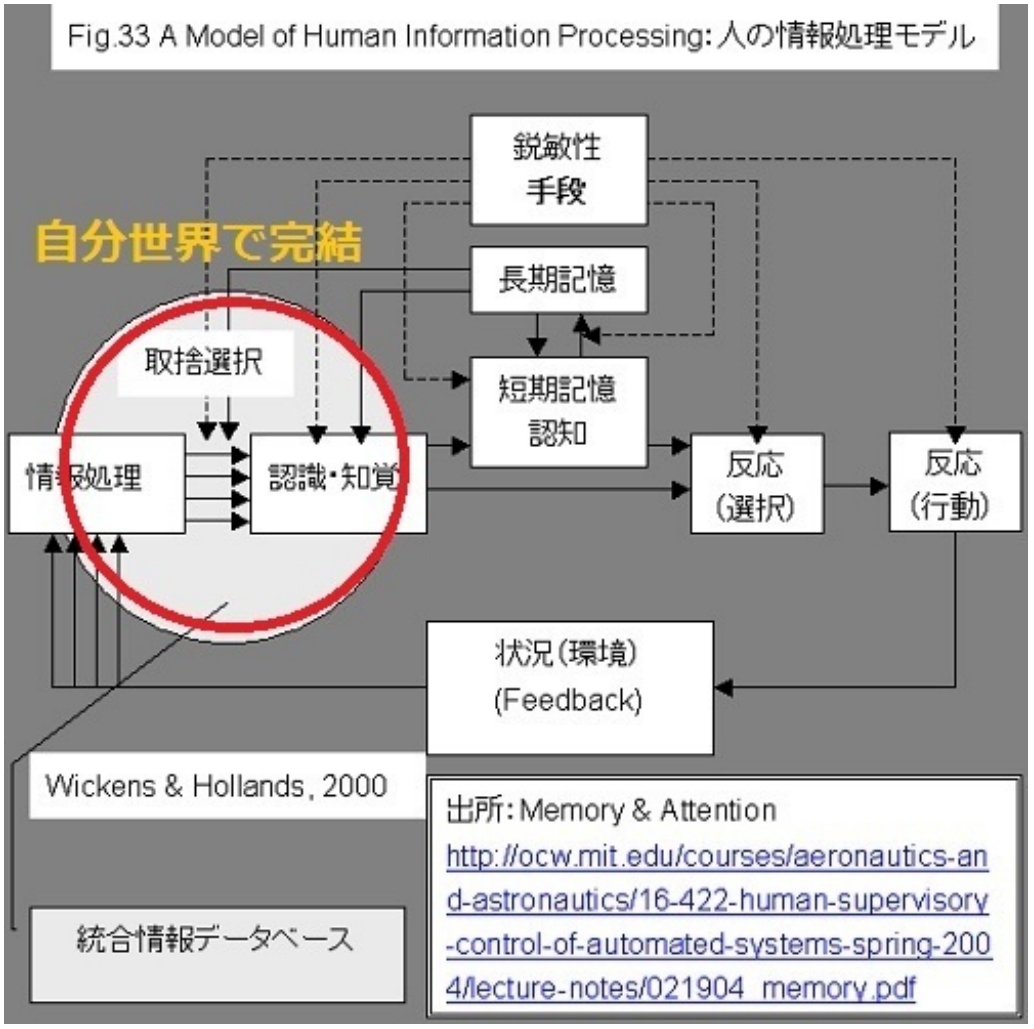
「ロジカルシンキング・セミナー案内状が必要な民主党」（2006.02.22）
http://stratpreneur.chalaza.net/?eid=33
「小泉首相の“ガセネタ”と前原代表の“ぶら下がり”」（2006.02.26）
http://stratpreneur.chalaza.net/?eid=36
「可哀そうな永田議員」（2006.03.11）
http://stratpreneur.chalaza.net/?eid=45
「和を持って、尊しとなす」（2006.03.15）
http://stratpreneur.chalaza.net/?eid=48
「前原さん、腹を据えてください」（2009.03.27）
http://stratpreneur.chalaza.net/?eid=374
「八ッ場ダム中止か続行か；どう判断しますか？」（2009.09.24）
http://stratpreneur.chalaza.net/?eid=443
「政権移行演習内閣の後」（2009.12.14）
http://stratpreneur.chalaza.net/?eid=474

今回の産経新聞締め出し発言を聞いてもまたかという程度で驚くことはない。
京都大学を出ようが松下政経塾を出ようが、この人の思考回路はまともではない。

情報処理ができないのだ。

これは、“自分世界が完結”している人の特徴である。
何かに疑問を感じても全部自分世界が答えを出す。
自分世界（にいる他人を含めて）外の人の考えを聞く必要もない。

論文「メンタル・モデル」にある図で示すとこの赤で囲った部分が自分世界なのである。



政治家になった人は、元々かなり異質な人たちと考えなければならない。
お金のためであろうが他の人々のためであろうが、当選するには大変な努力が必要である。お金も掛かる。自分には上に立つ資格がある、つまり人より優秀と思わなければやれないことだ。
ここに、最初っから“上から目線”になる原因がある。
多くの政治家にとって有権者は愚民なのだ。

オバマ大統領にしても、そのような“自分世界”を持っている。
プラウが引き受ける時の会話（戦略家たちパート1）を思い出して欲しい。
プラウは、「あなたは何も決められない。車の運転もできない。資金調達だけに専心できるか？」と問いかけた時、オバマは、「大抵のことをやらせれば自分が一番できる。」と答えている。
オバマの偉いところは、「それでも、そうするよう心がけよう。」と言い、実際にそうしたことだ。
如何に優秀であろうが、政治家一人だけで大したことはできない。
“自分世界”を解き放ち、“他人世界”と融合しなければならないのだ。
前原さんにそうすることはできないと思う。
しかし、彼だけでなく他の政治家にもそれができるかどうか疑問である。

これが日本の政治家と政治状況の課題の一つと思う。

問題が二つある。
一つは、政治家が“自分世界”を解き放つことができるかということ。
これは、個人の問題なので政治家次第だ。

もう一つがより大きな問題。

アクセルロッドやプラウ的な戦略家を雇うには多額の資金が必要になる。本当に優秀な戦略家を雇うなら年収2000万円程度は必要だ。コンサルタントやシンクタンクなどの頭でっかちでなく、民間企業で新規プロジェクトを立ち上げるような人材だ。安い給料などで雇えない。3人雇えば6000万円だ。さらに、そのような人材を見抜く目がなければならない。
一昨年、“たちあがれ日本”結党前に平沼氏とコンタクト（メールのみ）したことがあるが、やっぱり戦略家を持っていない。単なる秘書だけだ。平沼氏は資金力がありそうだが、やっぱり石原都知事とか他の“自分世界”政治家の小さな枠の中に生きているに過ぎないと思う。
マーケティング・センスがないと何度か書いたが、結局、そういう人材を持っていないのだ。

民主党になって官僚出身の補佐官的な人を持つようになったが、官僚そのものが“自分世界”の住人である。官庁からの出向者で固めるのでは官僚と対峙することなどできない。

前原さんは2009年の衆議院選挙の京都府第2区で10万票以上を獲得してトップ当選した。2006年に資質として問題のあることがわかったが、メンタル・モデルまで分析していない。
メンタル・モデル分析は、前原さんという人の批判のようだがそうではない。メンタル・モデルを批判しているのである。
メンタル・モデルを構築し直すのは前原さんしかできない。構築し直せない場合は前原さんを批判することになる。

総理大臣甲子園は、愚民でない証拠を突き付ける行動であるが、前原さん的なメンタル・モデルを持つ人にお引取り願うこともしなければならない。できるだけ早い機会に地元有権者が気付かなければ税金の無駄遣いになる。国会議員の歳費は何も地元民が払っている訳ではないからだ。6年後の今もこの調子なら、お辞めになった方が氏のためにも有権者のためにもなると思う。

産経新聞の「主張」をブログした中に、民主党議員のメンタル・モデル分析的なものがある。なるほどなぁと感心する内容である。記述を読むとこの方のような人が戦略家的な人だ。民間企業には必ずそういう人がいる。

衛星ブログとして注目すべきものと思う。

Road to 総理大臣甲子園

http://p.booklog.jp/book/45439

著者：HideoJapan
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/hzwatanabe/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/45439

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/45439

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.